

文化庁委託事業

「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業」

グッドプラクティス

令和5年4月

株式会社 JR西日本コミュニケーションズ

■プロセス1

講師用報告書を資料とし、「[グッドプラクティス抽出要素](#)」、「[選定基準](#)」（次ページ）をベースに、JaLSAの監修のもと候補を抽出

■プロセス2

グッドプラクティスの学校への通知、及び内容の確認（必要に応じて内容の加筆、修正）

■プロセス3

有識者、JaLSAによるグッドプラクティスの最終確認及び決定

1. 授業展開及び内容

- 授業に参加しやすい環境づくり
 - ・授業の開始時などに今日の出来事などを話してもらうなど学習者間の交流を促進する、ペアワーク、促進レベルによっては 母語でのサポートがあるなどオンラインで学ぶ学習者が不安を感じずに参加できる環境を整えている
- 学習者の日本語レベルに合わせた課題や授業内容の設定
 - ・学習者がクリアしやすい課題の設定などがされている
 - ・A1～Cの日本語レベルにあわせた授業展開が実施されている
- 情報（内容）を共有しやすい環境づくり
 - ・活動のテーマや学習内容の説明、発表内容の共有の方法（やり方）が工夫されている
- アウトプットに重点を置いた授業
 - ・反転授業を積極的に取り入れるなど、アウトプットに重点を置いた授業を実践されている
- 授業進行において、一連のPDCA的な要素が組み込まれている
 - ・教師とのやり取り、ペアワーク、グループワークを通して理解出来ていない部分の確認と指導、感想など
- 実践的な授業内容
 - ・日常会話、ビジネス会話、が実際に話せるようになることに重点
 - ・実際の日常・ビジネスシーンの想定による授業に重点 例）実際の日常・ビジネスシーンの想定によるロールプレイなど
 - ・実際に日本で生活できることに重点 例）日本のマナーや文化、生活習慣などの理解

2. 学習者の学力レベルの把握

- 教師と学生の1対1のやり取りを通じてレベルを把握
- 学習者同士のペアワーク、ディスカッションを行う中で、教師からのフィードバックや他の学習者のアウトプットを聞くことで把握するなど、（教師と）学習者自身が（自分のレベルを）把握
- 言語テストの活用で把握

3. 教材の有効活用

- 学習目的、レベル、オンライン授業の形式に合わせた教材の選定や、オリジナルの授業用動画やスライド等を活用している
 - （例1）来日が決まっている待機生のクラスで、日本語学校入学後の学習に慣れることを想定しているため、クラスで使用している教材を選んでいる
 - （例2）学校がある地域を知ってもらうという目的のため、市販教材を使用せずに、オリジナルのスライドを作成し、それを教材として活用している
 - （例3）オンデマンド型授業のために、A1の学生のために翻訳を入れたり、繰り返し見て楽しめるような工夫をした動画を作成した

4. ツールの有効活用

- カメラやチャット、ブレイクアウトルーム機能、GoodNotes、Quizlet（クイズレット）、Padlet、漢字の書き順アプリなどツールの有効活用

5. 選定基準

- 目標（課題設定）、授業内容、評価方法に一貫性がある
- レベルと目標の整合性がある
- 言語活動と授業内容の整合性がある
- ★オンラインの特性を活かした工夫がされている
- ★学校ならではの特色があり、他の学校の参考となる
- ★学習者のレベル、母語、学習目的を踏まえた工夫がされている

グットプラクティス一覧

学校名	番号	コース名	レベル	スタイル	目的	言語活動
早稲田進学館中野校	1	会話練習 ハイフレックスA 1コース	A1	ハイフレックス	一般	話す (やりとり)
	2	遊べる学べる日本 (初級)	A2	オンラインのみ	一般	聞く
新白河国際教育学院	3	ハイフレックス一般A2コース	A2	ハイフレックス	一般	話す (やりとり)
	4	ハイフレックス一般A2コース	A2	ハイフレックス	一般	読む
JCLI日本語学校	5	基礎日本語	A2	オンデマンド	進学	書く
	6	基礎日本語	A2	オンデマンド	進学	日本事情・日本理解
さきたま国際学院	7	進学準備コース【N5】D	A1	ハイブリッド	就職	書く
東京外国教育学院	8	進学コース (初級)	A2	ハイブリッド	進学	話す (やりとり)
翰林日本語学院	9	初級授業体験コースロシア向け (初級)	A1	オンラインのみ	就職	話す (やりとり)
	10	JLPTN5直前対策	A1	ハイフレックス	一般	その他
	11	アカデミックジャパニーズ聴解コース2	B2	ハイブリッド	進学	話す (やりとり)
	12	動画で学ぶ日本語 東京・箱根	C	オンラインのみ	進学	話す (やりとり)
	13	動画で学ぶ日本語 大阪・京都	C	オンラインのみ	進学	話す (発表)
	14	就職活動準備コース	C	ハイブリッド	就職	話す (発表)
	15	就職活動準備コース	C	ハイブリッド	就職	読む
ファーストスタディ日本語学校大阪本校	16	ハイブリッド一般A2コース	A2	ハイブリッド	一般	話す (やりとり)
	17	ハイブリッド一般A2コース	A2	ハイブリッド	一般	話す (発表)
	18	オンデマンド一般B1コース	B1	オンデマンド	一般	聞く
	19	オンデマンド一般B1コース	B1	オンデマンド	一般	日本事情・日本理解
	20	オンデマンド一般B2コース	B2	オンデマンド	一般	日本事情・日本理解
神戸YMCA学院専門学校日本語学科	21	夏期集中コース (観光)	A2	ハイブリッド	一般	話す (やりとり)
市川日本語学院	22	N5文法③ (12月)	A2	オンラインのみ	一般	話す (やりとり)
行知学園第二附属日本語学校	23	進学準備コース	A1	オンラインのみ	進学	聞く
	24	進学準備コース	A1	オンラインのみ	進学	日本事情・日本理解
アジアインターナショナル	25	ハイブリッド進学A1コース	A1	ハイブリッド	進学	話す (やりとり)
	26	ハイブリッド進学A2コース	A2	ハイブリッド	進学	話す (発表)
	27	ハイブリッド進学A2コース	A2	ハイブリッド	進学	聞く
仙台ランゲージスクール	28	オンデマンド一般コース(A2)	A2	オンデマンド	一般	話す (やりとり)
	29	オンデマンド一般コース(A2)	A2	オンデマンド	一般	その他
	30	オンデマンド一般コース(B1)	B1	オンデマンド	一般	話す (やりとり)
ITカレッジ沖縄	31	一般コース	A1	ハイブリッド	一般	話す (発表)

レベル	A1	スタイル	ハイフレックス	目的	一般	言語活動	話す（やりとり）
教育機関名	早稲田進学館中野校			コース名	会話練習 ハイフレックスA 1コース		
受講人数	5名	受講生年代	20代/30代/40代以上	受講生居住国	中国/台湾/日本		
コースの概要	<p>概要：初級テキスト「できる日本語」を用いて、各課で提示される状況イラストから「こんなとき何と言うか」を考え、自分の知っている日本語で話すトレーニングを行う。</p> <p>受講学生：台湾(台北、高雄在住の社会人2名)と、弊社所属の学生(初級2名)が本科の補講として、コース終盤から初級学生のルームメイト(上級所属)が参加</p> <p>目的：多少日本語知識があるものの、発話機会に恵まれなかった学生たちを状況イラストを用いて場面ごとの会話に連れ出し、日本語への親しみ、会話力の向上を目指す。</p>						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	<p>個人的なことについて簡単な質問を聞いたり、答えたり、することができる。</p> <p>個人的なことや、住んでいる場所について、簡単な語句を並べて説明することができる。</p>						
実践 内容	初級総合教材を活用した事前学習の後の「話す（やりとり）」を中心とした指導実践。動画による語彙・文法の事前学習の後、それらを活用した会話を練習する指導実践			使用 教材	個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）/市販の教材(株式会社アルク「できる日本語 初級本冊」)		
				使用 教具	スライド（パワーポイント等）		
				評価 方法	パフォーマンス評価⇒スピーチやプレゼンテーション,ロールプレイ		
授業の ポイント	<p>導入イラストから「こんなときどう言うか」を推測させ、言わせる。その後導入CDを聞き確認。パターン練習を経て最後に実際に「使う」活動として話題を設定し会話をさせた。人数が減り参加メンバーが安定してからは各学生の故郷や実際の生活について導入文型を使って話す、尋ね合う活動も取り入れ、それぞれの地域の観光地や食事、気候、有名なポイントについての下調べをこちらで十分に行い、それを話題にすることで、より実践に近い会話ができたと感じる。</p> <p>特に工夫した点としては教室とオンラインの双方向に効率よく指示を行うため一挙手一投足までをPPT上で行った点で、うっかり音声や声の指示を聞き漏らしても、画面を見ればすぐに今の指示内容が理解できるようにした。これにより時間を効率よく使うことができたが、逆に言えばこれをしないと効率良いハイフレックスは難しいとも言える。ただ指示を「見る」活動に専念するあまり、耳で指示を受け取ることが若干疎かになった点も否めず、やや過保護気味だったかもしれない。</p>			学習 効果 (総括)	<p>コースを最後まで参加した男子学生は留級候補だったが、会話力を伸ばし、本課の授業でも自信をつけ、成績を大きく伸ばし進級した。もう一人の女子学生は期末テストで成績を伸ばしたため、順当な進級ではなく飛び級とした。いずれの学生も事前配布動画をしっかり見てきており、今コースについては予習の習慣づけとしても、補講としても意義があり、弊社のカリキュラムに組み込んでもよいのではないかと感じた。反省点としては、コース序盤に学生たちにコース参加の意義を正しくアピールすることができず、大半の学生が初回授業で離脱してしまった。先にも述べた通り、結果として完走した学生に関してはそれなりの意義があったため、事前説明もじっくり時間をかけて行うべきだった。</p>		
				選定 ポイント	<p>A1レベルに合わせた課題設定を行い、課題達成までに丁寧なスモールステップを設けている。予習動画を使用することで、アウトプット中心に授業展開ができている。学習者同士がお互いに日本語を使って尋ね合う活動を行うことで学習動機の向上につながっている。</p>		

レベル	A2	スタイル	オンラインのみ	目的	一般	言語活動	聞く
教育機関名	早稲田進学館中野校			コース名	遊べる学べる日本（初級）		
受講人数	8名	受講生年代	10代/20代	受講生居住国	中国/台湾		
コースの概要	日本語レベル：A2。受講対象者：中国と台湾に在住する来日希望者（旅行、留学、就職等理由は問わず）授業形式：ZOOMによるオンライン授業。 目的：日本に関心がある（日本に来てみたい）という中国語圏の日本語学習者を対象に、日本の観光地や文化を紹介しながら、その場面ごとに必要とされる初級レベルの日本語を教える。（誰でも気軽に参加できるよう自宅学習は強制しない。）教材：「遊べる学べる」「トラベル学べる」の東京（チームラボ・未来日本酒）箱根（箱根神社）大阪（USJ）姫路城						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	講師の話す初級レベルの日本語が聴きとれて、こちらの簡単な質問にレベル相応の語彙や文型を使って応じることができる。 レストランや窓口で店員や係員の簡単な日本語が聴きとれ、その場面でよく使われるごく基本的な表現を使って応じることができる。 友人が発話する「気持ちや状況を表す日本語」が聴きとれ、それにごく簡単な言葉で、同意する等して応じることができる。						
実践 内容	日本各地の観光地を紹介する動画教材を使用した指導実践			使用 教材	動画教材「遊べる学べる」/動画教材「トラベル学べる」/「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材		
				使用 教具	スライド（パワーポイント等）		
				評価 方法	パフォーマンス評価⇒ロールプレイ・その他のパフォーマンス評価(授業時の講師が言ったことが理解できているかどうか)		
授業の ポイント	<p>「遊べる学べる」「トラベル学べる」では初級学習者にとってはかなり難しい表現やくださった会話表現があったが、まずは視聴して聴きとれた表現、語彙を確認した。</p> <p>その後、初級レベルかどうか、よく耳にする語彙（カタカナ語を多めに）や表現（会話でよく使うもの）かどうかという観点から、ある程度絞ってそれを説明。受講者が全て中国語圏だったため、特に苦手とするカタカナ語の聴き取りを重点的にを行い、元の英単語と合わせて発音の違いや使い方を確認した。また、表現はN5レベルでも十分理解できて会話でよく使う表現を選んだ。説明する時は、オンライン授業だったのでPPTに画像を多く入れたり、「アニメーション」機能多用したりして飽きさせない工夫をした。</p> <p>そして、動画の中でその語彙表現が使われた場面だけ再生して再視聴。</p> <p>最後に、習った表現を用いた、パターン化された会話練習を行い、その中から一部ごく短いロールプレイまで進んだ。自ら発話することで、聴き取りの力も向上させる。</p>			学習 効果 (総括)	<p>コースの性格上聞くことに関しては復習ができなかったこと、授業時間自体の少なさから、実際にどれほど聴解力が向上したか測定はできないが、少なくとも以下のことについては達成できた。</p> <p>①くださった日常会話表現の中に初級レベルの文法・語彙で十分聞き取りが可能なものがあること、またそれらが実際によく使われていることを理解する。</p> <p>②日本語のカタカナ語がもとの英語とは全く違う発音であり、（語によっては使い方も含めて）別の言葉であることを理解する。</p> <p>③聞き取りの際にもカタカナ語が重要であることを認識する。（中国語圏の学習者は頭の中で漢字変換できないカタカナ語の語彙を苦手とする傾向がある）</p>		
				選定 ポイント	受講生のレベルに応じた動画教材の利用をしている。また受講生の特性をふまえた上で、ポイントを絞って「聞く」練習を行っている。		

レベル	A2	スタイル	ハイフレックス	目的	一般	言語活動	話す（やりとり）
教育機関名	新白河国際教育学院			コース名	ハイフレックス一般A2コース		
受講人数	5名	受講生年代	10代/20代	受講生居住国	ネパール/日本		
コースの概要	日本語の学習を通じて日本留学の意思を維持し、又は強化するための本校への留学希望者並びに本校の学生の日本語能力のさらなる向上を図るためのハイフレックス授業。コロナ禍において留学意思を持続させる点を重視し、楽しく学習できることを目標とした。						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	場面に応じて、適切なあいさつの表現ができるようになる。店で店員との簡単なやりとりで要望を伝えたり商品について尋ねたりして買い物や返品はできるようになる。飲食店で注文・支払いをたりお薦めを尋ねたりできるようになる。宅配便の制度を知り宅配便を送ったり受け取ったりできるようになる。周囲の人に道や所要時間を尋ね、また電車を利用するなどして目的地に行けるようになる。周囲の人に道や所要時間を尋ね、また電車を利用するなどして目的地に行けるようになる。Ex)「日本語教育の参照枠」（文化庁）39頁A2(31),(32)等						
実践内容	動画による語彙・文法の事前学習の後、それらを活用した会話を練習する指導実践 会話動画の事前視聴の後、語彙・表現等を解説する指導実践			使用教材	市販の教材(『できる日本語 初級』『できる日本語 初中級』(アルク))/日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材(つながるひろがるにほんごでのくらし)		
				使用教具	レアリア（教室にある机や飲料、窓から見える町にある物等）・生教材（インターネット上の一般のサイト等）を使用してそれらをもとにした会話指導		
				評価方法	パフォーマンス評価⇒ロールプレイ		
授業のポイント	動画教材をベースにしたロールプレイ、大切な表現のコラス等。 使用した動画教材（「つなひろ」）の場合、学生が理解できる言語の字幕も使うことができたので、まずは全体的に場・内容を理解してもらうことに重点を置いた。その上で、まとまった表現の映像を繰り返し復習させて、まとまりのある日本語表現の発話ができることの喜びを感じて体感してもらった。オンラインで参加する学生には発話の機会を与えることに特に気をつけた。なお受講生により要求した事前学習をしていない場合もあったので、その場合は、授業内で再度動画を見せた上で授業を実施した。			学習効果(総括)	動画を用いることで表現を場面に結びつけて捉えることができた点は良かった。 他方、課した事前学習としてのビデオ視聴をしていない学生も見受けられるなどの問題があった。ハイフレックス（オンデマンドも）は学習意欲の高い学生であれば一定の学習効果をあげられそうに思うが、学習意欲は学生により異なるため、実際の授業で効果を上げるのは難しい側面もあるように思う。		
				選定ポイント	日本での生活を想定した具体的な課題設定があり、それに向け、アウトプット中心の授業を行っている。動画を使用することでやりとりが行われる場面、しぐさなどの非言語の情報をわかりやすく示すことができている。		

レベル	A2	スタイル	ハイフレックス	目的	一般	言語活動	読む
教育機関名	新白河国際教育学院			コース名	ハイフレックス一般A2コース		
受講人数	5名	受講生年代	10代/20代	受講生居住国	ネパール/日本		
コースの概要	日本語の学習を通じて日本留学の意思を維持し、又は強化するための本校への留学希望者並びに本校の学生の日本語能力のさらなる向上を図るためのハイフレックス授業。コロナ禍において留学意思を持続させる点を重視し、楽しく学習できることを目標とした。						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	小売店で買い物をしたりレストランで注文をするなど（言語活動「話す（やりとり）」の目標に掲げた活動）の学習目標を実現するために必要な範囲でメニューや看板、標識などが何を示すか理解することができる。Ex)「日本語教育の参照枠」（文化庁）30頁A2(5)(6)等						
実践内容	オリジナル教材を事前学習した後の文字・語彙・文法の指導実践 その他（動画教材に出てくる用語の読み取りと意味を理解させる。）			使用教材	市販の教材(『できる日本語 初級』『できる日本語 初中級』(アルク))/日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材(つながるひろがるにほんごでのくらし)		
				使用教具	スライド（パワーポイント等）		
				評価方法	パフォーマンス評価⇒スピーチやプレゼンテーション		
授業のポイント	動画中の掲示等の表示が何を意味するか確認。また（視聴し理解し終えたものの）動画教材のスク립ト・副教材の読み取りや、音読・リプロダクションなど。 また学生に関連項目をインターネットで検索させて、簡単な箇所を読み取らせて説明させるなど。 なお受講生により要求した事前学習をしていない場合もあったので、その場合は、授業内で再度動画を見せた上で授業を実施した。			学習効果 (総括)	動画があることで店内の掲示など用いられる場面と結びつけて理解できたのは良かった。他方、課した事前学習としてのビデオ視聴をしていない学生も見受けられるなどの問題があった。ハイフレックス（オンデマンド）は学習意欲の高い学生であれば一定の学習効果をあげられそうに思うが、学習意欲は学生により異なるため、実際の授業で効果を上げるのは難しい側面もあるように思う。		
				選定ポイント	日本での生活を想定した具体的な課題設定がある。 動画を使用することで来日後の生活場面をイメージしやすくなり、学習動機に繋がっている。		

レベル	A2	スタイル	オンデマンド	目的	進学	言語活動	書く
教育機関名	JCLI日本語学校			コース名	基礎日本語		
受講人数	4名	受講生年代	20代	受講生居住国	ネパール		
コースの概要	日本留学が決定した学生に対して、実践的な生活の日本語を中心に学習してもらう。日本の文化や生活事情をオンライン教材で事前に学習することで、語学力の向上と同時に入国後の日本での円滑な生活につなげる。反転学習によって、母語による理解後に日本語だけの授業を行うことで理解を深め、日本への興味意欲を最大限に引き出して来日に備える。						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	(書く)漢字の書き順と読み方を覚え、書くことができる字を増やす。						
実践 内容	<ul style="list-style-type: none"> 日本語学習サイト「つながるひろがるにほんごでのくらし」 漢字の書き方を事前学習した後の書き方を練習する指導実践 			使用 教材	日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材(Microsoft「書き順付き文字スライド」)		
				使用 教具	スライド(パワーポイント等)、オリジナル漢字プリント		
				評価 方法	試験⇒筆記試験		
授業の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 毎回、必要な漢字についてPowerPointの書き順動画を視聴した後、右手で空書を3回ほど行ってもらい、教師がその動きをチェックする。その後、実際に紙に書いてもらう。 現地日本語学校と連携し、既習漢字や現地の要望を踏まえて漢字を選定。 反転学習によって、母語により語彙の意味を理解した後に日本語だけの授業を行う。 空書を行う事で書き順を意識させた。実際に書くのは2回に留める。オンラインの特性をふまえ、「画面に細部が映らない」ため確認することにこだわらない。 			学習 効果 (総括)	<p>生活で必要とされる日本語の場面を取捨選択し、留学生が入国後に必要と思われる項目や語彙を重点的に指導し、日本の生活をイメージさせる事ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現地と連携したことで、学習者の漢字学習への意欲を高める、維持ができた。 体を使うことで記憶に残りやすく、気分転換にもつながった。 		
				選定 ポイント	画面越しでは確認しにくい漢字の書き順や字形を、紙の上を書くではなくツールで見せたり、空書をする事で確認するなどの工夫をしている。		

レベル	A2	スタイル	オンデマンド	目的		進学		言語活動	日本事情・日本理解
教育機関名	JCLI日本語学校			コース名	基礎日本語				
受講人数	4名	受講生年代	20代	受講生居住国	ネパール				
コースの概要	日本留学が決定した学生に対して、実践的な生活の日本語を中心に学習してもらう。日本の文化や生活事情をオンライン教材で事前に学習することで、語学力の向上と同時に入国後の日本での円滑な生活につなげる。反転学習によって、母語による理解後に日本語だけの授業を行うことで理解を深め、日本への興味意欲を最大限に引き出して来日に備える。								
授業の目標 (課題設定 Can Do)	(話す) 学習動画の場面に出てくる日本文化を理解し、自国との違いや意見を述べるができる。日本の生活や文化を学び、入国後のオリエンテーションやスムーズな学生生活につなげる。								
実践 内容	事前に学習者が日本語学習サイト「つながるひろがるにほんごでの暮らし」を学習した後で参加する反転授業			使用 教材	日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材(つながるひろがるにほんごでの暮らし)、「まるごと」の語彙帳				
				使用 教具	スライド(パワーポイント等)				
				評価 方法	パフォーマンス評価⇒口頭試験・スピーチやプレゼンテーション				
授業の ポイント	以下のステップにて実施。 STEP1 授業前に指定する場面の視聴を指示、事前に語彙プリントを配布(現地学校教師に依頼) STEP2 授業内で動画を再視聴し、スクリプトを読み発音チェック ※日本語だけではなく、字幕付きページを適宜使用し、学習者の内容理解を深めた ※「まるごと」の語彙帳を補助教材として使用した STEP3 動画内の内容を質問、学習文型を説明して作文 STEP4 学習内容に即したテーマを提示し、それについて意見発表、フィードバック			学習 効果 (総括)	<ul style="list-style-type: none"> 生活で必要とされる日本語の場面を取捨選択し、留学生在入国後に必要と思われる項目や語彙を重点的に指導し、日本の生活をイメージさせる事ができた。 入国前から教職員と接することで、学校への愛着を持ってもらえる。また、当校以外への留学を決めた学生も、日本に知っている教師がいるという安心感を持ってもらえた。 従来は入国前の学生は営業担当としか面識がなかったが、教員が授業を行う事によって授業開始前に学生のレベルを理解して新学期の準備に臨むことができた。 				
				選定 ポイント	インターネット上の学習サイトを活用するなど、日本での生活を想定した実践的な活動を取り入れ、学びを促している。				

レベル	A1	スタイル	ハイブリッド	目的	就職	言語活動	書く
教育機関名	さきたま国際学院			コース名	進学準備コース【N5】D		
受講人数	15名	受講生年代	10代/20代/30代	受講生居住国	ベトナム		
コースの概要	日本留学に向けたモチベーションと日本語能力の維持・向上を目的とし、みんなの日本語オンライン電子版及び書籍版を使用し主要な課の復習を行った。						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	<p>「日本語教育の参照枠（報告）」48p.書くこと：A1、(4)(5)を基にし、</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語でキーボードタイピングを行うことができる 短い簡単な文章を送信することができる 						
実践内容	初級総合教材を活用した「書く」を中心にした指導実践			使用教材	市販の教材(みんなの日本語/スリーエーネットワーク)		
				使用教具	スライド（パワーポイント等）		
				評価方法	パフォーマンス評価⇒その他パフォーマンス評価(担当講師による授業内での評価)		
授業のポイント	<p>授業の中で、その課において学んだ文型を用いた例文を作成する。あるいは聴解に該当する練習をディクテーションし個々のスマートフォン・PCから打ち込むZOOMのチャット機能を活用した練習を行った。キーボード等を利用して日本語を打つことは、例えば「が」であれば「g-a」など、その文字を理解していなければ達成することはできない。四苦八苦しながらも最終的にはほぼ全ての学生に順応と練達が見られた。実施した意義として、日本社会で生活していくためには様々な側面で日本語を入力する場面に出会うことが予想されることから。課題として、入力が行えない、または遅くなる学生がいたとして一斉授業の中で担当講師が個別に解決策を提示することは難しく、授業後に録画を確認し、うまくできていなかった学生には個々に連絡を取ることで解決を図った。</p>			学習効果(総括)	<p>JLPTや特定技能に関わる試験のオンライン登録が自力で行えるようになった。</p> <p>Facebook等のSNSで日本語により自分の感情や感想を表したコメントを打ち込めるようになった。</p>		
				選定ポイント	<p>来日後に参加する日本語学校の授業スタイルを体験することを目的に、通常の授業スタイルで授業を行っているが、「書く」に関しては、チャット機能を使用し、「打つ」ことで回答を確認している。学習者の理解度に合わせ個別対応を行い、それが成果につながっている。</p>		

レベル	A2	スタイル	ハイブリッド	目的	進学	言語活動	話す（やりとり）
教育機関名	東京外語教育学院			コース名	進学コース（初級）		
受講人数	19名	受講生年代	10代/20代/30代	受講生居住国	中国/タイ/シエラレオネ		
コースの概要	「みんなの日本語（初級）Ⅱ」を使用し、第26～33課まで授業を進めました。基本的な文法や表現（みんなの日本語（初級）Ⅰ）相当）が身につけている前提で授業を行いました。尚、オンラインの学生が使用したデバイスについては、特に集計を取っていませんでしたので、把握していません。						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	「みんなの日本語Ⅰ」で学習した文法を使用しつつ、さらに発展した内容の会話をする事ができる。また、平易な語彙や文法で自国の文化や自身の家族や職業、好みなどについて話す事ができる。（日本語教育枠A2レベルを目指す）						
実践 内容	初級総合教材を活用した「話す（やりとり）」を中心とした指導実践 ただのイベントで終わらせるのではなく、通常の授業（日本での授業）とあまり差がない状態にすることで、講師陣がオンライン授業に対応できる力を養う機会とした。実際の日本での授業に近づけることで、海外の学生に当校の授業を体験してもらおうという狙いもあった。 その他（ハイブリッドであることを活かし、対面の学生とコミュニケーションを取るように促した。）			使用 教材	市販の教材(みんなの日本語Ⅱ)/動画教材「遊べる学べる」/動画教材「トラベル学べる」		
				使用 教具	スライド（パワーポイント等）、ホワイトボード（ZOOM付属の機能）		
				評価 方法	ロールプレイ/自己評価/相互評価		
授業の ポイント	教師が質問を投げかけることはもちろん、対面の学生ともコミュニケーションを取るように促した。「みんなの日本語Ⅱ」の会話を役割別（※ミラーさん＝学生A、田中さん＝学生B）にあてる際、一人は教室にいる学生、もう一人はオンラインの学生をあてるようにし、一緒に学んでいる一体感を味わえるようにした。また、そのようにすることで、自身の身近なことについて話しやすい環境作りをした。 また、JR西日本コミュニケーションズ作成の動画教材を鑑賞した後、日本の文化について講師が詳細を語るだけでなく、自国の慣習はどうであるか、どのような意見を持ったかなどの意見交換などをさせた。（自国の文化や慣習について平易な言葉で説明することができる。）			学習 効果 (総括)	海外の学生の中で、特に積極的に授業に参加していたタイの学生に在校生が興味を持ち、よく話しかけていた。 在校生にとっては良い復習となり、海外にいる学生にとっては日本語学習により深い興味を持つ機会になったのではと思う。		
				選定 ポイント	レベルに合わせた表現を用いて、自国の文化や自身のことを話すことを目標とした上で、ハイブリッドの利点を生かし、対面とオンラインの学習者のコミュニケーションを促す授業展開を行っている。結果として、対面・オンライン参加どちらの学習者も相手により深い興味を持つようになったことが分かる。		

レベル	A1	スタイル	オンラインのみ	目的	就職	言語活動	話す（やりとり）
教育機関名	翰林日本語学院			コース名	初級授業体験コースロシア向け（初級）		
受講人数	7名	受講生年代	10代/20代/30代	受講生居住国	ベトナム/ロシア		
コースの概要	日本語ゼロレベル～N5レベルまでの学習者が対象。毎回の授業で少しずつ自分のことについて話せることを増やしていくというコンセプトのもとで、オリジナルパワポ教材を作成。従来の段階的に進む文法的なステップにこだわらず、学習者が自分について話せるようになるための表現、文型や、語彙を選び、毎回、いくつかの談話を提示し導入、教師から学習者への問答練習、学習者同士の問答練習の後に、最終的には、テーマについて書かれたモデル作文を提示し、それに自身についての内容をあてはめて書く作文にも挑戦してもらった。作文では、手書きできれいにかいてくれた学習者もいた。そのような作文はパドレットに投稿してもらった。当初は、ゼロレベルの学生がいたため、すべてローマ字表記にしたが、3回目以降は学習者の要望もあり、ひらがな表記にした。最終的にはひらがな読みができなかった学生も10回目にはかなりすらすら読めるようになった。名前や国、家族構成、年齢、誕生日からはじまり、好きなものについて比較級をつかっていい表すこと、また形容詞を使って自分の町、家、部屋について話すこと、さらに、動詞表現をつかって、日常生活の行動について時間や頻度なども取り入れながら話すことができるようになった。このように、毎回全く知らない同士だったクラスメートが、1週間に一度会って、それぞれのことについて語り合い知り合えるチャンスができ、みな楽しそうに学習していた。幸い、ベトナム人とロシア人の学習者が半々だったので、学習者同士で分からないとき助け合うこともできた。これは非常にみていて微笑ましいものであった。また、通信関係のトラブルも比較的少なく、学習者とのコンタクトもよかったのは恵まれていた。以上、週1回1時間であったが、かなり中身の濃い授業ができたと感じている。						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	毎回の課題目標を学習者に提示し、会話練習を実施。①自分の名前、国、家族、年齢、お誕生日について言える。家族の人数、家族構成なども言える。②好きなものについて話せる。何がすきか、あるグループの中でどれが一番好きか、何より何が好きかなどの比較級も使用できる。③自分の町、家、部屋について形容詞をつかって紹介できる。④寝る時間、起きる時間、1週間のスケジュールについて話せる。⑤日常的な行為について話せる。頻度についても言及できる。						
実践 内容	オリジナル教材を活用した「話す（やりとり）」を中心にした指導実践 語彙・文法指導の後、それらを活用した会話練習の指導実践			使用 教材	個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）/市販の教材(みんなの日本語)/日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材(いろいろ)		
授業の ポイント	授業手順 ①レッスンで使用するオリジナルパワポ教材をデータで送付し予習してもらおう。語彙、文法解説部分はすべて母語の翻訳付き。 ②簡単な会話文を提示し、例としてあげたことばをいれかえながら答えを言う練習。 ③ペアで例にあがっている会話文を練習。 ④同じ会話でことばを自分にあてはまるものに変えて自由に会話する。 オンライン授業のための工夫 ①パワポdataによる教材提示②パドレットによる課題提示と提出 コース・言語活動別の目的を達成するために行った工夫 オリジナル教材によってピンポイントに必要な語彙や文法を提供した。 学習者同士の会話においてお互いへの関心度を深めるため、それぞれの住んでいる場所をグーグルマップ(レリア教材)によって紹介し、それぞれの住まいからの距離を全員で確認した。これによってよりそれぞれの地域への関心がまし、会話への動機づけとなった。 理解度に合わせた工夫や配慮：初期におけるローマ字表記・同じ国の学生同士で助け合えるよう促す			使用 教具	スライド（パワーポイント等）/レリア・生教材		
	評価 方法	パフォーマンス評価⇒スピーチやプレゼンテーション/作文					
	学習 効果 (総括)	毎回、学習者同士が新たな情報を伝え合うことで、より親近感を増していき、他学習者への関心をもつことを継続できたことが大きな成果であった。話したいという気持ちは学習の大きな動機付けになり、学習者が、習った日本語を別人とも話してみたいという動機にもつながった。最初はほとんど話せなかった学生も習った日本語でコミュニケーションをとることができるようになった。					
	選定 ポイント	Can-doを受講生に提示することで受講生が学習成果を実感しやすい授業となっている。学習を通して受講生同士の交流を生み、学習の動機付けとなっている。					

レベル	A1	スタイル	ハイフレックス	目的	一般	言語活動	その他
教育機関名	翰林日本語学院			コース名	JLPTN5直前対策		
受講人数	3名	受講生年代	20代/30代	受講生居住国	日本/ロシア		
コースの概要	<p>・目標：初めてのJLPTに不安がなくなるようJLPTへの理解を深める。解説を通し、やりとりをする。・概要：JLPTの公開問題を使用し、直前対策を行った。オンライン公開の問題を使用し、事前に時間を決めて取り組んでもらったあと、独自に作成した解答解説動画で学習してもらった。試験結果とリクエストを送ってもらうことで当日の授業内容を決定し、当日は授業に加えてJLPTN5についての説明も行った。</p>						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	<p>・JLPTの試験について理解する ・解説動画を視聴し、説明を聞き取ることができる。 ・教師作成の資料（PPT）を読み取ることができる。 ・問題についてわからないことを教師に質問することができる。 ・感想を話すことができる。</p>						
実践 内容	JLPTなどの試験問題の解答解説の動画を見た後で参加する指導実践			使用 教材	学校オリジナルの教材/市販の教材(日本語能力試験JLPT 公式問題集N5)		
				使用 教具	電子黒板（MAXHUB） ・ スライド（パワーポイント等）		
				評価 方法	その他⇒その他(観察評価)		
授業の ポイント	<p>①事前にJLPTN5の公開問題を送り、各自で取り組んでもらう。 ②全員が終わったら解答と解説動画を送り、各自で採点と動画を見ての学習を行ってもらう。 ③採点結果を写真に撮って送ってもらい、間違いが多かった問題を確認。 ④授業当日は間違いが多かった部分のフィードバック、質問対応、N5の文法復習（リクエストに応じて助詞）、JLPTN5の試験についての説明を行う。</p> <p>日本にいる学習者にも、海外にいる学習者と同じ形で事前学習してもらった。授業当日は電子黒板を使用。PCでミーティングを開き、画面共有を電子黒板で行うことで教室にいる学生も海外にいる学生もボードを大きく見せることができた。また、電子黒板に直接書き込みながら授業が行えるので、教室にいる学生には通常のクラス授業と同じ状況を作ることができた。</p> <p>JLPTN5の試験構成・時間・点数などについてはスライドに英訳をつけて説明を行った。</p>			学習 効果 (総括)	JLPTを受験予定の学習者は、直前の練習として取り組めた。海外から参加の学習者はまだ受験予定ではなく来日してからチャレンジしたいとのことだった。今までも問題を解いたことはあったようだが解説を聞くのは初めてだったとこのことで、わからないことを質問できたことを喜んでた。電子黒板を使用したことで、対面の学生もオンラインの学生も同じように授業に参加でき、全員活発に発言できていた。また、JLPTについての知識もまだなかったので、JLPTの構成、内容、点数などの説明は役に立った様子だった。海外の学生は初めてのN5の模試は難しかったようだが、来日後にN5にチャレンジしようという目的ができたことはよかったと思う。		
				選定 ポイント	オンライン上で公開されている問題を利用することで、海外にいる学習者と教材を共有しやすい授業環境となっている。独自に作成した解説動画を先に視聴してもらうことで、授業時間は学習者からの質問に答えたり文法の復習をするなど試験の解答解説だけにとどまらない授業内容となっている。		

レベル	B2	スタイル	ハイブリッド	目的		進学		言語活動	話す（やりとり）
教育機関名	翰林日本語学院			コース名	アカデミックジャパニーズ聴解コース2				
受講人数	4名	受講生年代	20代/30代	受講生居住国	日本/ロシア				
コースの概要	<p>コース全体の目標：他国の文化と自国の文化を比較し、相違点について話し合うことによって、それぞれの文化の理解を深める。また、自国の文化を他国の人に伝える術を身に付ける。</p> <p>目的：大学進学希望者を対象に、講義を聞く、まとめる力を付け、自らも発表、レジュメ作成ができるようになる。・授業の進め方：基本、テキストの「使い方」に沿って進めたが、非漢字圏の学生、語彙の少ない学生のために語彙表を用意した。最終的に自国の文化を紹介。その際に、レジュメ作成、発表、FBを行った。</p>								
授業の目標 (課題設定 Can Do)	<p>【やりとり】教師、他の学生の質問に対し、自然に答えることができる。相手や場面によって、適切な話し方をすることができる。聞き返しや質問をするとき、レベルにあった適切な語彙、文法を伝える。他人の発表について、簡単なコメントができる。興味がある話題について、積極的に尋ねることができる。【発表】3～5分の事前に用意した内容を、聞き手が難なく付いて行ける程度にはっきり述べるができる。【聞く】初めて聞く内容でも、要点をつかむことができる。</p>								
実践内容	その他（聴解の内容理解等の確認のなかで行った指導実践）								
授業のポイント	<p>●使用教材：『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解』 [中上級] 第1課「掃除」、[上級] 第1課「畳」 ●授業の主な流れ：①語彙表を作成し、語彙の確認をしながら、話の内容を推測させる。教科書の【聞く前に】で学生同士にやりとりをさせる。②CDを聞き、教科書の【問題B】を学生に答させながら内容確認。③スクリプト作成 ④スクリプトの音読 ⑤【問題D】に沿って、レジュメ作成 ⑥レジュメをもとに、CDの内容について自分の言葉で発表。 ⑦「掃除」と「畳」で練習した後、自分の国の文化についての発表準備（スクリプト作成⇒レジュメ作成⇒発表）⑧発表は他の学生にレジュメを配り、レジュメに沿って、画像を使用しながら発表。 ⑨質疑応答 ●発表後の質疑応答では、活発にやりとりをしていた。</p> <p>●発表の中で、理解しにくいものについては、教師がその国の歴史的背景を伝えた。</p>								
使用教材	市販の教材(アカデミック・ジャパニーズ聴解)								
使用教具	その他(使わなかった)								
評価方法	スピーチやプレゼンテーション								
学習効果(総括)	<p>●ハイブリッドだったため、日本にいる学生が日本事情について日本語で説明する練習になった。●スクリプトとレジュメ作成を通し、話し言葉と書き言葉の使い分けの練習ができた。●スクリプト添削の際、何を書こうとしたのか、学生の意図を質問すると、学生は言葉を言い換え、理解してもらえるように文法、使用語彙に注意するようになった。</p> <p>●発表の後、学生たちが一文一文丁寧に話すようになった。</p>								
選定ポイント	講義を聞くことからさらにアカデミックな場において発表ができることを目的としている。日本語の練習としてのやりとりだけではなく、発表に向けた過程の中で日本語を使用することで相手、場面に合わせた適切な話し方を学ぶことができている。								

レベル	C	スタイル	オンラインのみ	目的	進学	言語活動	話す（やりとり）
教育機関名	翰林日本語学院			コース名	動画で学ぶ日本語東京・箱根		
受講人数	6名	受講生年代	20代/30代	受講生居住国	中国/日本/ロシア		
コースの概要	<p>目的：海外で学ぶ上級レベルの学習者を対象に、教科書では学べないリアルな日本・日本語を学ぶ機会を作り、日本語学習・日本留学のモチベーションを保つ</p> <p>概要：JR西日本コミュニケーションズの自主事業教材、「遊べる 学べる 東京」「トラベル 学べる 箱根」を利用。観光スポットや日本文化を紹介するナレーション音声を理解した上で、テーマに関連する自分の経験や知識、調べてきたことをアウトプットする活動を行った。また留学生同士の自然な会話のやりとりを理解した上で、自分だったら何と言うか、他にはどのような表現の仕方があるか、どのようなニュアンスの違いがあるかを考えた。</p>						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	<p>質問に対し、自然に、過不足なく答えることができる。相手や場面によって適切な話し方をすることができる。</p> <p>よく知らない話題に関しても議論に参加することができる。聞き返しや相手に説明を求めるなどのストラテジーを利用し、スムーズに会話を進めることができる。</p>						
実践内容	その他（実際にやりとりを行う中で、日本語の表現を学ぶ指導実践）			使用教材	個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）/動画教材「遊べる学べる」/動画教材「トラベル学べる」		
				使用教具	スライド（パワーポイント等）		
				評価方法	その他⇒その他(教師による観察評価)		
授業のポイント	<p>留学生が旅先で、日常生活で遭遇しそうな状況で、自分だったら何というか、他にどのような表現があるか、その印象はどのように異なるかなどを学習者間や教師-学習者間で確認した。</p> <p>また、そのやりとりの中で、必要に応じて文法や音調についての説明をした。</p> <p>動画に出てきた場所、物、状況などについて動画を見たあとに感想や意見を述べたり、自分の経験や関連する知識について情報交換を行った。</p> <p>また、動画で扱ったテーマ（和食、神社等）について、個人の身近な経験だけでなく、文化の違いや社会の変化などに焦点をあて話し合った。</p> <p>やりとりはマイクをONにしての発話のほか、並行してグループチャットを利用して文字でのやりとりも行った。</p>			学習効果(総括)	<p>チャットによるやりとりを授業と並行して行うことで、好きなタイミングで思ったことや疑問点を共有することができた。学習者から出た質問にほかの学習者がチャットで関連する情報のURLを探し、それを全体で共有しながら話すなど、教師が準備したテーマではなく、学習者の疑問や関心に沿った授業展開ができたと思う。また、チャットでは単語で答えたものを発話では、文にして答えるなど、表現の使い分けを意識することができた。</p>		
				選定ポイント	<p>チャットを併用している。</p> <p>動画から学習者の疑問や関心に沿って発展したやりとりが展開されている。</p>		

レベル	C	スタイル	オンラインのみ	目的	進学	言語活動	話す（発表）
教育機関名	翰林日本語学院			コース名	動画で学ぶ日本語 大阪・京都		
受講人数	6名	受講生年代	20代/30代/40代以上	受講生居住国	日本/ロシア		
コースの概要	<p>目的：海外で学ぶ上級レベルの学習者を対象に、教科書では学べないリアルな日本・日本語を学ぶ機会を作り、日本語学習・日本留学のモチベーションを保つ</p> <p>概要：JR西日本コミュニケーションズの自主事業教材、「遊べる 学べる 大阪」「トラベル 学べる 京都」を利用。観光スポットや日本文化を紹介するナレーション音声を理解した上で、テーマに関連する自分の経験や知識、調べてきたことをアウトプットする活動を行った。また留学生同士の自然な会話のやりとりを理解した上で、自分だったら何と言うか、他にはどのような表現の仕方があるか、どのようなニュアンスの違いがあるかを考えることを通して日本語を学ぶ。</p>						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	<p>より微妙なニュアンスを表現するために、イントネーションを変化させたり、特定部分を強調することができる。</p> <p>適切な語彙、文法表現を使用して話すことができる。自分の経験や調べてきた情報を明瞭かつ詳細に述べることができる。</p> <p>調べてきた情報について、明確な構造をもったプレゼンテーションができる。</p>						
実践 内容	<p>スライド等を使用したプレゼンテーションを行う指導実践</p> <p>調査等の発表と質疑応答を行う指導実践</p>			使用 教材	<p>個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）/動画教材「遊べる学べる」/動画教材「トラベル学べる」</p>		
				使用 教具	<p>スライド（パワーポイント等）、レリア・生教材（新聞記事・Google map）</p>		
				評価 方法	<p>パフォーマンス評価⇒スピーチやプレゼンテーション,他⇒その他(教師による観察評価)</p>		
授業の ポイント	<p>「日本語」「日本文化」についての発表・質疑応答を行った。</p> <p>発表スライドは事前課題とし、テーマは授業で扱った日本語の表現やあるいは周囲にある日本語の表現の分析、または、日本文化・社会について調べたことや意見とした。</p> <p>例①動画に出てきた表現、その他自分が今までに聞いたことがある日本語の表現で気になった表現について、その使われ方やなぜ気になったかをスライドを作成して発表を行った。</p> <p>例②「ゲーム」がテーマの回では、新聞記事「ゲーム一時間条例」を読み、それに対する自分の意見を発表するという事前課題を出し、次の授業で発表をした。</p> <p>発表の際は、画面共有をするため、対面と異なり聞き手の表情が見えにくい点があったため、質疑応答の時間を多くとった。</p>			学習 効果 (総括)	<p>日本語の使われ方や日本の社会問題に対する関心が高い学習者であったため、ただ調べたことを読み上げるだけではなく、調べてもわからなかったことに対して自分の推測を述べ、その後の質疑応答では深いディスカッションに発展することができた。</p> <p>海外から参加している学習者は社会人が多く、準備の時間を十分にとることができないこともあったが、留学VISA以外の学習者を対象にした授業では、学習者それぞれの参加の仕方を尊重することも必要であると感じた。</p>		
				選定 ポイント	<p>授業で取り上げたテーマについて、学習者一人一人が掘り下げて内容を準備し、発表を行っている。</p>		

レベル	C	スタイル	ハイブリッド	目的		就職		言語活動		話す（発表）	
教育機関名	翰林日本語学院			コース名	就職活動準備コース						
受講人数	7名	受講生年代	20代/30代	受講生居住国	台湾/日本/ロシア/マレーシア						
コースの概要	<p>目標：日本での就職を希望する留学生（在校生・未入学）に対し、日本での就活の仕方、就活に必要な日本語力を身につける。 留学生の就活概要:就活マナー/就活情報の収集/OG/OB訪問インターシップ/自己分析/業界/企業/職種研究/エントリー/会社説明会/職種研究/エントリーシート/履歴書/筆記試験/面接/内定から入社</p>										
授業の目標 (課題設定 Can Do)	<p>C1 洗練された記述と語りができる。 下位テーマをまとめ、要点の一つを展開して、適切な結論で終わらせることができる。 面接官の質問に的確に答えられる。グループディスカッション・グループワークの手順がわかり、発表できる。</p>										
実践内容	スピーチテーマを決定後、必要な語彙・表現を習得する指導実践 自分の意見を発表する指導実践			使用教材	個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）/市販の教材(留学生のための就職情報誌（共立財団）)/日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材(外国人留学生のための就活ガイド2023（独立行政法人 日本学生支援機構）)						
				使用教具	スライド（パワーポイント等）						
授業のポイント	<p>自国の就職活動とは全く違う、日本式の就職活動をまず理解させ、それに則った活動が自身で進められるよう行った。 自己分析を行い、想定問題を例に、まず学習者に発表させ、どのように答えればよりよくなるのか考えさせた。また他の学習者の発表から、学生同士で改善点を検討した。 グループディスカッション・グループワークの手順を説明し、役割を理解させた。 履歴書・エントリーシート記載内容をもとに、自分が話したいことではなく、相手から何を必要とされて話すのかを考えて発言するよう指導した。 面接官の質問の意図を分析し、表面上の言葉だけではなく、相手が何を知りたいのか考え、コメントの中に自分の強みを盛り込んでいけるような対応ができるように注意した。</p>			評価方法	パフォーマンス評価⇒スピーチやプレゼンテーション・作文・ロールプレイ						
				学習効果 (総括)	<p>授業で失敗を繰り返すことで、少しずつ改善し、最終的に自信を持って発表できるようになった。 自分だけが目立つ発表をするのではなく、周囲と協調しながら話し合うことが大切だと理解していた。 学習者から、実際のアルバイトの面接で役立ったと報告があった。 日本での就職活動についての説明・理解に時間がかかり、一人一人に対する実際の活動練習や、シートへの記入・添削が十分には行えなかった点が課題。</p>						
				選定ポイント	例文や他者の発表を聞くことで自ら文章を推敲し、改善するなど受講生のレベル、学習目的に沿った実践的な授業内容である。						

レベル	C	スタイル	ハイブリッド	目的	就職	言語活動	読む
教育機関名	翰林日本語学院			コース名	就職活動準備コース		
受講人数	7名	受講生年代	20代/30代	受講生居住国	台湾/日本/ロシア/マレーシア		
コースの概要	<p>目標：日本での就職を希望する留学生（在校生・未入学）に対し、日本での就活の仕方、就活に必要な日本語力を身につける。 留学生の就活概要・就活マナー・就活情報の収集・OG/OB訪問・インターシップ・自己分析・業界研究・企業研究・職種研究・エントリー・会社説明会・職種研究・エントリーシート・履歴書・筆記試験・面接・内定から入社</p>						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	<p>C1 社会、専門、学問の分野で出合う可能性のある、ある程度長い、複雑なテキストを詳細な点まで理解できる。 意見表明だけでなく、含意された意見や立場も含めて詳細な点まで理解できる。 日本企業への就職を目指し、一般的な就職活動の流れについて理解する。 就活に必要な語彙や、ビジネス場面での言い回しなどについて理解、活用する。 就活サイトや支援会社、企業採用ページなどから、自分に必要な情報を得ることができる。 具体的に企業を探し、応募から採用までの言語・マナーを身につける。 採用後における日本企業の慣習の他、労働条件や税制・保険制度を理解する言語知識を持つ。</p>						
実践 内容	オリジナル教材を活用した指導実践 ビジネスメール・ビジネスレター・ビジネス文書等の生教材を活用した指導実践			使用 教材	個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）/市販の教材(留学生のための就職情報誌（共立財団）)/日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材(外国人留学生のための就活ガイド2023（独立行政法人 日本学生支援機構）)/その他企業内部資料など		
授業の ポイント	<p>文章の表面上の意味だけではなく、そこに含まれる意図を考える練習をした。 なぜその表現を使ってあるのか、なぜその文法を使ってあるのか深く考察することで記載内容の真意を読み取り、その文章が本当に伝えたいことは何なのかを日本文化の背景も説明しながら解説した。 外国人の就職活動のための日本語にとどまらず、日本人と同等の就職活動を行えるよう、日本企業の特性なども網羅して、最新の就職活動に関する資料や、企業の人事関係書類などを入手して見せ、記載内容について説明した。 ハイブリッド授業のためパワーポイントと同様のPDFを準備し、対面の学習者にはプリントアウト、オンラインの学生にはデータを送付して、復習できるようにした。</p>			使用 教具	スライド（パワーポイント等）とPDF		
				評価 方法	パフォーマンス評価⇒スピーチやプレゼンテーション・作文・ロールプレイ		
				学習 効果 (総括)	<p>単に情報を読み取るだけならば初中級レベルの日本語で十分だが、真の読む力の習得のためには、上級のレベルの日本語が必須であることを理解し、学習意欲が向上した。断定的に物事を述べないことが、読み手への配慮であることに気づき、日本文化の理解にもつながった。 表現の幅が広がったことで、履歴書やエントリーシートなどの書く能力にも役立った。実際にエントリーすることが出来なかったため、模擬的な文章にしか触れることが出来なかったのは残念だった。</p>		
選定 ポイント				選定 ポイント	文に含まれる含意を読み取るなど学習者の日本語レベル、学習目的に沿った実践的な授業内容であることが学習意欲の向上につながっている。		

レベル	A2	スタイル	ハイブリッド	目的	一般	言語活動	話す（やりとり）
教育機関名	ファーストスタディ日本語学校大阪本校			コース名	ハイブリッド一般A2コース		
受講人数	12名	受講生年代	10代/20代/30代	受講生居住国	インドネシア		
コースの概要	本コースは、N5～N4レベルの学生を対象とした会話中心の「話す、聞く、読む、書く」を学ぶのが目的です。ハイブリッド形式のため、対面の学生とオンラインの学生を同時に授業しました。テキストは「できる日本語初級」を使用し、教科書を中心にコースを進めました。理解を深めるために、自作のパワーポイントやインターネットを使用しました。また、「遊べる 学べる 東京」や「トラベル 学べる 箱根」等を使用し、日本事情・日本理解を深めました。						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	日本人と話すことに慣れ、緊張せずに日本語で話せるようになること。学生同士が日本語でコミュニケーションがとれるようになること。勉強した文法を使った会話ができるようになること。積極的に日本語が話せるようになること。						
実践内容	初級総合教材を活用した「話す（やりとり）」を中心にした指導実践 語彙・文法指導の後、それらを活用した会話練習の指導実践 場面別会話の練習から、語彙・表現等を習得する指導実践			使用教材	個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）/市販の教材（「できる日本語 初級」）		
				使用教具	スライド（パワーポイント等）		
				評価方法	ロールプレイ/自己評価		
授業のポイント	まず、授業が始まってから10分～20分ほどフリートークの時間を設け、教師から学生への会話や、学生同士の会話をさせ、日本語を話すことに対する抵抗をなくし、日本語で話すことに慣れるようにした。テキスト「できる日本語初級」の『話してみよう』・『チャレンジ』では、学生に質問を投げかけ、学生の発言を中心に進めた。文法導入では自作のパワーポイントを使用し、教師から学生へのやり取りを意識しながら進めた。会話練習では、『言ってみよう』で対面とオンラインの学生でペアを指定し、日本語でのやり取りをする言語活動の時間を多く設けた。また、テキストの会話から派生させ、学生同士で質問し、より多くの会話をするよう指示した。【遊べる 学べる 東京】や【遊べる 学べる 箱根】等の動画教材を使用し、その動画を元に学生たちからの質問や発言を促がした。			学習効果 (総括)	実証実験当初は話すのが苦手な学生や間違いを恐れて発言を控える学生が多くみられたが、フリートークで教師から学生へのやり取りを意識的に進めた結果、語彙や文法に間違いが多少はあっても積極的に日本語でやり取りできる学生や調べながら頑張ってくれている学生も出てきた。全体的に積極的に参加してくれるようになりました。		
				選定ポイント	授業開始時にフリートークを取り入れるなど、話すのが苦手な学生や間違いを恐れて発言を控えている学生がリラックスできるような工夫がみられる。		

レベル	A2	スタイル	ハイブリッド	目的	一般	言語活動	話す（発表）
教育機関名	ファーストスタディ日本語学校大阪本校			コース名	ハイブリッド一般A2コース		
受講人数	12名	受講生年代	10代/20代/30代	受講生居住国	インドネシア		
コースの概要	本コースは、N5～N4レベルの学生を対象とした会話中心の「話す、聞く、読む、書く」を学ぶのが目的です。ハイブリッド形式のため、対面の学生とオンラインの学生を同時に授業しました。テキストは「できる日本語初級」を使用し、教科書を中心にコースを進めました。理解を深めるために、自作のパワーポイントやインターネットを使用しました。また、「遊べる 学べる 東京」や「トラベル 学べる 箱根」等を使用し、日本事情・日本理解を深めました。						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	クラスメイトの前で自信をもって発表ができる。緊張せずに日本語で発表ができるように慣れる						
実践 内容	初級総合教材を活用した「話す（発表）」を中心とした指導実践 文字・語彙・文法指導の後、それらを活用したスピーチを行う指導実践			使用 教材	個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）/市販の教材（「できる日本語 初級」）		
				使用 教具	スライド（パワーポイント等）		
				評価 方法	スピーチやプレゼンテーション/自己評価		
授業の ポイント	自信がなく自分から日本語を話すことを恥ずかしがる学生が多く、自信をつけてもらうためにみんな前で発表したり、緊張せずに日本語をはなせるようになるため以下のことを実施した。テキスト「できる日本語初級」の『話読書聞』を参考に、その課で習った文法を使ってテーマに沿った内容を考えさせ、次の日の授業でスピーチを発表した。発表は毎回全員した。また、その日に習った文法を使って文作をし、それを一人ずつ発表もした。時間が余った日に、テキストにない文法を自作パワーポイントで導入し、その文法を使ってテーマに沿ったスピーチをした。			学習 効果 (総括)	実証実験当初は緊張したり、自信がなさそうにしている学生が多かったが、習った文法を使用しながらテーマを決めて毎回全員に発表することにより、ほとんどの学生が自信をもって発表することができるようになった。		
				選定 ポイント	自信を持って、緊張せず発表できるという目標達成のため、学習した内容・テーマに沿って継続して発表を行っている。その他に受講生が発話をする機会を多く設けていることが、コース全体の学習者のモチベーションの向上という成果につながっていると考えられる。		

レベル	B1	スタイル	オンデマンド	目的	一般	言語活動	聞く
教育機関名	ファーストスタディ日本語学校大阪本校			コース名	オンデマンド一般B1コース		
受講人数	8名	受講生年代	20代	受講生居住国	ミャンマー/インドネシア		
コースの概要	本コースは、N4～N3相当の日本語を使用した会話（話す・聞く）・読む・書くのに必要な言語知識の習得が目的です。受講者が留学生のため、会話だけでなく読み書きを含め、全体的な言語知識の習得のために設定しました。初中級総合教材（できる日本語初中級）と文法学習のための補助教材を使用し、言語知識を深めました。また「遊べる 学べる 東京」、「トラブル 学べる 箱根」や日本事情・日本理解のための補助教材を使用し、日本事情・日本理解のための活動に取り組みました						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	教師の指示がしっかりと聞ける。日本語で授業内容が理解できる。教師やクラスメイトの雑談が聞け、雑談の輪に参加できる。						
実践 内容	初中級総合教材を活用した事前学習の後の、「聞く」を中心にした指導実践 教師が作成したオリジナル教材を事前学習した後の指導実践			使用 教材	市販の教材(できる日本語)/動画教材「遊べる学べる」/動画教材「トラブル学べる」		
				使用 教具	スライド（パワーポイント等）		
				評価 方法	試験⇒筆記試験,パフォーマンス評価⇒スピーチやプレゼンテーション,その他⇒その他 (ポートフォリオによる評価)		
授業の ポイント	本コースは、オンデマンドコースのため、授業外学習として、テーマに沿った作文を学生に課し、授業内でその作文を発表するスピーチを行いました。学生自身が作文を発表することで、日本語での会話に慣れ自身の日本語能力に自信を持たせるようにしました。また発表者だけでなく、他の学生がその学生の発表を聞き取れるように工夫しました。また授業内で聴解練習を入れ、学習した文法が聞き取れるか、日本人の話すスピードが聞けるかどうか確認すると同時に、日本人の話すスピードに慣れる練習を行いました。受講学生の国籍がミャンマーとインドネシアだったため、授業内で文化や観光地のわだいなると、必ず互いの国について紹介させ、日本語を使った学生同士の交流を促しました。			学習 効果 (総括)	教師の話だけでなく友達の話もきけるようになった。また、表情でも話を理解していることも伝えることができる学生が多くなった。		
				選定 ポイント	教師の指示や聴解問題を「聞く」だけでなく、「雑談」のために相手の話を聞くことを目的としている。相手の話を聞く活動により、学習者間の交流が生まれている。		

レベル	B1	スタイル	オンデマンド	目的	一般	言語活動	日本事情・日本理解
教育機関名	ファーストスタディ日本語学校大阪本校			コース名	オンデマンド一般B1コース		
受講人数	8名	受講生年代	20代	受講生居住国	ミャンマー/インドネシア		
コースの概要	本コースは、N4～N3相当の日本語を使用した会話（話す・聞く）・読む・書くのに必要な言語知識の習得が目的です。初中級総合教材（できる日本語初中級）と文法学習のための補助教材を使用し、言語知識を深めました。また「遊べる 学べる 東京」、「トラベル 学べる 箱根」や日本事情・日本理解のための補助教材を使用し、日本事情・日本理解のための活動に取り組みました						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	<ul style="list-style-type: none"> 日本の文化やマナー・ルールを知る。 日本人の考え方を知る。 自分の国と日本を比較して意見が言える。 日本について興味を持てる。 日本へ留学するモチベーションを上げる。 						
実践 内容	日本語学校が作成した説明資料や動画を見た後で参加する指導実践 事前に日本語教材の一部を学習した後で学ぶ指導実践			使用 教材	個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）/市販の教材(できる日本語初中級)		
				使用 教具	スライド（パワーポイント等）		
				評価 方法	その他⇒その他(自己評価)		
授業の ポイント	教科書「できる日本語初中級」で出てきた語彙や会話から派生させて、インターネットの画像や動画を使って日本について紹介した。 学生から日本について質問があった場合も、インターネットの画像や動画を使って説明した。 個人作成のパワーポイントを使って日本を紹介した。 動画教材「遊べる 学べる」や「トラベル 学べる」を使用し、日本について紹介した。動画を見た後で感想を言い合ったり、自分の国と比較して意見を言わせた。			学習 効果 (総括)	学生によって特に興味をもつ内容が違ったが、興味をもった日本のことを自分で調べて質問をしてきたり、積極的に理解しようとする姿が多くみられた。		
				選定 ポイント	動画教材やインターネット画像・動画を活用することで、受講者の日本についての関心・留学へのモチベーションを上げるという目的を達成できている。また、動画の印象や感想、自国との違いを題材に話すことにより、理解が深まったと考えられる。		

レベル	B2	スタイル	オンデマンド	目的	一般	言語活動	日本事情・日本理解
教育機関名	ファーストスタディ日本語学校大阪本校			コース名	オンデマンド一般B2コース		
受講人数	5名	受講生年代	20代	受講生居住国	インド		
コースの概要	本コースは、N3～N2相当の日本語を使用した会話（話す・聞く）・読む・書くのに必要な言語知識の習得が目的です。中級総合教材（できる日本語中級）と文法学習のための補助教材を使用し、言語知識を深めました。また日本事情・日本理解のための補助教材を使用し、日本事情・日本理解のための活動に取り組みました						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	自分の国と比較しながら、日本について理解を深めることができる。日本について興味を持ち、日本へ行きたいモチベーションを上げられる。 日本語だけでなく、日本人の考え方や働き方、文化など1つ以上興味を持てる。						
実践内容	事前に日本語教材の一部を学習した後で学ぶ指導実践			使用教材	市販の教材(できる日本語「中級」)/動画教材「遊べる 学べる」/動画教材「トラベル学べる」/「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材/その他(インターネットの画像やYouTube)		
				使用教具	スライド（パワーポイント等）		
授業のポイント	<p>目的としては以下の3つです。</p> <p>①自分の国と比較しながら、日本について理解を深めることができる</p> <p>②日本について興味を持ち、日本へ行きたいモチベーションを上げられる</p> <p>③日本語だけでなく、日本人の考え方や働き方、文化など1つ以上興味を持てる・動画教材「遊べる 学べる」「トラベル 学べる」、姫路城VRを見て、感想を言い合い、日本理解を深めました</p> <p>・授業中のテーマや会話から派生させて、日本について紹介したり、自分の国と比較し合ったりしました</p> <p>・日本について質問が出たものは、インターネットの画面を共有しながら画像や動画を見せ、理解を深めました</p>			評価方法	その他⇒その他(自己評価)		
				学習効果(総括)	自分の国と日本の文化の違いを比較して、より日本の文化を理解しようとする姿がみられた。また、日本人の考え方や働き方に興味をもち積極的に質問する姿もあった。		
				選定ポイント	動画教材の他、インターネットで画像、Youtube動画などを必要に応じて共有するなど、オンラインの利点を生かした授業を展開している。		

レベル	A2	スタイル	ハイブリッド	目的	一般	言語活動	話す（やりとり）	
教育機関名	神戸YMCA学院専門学校日本語学科			コース名	夏期集中コース（観光）			
受講人数	10名	受講生年代	10代/20代/30代/40代以上	受講生居住国	中国/台湾/ミャンマー/日本			
コースの概要	<p>◎目標:日本や他の国の観光地や有名なものを知る。自分の国の観光地や有名なものを紹介する。日本観光で使えるフレーズを学ぶ。</p> <p>◎授業内容:1日目7/28 国/町の観光地を紹介する。(発表準備) + 観光で役立つフレーズを覚える 2日目8/2 国/町のおみやげを紹介する。(発表準備) + 観光で役立つフレーズを覚える 3日目8/3 発表</p>							
授業の目標 (課題設定 Can Do)	<p>A2</p> <p><書くこと> 自分の国、町の観光地についての紹介文をつながりのある文で書くことができる</p> <p><話すこと・発表> 準備した原稿を元にプレゼンテーションができる。話し終えた後、簡単な質問に対処できる</p>							
実践内容	オリジナル教材を活用した「話す（やりとり）」を中心にした指導実践			使用教材	個人作成の教材（パワーポイントなどで作成） JR西日本コミュニケーションズ動画教材			
授業のポイント	<p><1日目> ①日本の神社について知る、自分の国の寺院等について紹介する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画教材「箱根神社篇会話パート1」の映像を見る（言葉の意味は分からなくてもいい） お参りをやってみる、言葉紹介⇒国の寺、神社、教会、ムスクでのお参りのやり方を紹介してもら ・「箱根神社篇会話パート2」の映像を見る（言葉の意味は分からなくてもいい） 鳥居の意味の説明、言葉紹介⇒国の寺、神社、ムスクにどんなものがあるか紹介してもら、スマホの写真を見せる <p>②発表準備 モデル発表・・・神戸の観光地を紹介 発表を考える・・・ワークシートを配布。国、町の有名なものを記入⇒教師はチェック対面は直接、オンラインの人はメールで送ってもらい、返信 表記はカナ、ローマ字どちらでも可 モデル発表文を配布、表現紹介:「～で有名な所は～です」「～で～ができます」等</p> <p>③観光で使える表現を学ぶ「すみません。ちょっとやり方を教えていただけませんか/教えてください」</p> <p><2日目> ①和食について知る、自分の国の料理を紹介する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画教材「鯛ごはん懐石瓊瑤篇」を見て、クイズ形式で内容確認、オンラインの人はzoom機能を使い手を挙げる⇒国の食べ物を紹介、QA <p>②発表準備 モデル発表・・・神戸の食べ物を紹介 発表を考える・・・1日目同様。表現紹介「～で有名な食べ物は～です」等 動画教材「チームラボプラネットTOKYO篇」を見て、観光で使える表現をピックアップし、導入練習「～だけなんですけど、大丈夫ですか」⇒ロールプレイ</p> <p><3日目> 1日目、2日目に準備した内容を発表。ppt、スマホの写真を見せながら説明する。⇒QA オンラインの人は画面共有かスマホの写真を見せる、対面の人は教室のPCの前で発表</p>			使用教具	スライド（パワーポイント等）			
	評価方法	その他のパフォーマンス評価(クラス内でのやり取り)			学習効果(総括)	<p>夏期集中コースで学んだ文法表現を使い、長いまとまりのある文章で発表をすることができた。総まとめとして受講者も達成感を感じたようだった。</p> <p>また、他の国の文化についても触れ、それぞれの国にしながら、お互いの国について知ることができ、日本語でやり取りができたことは大きい。</p> <p>発表前の発音練習をする時間をどのように持つか、今後の課題である。</p>		
	選定ポイント	日本語のレベル設定をしていない会話動画教材を特定の表現をピックアップするという利用方法で学習者のレベルに合わせた活用をしている。日本・日本語について知る・学ぶだけでなく、異なる居住地から参加する学習者が日本語を使ってお互いの文化を知ることができる授業展開となっている。						

レベル	A2	スタイル	オンラインのみ	目的	一般	言語活動	話す（やりとり）	
教育機関名	市川日本語学院			コース名	N5文法③（12月）			
受講人数	5名	受講生年代	10代/20代/30代	受講生居住国	中国/フィリピン/日本			
コースの概要	<p>コース概要：日本語能力試験N5レベルに必要な基本的な初級の語彙、文型の導入および、言語活動としての受容（読む・聞く）、産出（話す）、やりとり（話す）方略（推測）を取り入れた。語彙・文型は『みんなの日本語初級Ⅰ』を使用。</p> <p>コース全体の目標：「自分の背景や身の回りの状況について直接的関係がある事柄、身近で日常の事柄について簡単な言葉でやりとりができること。」</p>							
授業の目標 (課題設定 Can Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常で使われる挨拶など、礼儀正しい言葉で短い社交的な会話を行うことができる。・時間の流れに沿った表現を使い簡単な日常の行動が言える。 ・欲しいもの、やりたいことを言うことができる。またその理由についても簡単な文で言うことができる。・人や物の存在や所存について言える。・簡単な指示、依頼、勧め、申し出ができる。 ・許可を求めることができる。・禁止されていることが理解できる。・規則や禁止事項が理解できる。・しなければならないこと、する必要のないことが確認できる。 ・経験の有無、物事の状況の変化が言える。・物の授受について話すことができる。 							
実践 内容	初級総合教材を活用した「話す（やりとり）」を中心とした指導実践 語彙・文法指導の後、それらを活用した会話練習の指導実践			使用 教材	個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）/市販の教材（みんなの日本語初級Ⅰ）			
授業の ポイント	<p>1)語彙導入 2)教師が学習者へ質問し、定着度を確認 3)学習者同士でのやりとり 4)学習者同士でのやりとりでのフィードバック 主な内容：週末の予定を聞き、誘ったり、誘いを受けたりした。 ・参加者のそれぞれの国の有名な場所、食べ物、気候について互いに質疑応答を行った。 ・誕生日に何をもらったか、何が欲しいかを聞き合った。 ・場面シラバスを用いて、しなければならないこと、しなくてもいいこと、禁止や規則について相手に聞いて答えを理解する ロールプレイを行なった。</p> <p>■オンライン授業に関する工夫 ・携帯電話、タブレットを使用している学習者を鑑みて、文字（ルビも含む）と画像がどのように見えるか大きさを確認、調整しながら教材を作成した。 ・文字やイラストだけでは理解しにくい文型について、アニメーション機能を使って人物を動かすことで理解を深められるよう工夫した。 例)「道を渡るとき、車に気をつけます。」</p> <p>■学習者の居住地、母語、理解度に合わせて行なった工夫・コース、言語活動の目的を達成するために行なった工夫 ・語彙導入では、日本へ滞在したことがない学習者が身近に感じられるよう、イラストだけでなく写真を使うことにより身近に感じられるよう興味を引き出す工夫した。</p> <p>・学習者の理解度合いに合わせ、基本から発展という手順を繰り返して行なった。 (例)「それぞれの国の有名な食べ物について」の質疑応答練習 学習の目標：「～ですが、～です。」「～です。そして、～です。」を使った表現ができること。 学習者同士での質疑応答は学習者の理解度合いが異なる場合次のようなケースが起こると想定される。 L=学習者 L1:「私の国の有名な食べ物は、火鍋です。」 L2:「どんな食べ物ですか。」 L1:「……」</p> <p>・個々の学習者の発話を促すための工夫として次の手順で行なった。 1) 関連語彙を学習者に発話させ、ホワイトボードへ記入。 2) 「火鍋は辛いですか。」「火鍋は美味しいですか。」など簡単な表現での質問と答え方の練習。 3) 「どんな～ですか。」の問いに学習目標の文型を使った返答練習。 4) 発展練習：有名な場所、気候について学習者同士で質疑応答。</p> <p>積極的に地図や学習者の国の画像を共有し、説明する様子が伺えた。理解度が異なる学習者に対してはボトムアップの会話練習が大変効果があったと言える。</p>			使用 教具	スライド（パワーポイント等）			
	評価 方法	パフォーマンス評価⇒口頭試験・ロールプレイ			学習 効果 (総括)	<p>授業目標のCan-do達成以外に次の成果が見られた。 ・いきなり質問するのではなく、「〇〇さん」と話しかけるようになった。 ・聞き手の学習者が「そうですか。」「おいしそうですね。」など、あいづちも含めた表現ができるようになった。 ・欲しいもの、やりたいことを話す際、理由を表す表現「～ですから。」を用いて言えるようになった。 ・場面シラバスを用いた練習では、日本の電車の中でのマナーについて在日の学習者が規則や禁止事項について自発的に発話していた。 例) L1:「電車の中で電話をかけてはいけません。」「電車に乗るとき、切符を買いません。Suicaがあります。」 L2:「スイカ？フルーツですか?」（英語母語話者） 教師が「食べ物のスイカではありません。」と補足すると、学習者全員が笑い、発話した学習者L1が「これです。」とSuicaが何かわからない学習者に実物をカメラで見せてくれた。他の学習者は「いいですね。」「便利ですね。」と返答するなど積極的に参加していた。毎回の授業で前回の学習内容の復習を行なった。授業の回数を重ねるごとに、学習者の聞き取りが向上し、発話が積極的にできるようになったといえる。また、間違えることを気にせず、話すようになったことも授業成果だと考える。 今後の課題は、学習者全体の発話活動に不可欠な語彙や文型表現の定着を図る工夫および、誤用についてのフィードバックをさらに取り入れていくことである。反省点は、発話に自信のない学習者に対して自信を持って発話させるための工夫がもう少し必要であったと言える。</p>		
	選定 ポイント	学習者の使用デバイス、個々の理解度を確認しながら丁寧に授業を進めており、それが受講生の積極的な参加につながったと考えられる。						

レベル	A1	スタイル	オンラインのみ	目的		進学		言語活動		聞く	
教育機関名	行知学園第二附属日本語学校			コース名	進学準備コース						
受講人数	10名	受講生年代	10代	受講生居住国	中国						
コースの概要	<p>目標：初級レベルの受講者を対象とした『オンライン授業における会話力アップの可能性』を実証する。（教師目標） 特に中国人受講者が苦手とする聴解・会話を楽しく学び、自信につなげることができる。（受講者目標） 概要：授業の前半は、使用教材は、受講者が通常の授業で使用している「みんなの日本語初級Ⅰ」の本冊、スリーネットワークのデジタル教材、オリジナルのPPTなど。 文字に頼らず、聴解力や会話力を強化するため、なるべく教科書に視線を落とさず、モニターを見たま授業が受けられる内容とし、口頭練習中心の授業になるよう工夫した。 授業の後半は『日本事情』の枠とし、日本の名所、伝統文化やサブカルチャー、大学紹介、日本ならではの習慣やマナーなどを、写真・絵・動画などで紹介。質問形式で内容理解の確認や感想を聞き、ディスカッションに繋げた。</p>										
授業の目標 (課題設定 Can Do)	<p>【包括的な聴解】 教師の発話を正しく聞き取り、理解できるよう、『質問を文字化して提示→口頭のみで質問→理解できなければ再度文字を提示して質問』を繰り返しながら、教師とのコミュニケーションを図る。 【広報・アナウンスや指示を聞くこと】 丁寧にゆっくり話された指示、及び、短い簡単な説明が理解できるよう、『全員に同じ質問や指示をする→受講者それぞれの趣味や興味に合わせて、質問をアレンジする』 『発展活動』・教科書は閉じ『みんなの日本語』の『会話』を音声だけで聞き取る。（内容理解の確認も口頭のみ）・簡単なニュース素材や動画などから、知っている語彙を聞き取ることができる。（聞き取れた語彙を発表）</p>										
実践内容	初級総合教材を活用した「聞く」を中心とした指導実践 聴解用教材を活用した指導実践 場面別・機能別会話の聞き取り練習から、語彙・表現等を習得する指導実践			使用教材	『みんなの日本語 初級Ⅰ』 本冊・デジタル教材 個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）						
				使用教具	スライド（パワーポイント等） レリア・生教材（写真・日本の教室の様子をライブ配信 など）						
				評価方法	パフォーマンス評価⇒口頭試験						
授業のポイント	<p>《受講者の問題点と事前情報》 中国人学習者は文字に頼りがちであり、読解力があることで『理解した気』になってしまうことが多々ある。今回の受講者たちも、通常の日本語授業では、『母国語での文型導入と練習問題』という、文字に頼った授業が中心であり、聞く・話す力が低いとのことだった。</p> <p>《オンラインの特性を生かした授業展開》 視線をモニターに向けさせるため、写真やイラストを効果的に取り入れたPPT教材を作成した。特に、『日本の日本語教師による授業』であることを前面に押し出すべく、『レリア・生教材』は、日本の伝統文化や行事に関する映像や写真、事前調査で人気のあったアニメ『スパイファミリー』の日本語版オープニング曲などを準備した。また、みんなの日本語の『会話』も、教科書を見せずに口頭のみでリピート練習させるなど、『文字に頼れない授業』を心がけ、正確に聞き取れたかどうかの確認も、『オンライン面接』形式とし、個々への質疑応答で確認していった。レベルの高い受講者に対しては、さらに教科書の内容から発展させた会話練習を行った。</p> <p>《文字の提示は最後に》 聴解練習の場合は、口頭での質疑応答後、スクリプトを提示して音読。「みんなの日本語」の会話練習の場合は、内容理解の確認後、この段階で初めて教科書を見せてのペアワークなどを実施。最後に文字を提示することで、聞き取れなかった部分が明確になると同時に、『文字』の力も加わり、自信を持って音読できるようになった。</p>										
				学習効果 (総括)	<p>受講者はオーラル・メソッドに慣れていないうえ、日本人の教師と直接話すのも初めてという者が多く、最初はなかなか声が出なかったが、まずは顔をモニターに向けさせることを目標に動画や写真などを共有し、授業自体に興味を向けさせた。顔を上げることで発音が変わるのは、対面でもオンラインでも同じだが、授業開始時と最終日では、教師の問いかけに対する反応や声の大きさに明らかな違いを感じた。特に、読解力に頼って日本語の試験を乗り越えてきた中国人学習者から、『文字に頼れない形態の教室活動をデザインした』ことで集中力が高まり、高い効果が得られたと感じる。初級レベルゆえの語彙不足は否めなかったが、聞き取れた生徒が助け舟を出すなどのアウトプットが見られたことは、予想外の成果であった。</p> <p>自己の反省点としては、課題や宿題の回収方法が確立できず、課題・宿題を検討する余裕がなかったこと、中国の高校生の興味をリサーチし切れていなかったことなどである。</p> <p>また、クラス内でのレベル差を感じつつも、オンラインでは、レベル差の把握が難しく、学習者それぞれに合った語彙コントロールができなかったことが悔やまれる。と同時に、オンライン授業における自分自身の課題となった。</p>						
				選定ポイント	受講生の現地での日本語学習状況をふまえた目標を設定し、成果が得られている。						

レベル	A1	スタイル	オンラインのみ	目的	進学	言語活動	日本事情・日本理解
教育機関名	行知学園第二附属日本語学校			コース名	進学準備コース		
受講人数	10名	受講生年代	10代	受講生居住国	中国		
コースの概要	<p>目標：初級レベルの受講者を対象とした『オンライン授業における会話力アップの可能性』を実証する。（教師目標） 特に中国人受講者が苦手とする聴解・会話を楽しく学び、自信につなげることができる。（受講者目標）</p> <p>概要：授業の前半は、使用教材は、受講者が通常の授業で使用している「みんなの日本語初級Ⅰ」の本冊、スリーネットワークのデジタル教材、オリジナルのPPTなど。 文字に頼らず、聴解力や会話力を強化するため、なるべく教科書に視線を落とさず、モニターを見たま授業が受けられる内容とし、口頭練習中心の授業になるよう工夫した。 授業の後半は『日本事情』の枠とし、日本の名所、伝統文化やサブカルチャー、大学紹介、日本ならではの習慣やマナーなどを、写真・絵・動画などで紹介。質問形式で内容理解の確認や感想を聞き、ディスカッションに繋げた。</p>						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	<p>授業の目標：『日本事情・日本理解』の授業を通し、『聞くこと（インプット）・話すこと（アウトプット）』の練習に積極的に取り組むことができる。</p> <p>【会話】 直接自分に向けられた発話に対し、具体的に単純な日常的な表現でやり取りすることができるために、『日本の日常的な習慣（起床から就寝までの挨拶・お礼の言葉）をPPT資料で紹介→教師とのロールプレイ→学習者同士のロールプレイ』</p> <p>【情報の交換】 直接必要なこと、若しくは身近な話題についてのやり取りをするために、『日本の伝統文化・サブカルチャー・日本で今起きていること、などに焦点を当て、写真や映像、実物で紹介。→興味を持ったことを発表。または、番号で答える。 →中国との比較、学習者からの発信情報などを交え、ディスカッション。』</p>						
実践内容	日本に関する紹介を聞いたり、体験をしながら日本語を学ぶ指導実践 日本を紹介する動画を見た後で、それらを活用して学ぶ指導実践			使用教材	個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）		
授業のポイント	<p>《日本のマナーや習慣》</p> <p>①挨拶、礼儀・・・日本における『挨拶やお辞儀の文化』と『世界の挨拶』との比較。 →日本の大学受験での面接、日本の企業の採用面接、アルバイトの面接、日本人とのコミュニケーションにおける挨拶の重要性について説明。</p> <p>②食事のマナー・・・箸や食器、おもてなしの日中比較。箸の長さ・形の違いでディスカッション。</p> <p>③贈り物の文化、習慣・・・いろいろな場面での贈り物。風呂敷の利用法、アレンジは動画で共有。 (風呂敷や扇子などの実物を紹介)</p> <p>《日本の四季・名所紹介》 アンケートを取り、人気だった北海道・京都を中心に写真や動画で紹介。 《日本地図》 日本地図を見ながら都道府県の読み方と各都道府県の有名大学を写真で紹介。 《日本の行事》</p> <p>①年中行事・・・四季の行事を写真・絵・動画で共有。春夏秋冬のイメージを発表してもらう。 ②ハロウィン・・・本校で行った「ハロウィン仮装写真コンテスト」に投票してもらい、翌週結果発表。 (エントリー写真・ハロウィンの装飾やコスチュームの実物を紹介)</p> <p>③クリスマス・・・日本のクリスマスイルミネーションやクリスマス料理を写真と映像で紹介。</p> <p>《日本のサブカルチャー》 日本アニメのタイトル、日中比較。日本の『かわいい制服』と世界の制服との比較 など。</p>			評価方法	その他⇒その他(動画や写真を見せた後に、質問や感想を聞く時間は設けたが、特に評価はしていない。)		
	使用教具	スライド（パワーポイント等） レリアア・生教材（写真・日本の教室の様子をライブ配信・動画・ハロウィンコスチューム 風呂敷・扇子 など）					
	学習効果 (総括)	本活動はすべてPPTで資料を作成。写真や映像をふんだんに取り入れたため、楽しく参加してくれた。日本紹介は『写真や映像を見せながら説明を加える』という一方的な授業になりがちだが、本授業でも常にインタラクティブを心がけ、今回の授業のためのアンケートを取ったり、『日本地図と大学紹介』ではクイズ形式にするなど、アウトプットの機会を多くした。中国にはハロウィンの習慣がないだけに、特に本校のハロウィンイベント（写真コンテストに投票）への参加は、日本留学へのさらなる興味に繋がったようだった。 自己の反省点としては、既存の動画や映像資料を使用したこと、オリジナル資料も中国語訳を付ける余裕がなく、A1レベルでの教材作成ができなかったことである。					
	選定ポイント	日本への興味・関心を日本留学につなげるために、事前の学習者の興味の把握や、アンケート、コンテストへの投票など受講生が受身とならない工夫がされている。					

レベル	A1	スタイル	ハイブリッド	目的	進学	言語活動	話す（やりとり）
教育機関名	アジアンインターナショナル			コース名	ハイブリッド進学A1コース		
受講人数	7名	受講生年代	20代	受講生居住国	バングラデシュ/ネパール/スリランカ		
コースの概要	日本に入国している学生、及び未入国の学生に対し、日本の生活において必要不可欠となる「活きた日本語」を学んでもらう。また、テキストに沿った日本語の授業を展開するだけでなく、写真や動画を探り入れ、実際に目にして体験することで、日本の町、観光地、さらには日本文化に親しみを感じ、理解を深めてもらう。このコースを通じて、学生たちが日本での生活や学習に必要な日本語能力を身につけ、日本文化や風習を理解することで、より円滑にコミュニケーションができるようになることを目指す。						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	レベル: A1 言語活動: 話す（やりとり） Can-do目標:「日本語教育の参照枠（報告）」p.40 (2)【対話相手の理解】こちらの事情を理解してくれるような話し相手から、はっきりとゆっくりと、繰り返しを交えながら、直接 自分に向けられた話ならば、具体的で単純な必要性を満たすための日常の表現を理解できる。 (4)【会話】紹介や基本的な挨拶、いとまごいの表現を使うことができる。						
実践内容	初級総合教材を活用した「話す（やりとり）」を中心にした指導。 場面別会話の練習を通して、語彙・表現等を習得。 英語による語彙の補助。			使用教材	個人作成の教材（パワーポイントなどで作成） / 市販の教材(アルク出版 できる日本語初級)/動画教材「遊べる学べる」/動画教材「トラベル学べる」		
				使用教具	スライド（パワーポイント等）/フラッシュカード		
				評価方法	パフォーマンス評価⇒ロールプレイ		
授業のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介と近況報告の練習として、授業開始時に学習者同士がお互いの近況を報告する練習を行い、自己紹介の仕方や適切な表現などを学ぶ。 新出単語をイラストや写真などの視覚教材を使って確認する。 スキットの朗読、シャドウイング、学習者同士が2人でペアを組んで代入練習やロールプレイなどを行った。 各単元の内容に関係する写真やイラストを見ながら、学習者同士で話し合う。イラストから発話の場面・状況を汲み取り、会話の内容を想定し、実践的な会話力を養う。 ハイブリッド授業なので、パワーポイントを共有し、対面参加学生と海外からの参加者が同時に閲覧できるようにした。海外からの参加学生の多くが、スマートフォンを使用しているので、教材のイラストや文字を大きく表示した。対面授業の生徒たちとオンライン授業の生徒たちが協力して学ぶために、グループワークやペアワークを取り入れた。			学習効果(総括)	本国から参加している学生は回を重ねるごとに発話・聴解能力が向上した。不足している語彙等については、一緒に授業に参加している日本にいる学生からも補助を受けることができ、ゆっくりであれば、学生同士互いにコミュニケーションをとることができるようになった。また、日本にいる学生も先輩の立場として積極的に授業に取り組む姿勢が見られた。教員に対しても、ゆっくりであれば、話題に沿った質問に答えることができるようになった。改善点として、通信環境が悪い学生に対するケアがあげられる。不具合により配信から切断された学生に対し、該当箇所を再度説明をしなければならず、授業に遅延が生じる。このような事態に対し、授業の進行を妨げることなく、該当学生をフォローするシステムを構築することが今後の課題となる。		
				選定ポイント	海外で学ぶ未入国の学習者の使用デバイス、日本語の理解度に配慮をしつつ授業をおこなっている。対面学生とオンライン学生の交流が生まれるよう授業デザインである。		

レベル	A2	スタイル	ハイブリッド	目的	進学	言語活動	話す（発表）
教育機関名	アジアンインターナショナル			コース名	ハイブリッド進学A2コース		
受講人数	6名	受講生年代	10代/20代	受講生居住国	バングラデシュ/ネパール		

コースの概要	日本に入国している学生、及び未入国の学生に対し、日本の生活において必要不可欠となる「活きた日本語」を学んでもらう。また、テキストに沿った日本語の授業を展開するだけでなく、写真や動画を採り入れ、実際に目にして体験することで、日本の町、観光地、さらには日本文化に親しみを感じ、理解を深めてもらう。さらに、このコースを通じて、学生たちが日本での生活や学習に必要な日本語能力を身につけ、日本文化や風習を理解することで、より円滑にコミュニケーションができるようになることを目指す。
--------	---

授業の目標 (課題設定 Can Do)	レベル: A2 言語活動: 話す（発表） Can-do目標:「日本語教育の参照枠（報告）」p.44 (1)【総合的な口頭発話】人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについて、単純な記述やプレゼンテーションができる。 その際、簡単な語句や文を並べることができる。 (12)【聴衆の前での講演】身近な話題について、リハーサルをして、短い基本的なプレゼンテーションができる。
---------------------------	--

実践内容	初級総合教材を活用した「話す（発表）」を中心とした指導。 文字・語彙・文法指導の後、それらを活用したスピーチの実施。 スライド等を活用したプレゼンテーション形式の授業。	使用教材	個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）/市販の教材(アルク出版 できる日本語初中級、中級)/動画教材「遊べる学べる」/動画教材「トラベル学べる」
		使用教具	スライド（パワーポイント等）/ピクチャーカード
		評価方法	スピーチやプレゼンテーション/ロールプレイ

授業のポイント	教材の会話例をもとに自分のことを発表した。自分が大変だったり困ったりしたのはどんなときだったかを発表し、そんな時はどんな表現を用いたら良いのかという意見を出し合い学びあった。教材の会話例、表現例を応用し、文章を作り発表した。 ハイブリッドの状況を活かすため、教材の会話例をまずは教室にいる学生がペアになって読み、次は教室とオンラインの学生がペアになり、更にオンラインとオンラインの学生がペアになって活をした。実際に会えなくても日本語でつながっている一体感を感じることができた。オンラインの学生は、すでに日本に住んでいる学生に日本の生活などについて質問していた。教師は学生が自分のことをたくさん話せるように、活用の導入や語彙の導入もパワーポイントを使いながら、丁寧に行った。会話例の語彙を一部入れ替えて自分のことや国のこと、家族のことが表現できるよう工夫した。	学習効果(総括)	教室にいる学生はオンラインの学生が間違ったりしても優しく訂正してあげるなど、自身の理解度を深める良い機会になった。オンラインで現地にいる学生の方が日本語能力は若干劣っていたが、教室にいる学生とコミュニケーションをとるために頑張ろうという意欲が見えた。オンラインの学生は日本に来る前に少しでも多くの日本語に触れようと、積極的に参加し、発話ができていた。相手国のインターネット環境が悪く、うまく意思の疎通ができない時があった。
		選定ポイント	具体的な目標設定をし、教科書・動画教材など複数の教材を活用して授業を行っている。ハイブリッド授業を行うことで来日前の学習者に日本語学校の授業の雰囲気を感じてもらい、発表する学習者がスライド等を使用してプレゼンテーションを行うなどオンライン授業のツールを利用した授業となっている。

レベル	A2	スタイル	ハイブリッド	目的	進学	言語活動	聞く
教育機関名	アジアンインターナショナル			コース名	ハイブリッド進学A2コース		
受講人数	6名	受講生年代	10代/20代	受講生居住国	バングラデシュ/ネパール		
コースの概要	日本に入国している学生、及び未入国の学生に対し、日本の生活において必要不可欠となる「活きた日本語」を学んでもらう。また、テキストに沿った日本語の授業を展開するだけでなく、写真や動画を採り入れ、実際に目にして体験することで、日本の町、観光地、さらには日本文化に親しみを感じ、理解を深めてもらう。さらに、このコースを通じて、学生たちが日本での生活や学習に必要な日本語能力を身につけ、日本文化や風習を理解することで、より円滑にコミュニケーションができるようになることを目指す。						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	レベル: A2 言語活動: 聞く Can-do目標:「日本語教育の参照枠(報告)」p.27 (2)【包括的な聴解】もし、発話をはっきりとゆっくりとした発音ならば、最も直接的な優先事項の領域(例、ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、その地域の地理、仕事・雇用)に関連した句や表現が理解できる。 (4)【広報・アナウンスや指示を聞くこと】短い、はっきりとした、簡単なメッセージやアナウンスの要点は聞き取れる。						
実践内容	聴解用教材を活用した指導。 動画教材等を活用した指導。 場面別・機能別会話の聞き取り練習を通じて、語彙・表現等を習得。			使用教材	個人作成の教材(パワーポイントなどで作成)/市販の教材(アルク出版 できる日本語初中級、中級)/動画教材「遊べる学べる」/動画教材「トラベル学べる」		
				使用教具	スライド(パワーポイント等)		
				評価方法	ロールプレイ		
授業のポイント	聞く前にまず絵を見て、どこにいてどんなことを言うと思うか、を推測させた。その後教材の音声を聞いて、パワーポイントを利用し、どのようなことを言っていたのか内容の理解度を確認した。東京の地名が多く出てきたので、写真を見せながら教師が説明したところ、とても興味深そうに聞いていた。学生間の発言をお互いによく聞き、必要であれば助け合っていた。教材の聴解問題では、オンラインの学生は聞き取りにくそうにしていたため、教師がもう一度読み上げるなどして理解を促した。問題の解答はまず教室にいる学生に答えさせ、答えが分かったところで、言葉を入れ替えて読んだりして発展練習に取り組んだ。動画教材では、事前に未習の語彙を導入して学習意欲をそぐわないように努めた。			学習効果(総括)	動画を視聴することによって、まだ行ったことがない日本への興味が増し、学習意欲の向上につながった。教材の聴解問題は会話のスピードが速かったのが最初は戸惑っていたが、何度も聞いたりシャドーイングすることにより、日本語の発音もよくなり、表現力もついた。オンラインでは発音が不明瞭で聞き取りにくく、何度も繰り返し聞き返したりしなければならなかった。		
				選定ポイント	A2レベルの学習者が動画教材の語彙等に制限のない生の日本語会話を聞き取るために、授業の中で段階的に理解を確認するなど工夫がみられる。		

レベル	A2	スタイル	オンデマンド	目的	一般	言語活動	話す（やりとり）
教育機関名	仙台ランゲージスクール			コース名	オンデマンド一般コース(A2)		
受講人数	2名	受講生年代	20代/30代	受講生居住国	中国/バトナム		
コースの概要	渡日前の学習者が、日本語や日本に興味関心を持ち、積極的に学習を進められるようにしたい。また、予習した事柄が授業を通すことで、復習や新たな学習へとつながるような好循環を生み出したい。事前学習を経ての授業は、学習内容の理解に割く時間が少なくなり、一歩進んだ学習ができると考える。教師对学习者ではなく、学習者对学习者の会話が生まれ、それは、自然で自由な会話になって欲しいと考える。						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	国籍の違う学習者同士が、自国と相手国の文化習慣、日本国の文化習慣に興味を持ち、授業を通してそれらに気付き、次にあげる点ができることを目標とする。 ①聞きたい事、言いたいことを自然に話せるようになる。②2つの事柄を比べて言う言い方が出来るようになる。③聞きたい内容を質問する事が出来るようになる。④友達と話す表現と、友達ではない人と話す表現を使い分ける事が出来るようになる。						
実践内容	初級総合教材を活用した事前学習の後の「話す（やりとり）」を中心とした指導実践 動画による語彙・文法の事前学習の後、それらを活用した会話を練習する指導実践 会話動画の事前視聴の後、語彙・表現等を解説する指導実践				使用教材	日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材(エリンが挑戦！にほんごできます。)	
					使用教具	スライド（パワーポイント等）	
					評価方法	パフォーマンス評価⇒その他のパフォーマンス評価(教師の質問に答えたり、学習者同士で会話する。)	
授業のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○事前学習の動画が非常によく出来ており、積極的な動画視聴を通して学びを深める。 ○予習内容を思い出すため再度視聴するが、注目するポイントを明確にして視聴し、新たな気付きを得る。 ○「日本人の会話のやり取り」「日本人の日常の一場面を体験する」ことで、話したい事柄が自然に話せるような会話を目指す。 ○学習者同士の自然な会話から、母国と日本国との比較、お互いの国の比較から、会話を発展させる事が出来る。 ○会話に教師も巻き込まれる場合、相手による話し方の違いにも気づける。 ○覚えたいフレーズは、文法解説や会話練習を通して身に着ける。 ○興味関心が深まることで動画視聴は広がりを見せ、日本国を知る事、日本語学習が意欲的になっていく事が出来る。 				学習効果(総括)	<ol style="list-style-type: none"> 1、動画を通して気付いた点は、すぐに口をついて出て来た。また、目を見開いて画面を見る事や、身を乗り出してもっと良く見ようとする等、言葉として出る以前の反応が見られ、積極的に学ぼうとしている事がわかった。反面、学習者の力では予習をしていても、注目点が明確にならないのだと感じた。 2、聞きたい、知りたいからこそ、分からない言葉や疑問点もうやむやに出来ず、「わかりません」とはっきり言う事が出来た。分からない事を知りたい場合、国内で学んでいる学習者のように自己学習で説明することは無かった。辞書アプリの使用など、一歩踏み込んだ示唆が必要かと思った。 3、「練習問題」をAさんBさんの役割で会話してもらったが、完成度が高く、より自然な会話になった。映像のおかげで積極的な学習が出来た。 4、動画の真似をして言ってみる、動画を発展させて学習者同士で会話する練習も行った。その際、疑問を投げかけたり、言葉を捨てて自分の意見を付け足したりする事が出来た。 5、どの映像を見ても話したい欲求が生まれ、自国との比較や自分の意見が出た。動画をすぐに視聴できるオンライン授業の利点だと思う。学習者同士の意見交換も行われ、国の違いや文化の違いにも気付きがあった。さらに、日本国への留学を控えていた学習者たちには、より日本国が身近に感じられ、留学への期待が高まった。 	
					選定ポイント	受講生の事前学習を踏まえ、授業展開をしている。動画を活用することで受講生の積極的な参加を促すことができています。	

レベル	A2	スタイル	オンデマンド	目的	一般	言語活動	その他
教育機関名	仙台ランゲージスクール			コース名	オンデマンド一般コース(A2)		
受講人数	2名	受講生年代	20代/30代	受講生居住国	中国/ベトナム		
コースの概要	渡日前の学習者が、日本語や日本に興味関心を持ち、積極的に学習を進められるようにしたい。また、予習した事柄が授業を通すことで、復習や新たな学習へとつながるような好循環を生み出したい。事前学習を経ての授業は、学習内容の理解に割く時間が少なくなり、一歩進んだ学習ができると考える。教師对学习者ではなく、学習者对学习者の会話が生まれ、それは、自然で自由な会話になって欲しいと考える。						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	国籍の違う学習者同士が、自国と相手国の文化習慣、日本国の文化習慣に興味を持ち、授業を通してそれらに気付き、次にあげる点ができることを目標とする。 ①聞きたい事、言いたいことを自然に話せるようになる。②2つの事柄を比べて言う言い方が出来るようになる。③聞きたい内容を質問する事が出来るようになる。④友達と話す表現と、友達ではない人と話す表現を使い分ける事が出来るようになる。						
実践内容	その他（日本人の生活が良く分かる動画だったので、動画を視聴しながら文化習慣を学ぶ）			使用教材	日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材(エリンが挑戦！にほんごできます。)		
				使用教具	スライド（パワーポイント等）/フリップ		
				評価方法	パフォーマンス評価⇒その他のパフォーマンス評価(教師の質問に答えたり、学習者同士で会話する。)		
授業のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○事前学習の動画が非常によく出来ており、動画を活用して、文化習慣や対人関係について学ぶ。特に、上下関係での言い方の違いに気付ける。 ○予習内容を思い出すため再度視聴するが、注目するポイントを明確にして視聴し、新たな気付きを得る。 ○「日本人の会話のやり取り」「日本人の日常の一場面を体験する」ことで、思ったことが口について出て来る事を目指し、母国と日本国との比較、お互いの国を比較して会話を発展させる事が出来る。 ○覚えたいフレーズは、文法解説や会話練習を通して身に着ける。 ○興味関心が深まることで動画視聴は広がりを見せ、日本国を知る事、日本語学習が意欲的になっていく事が出来る。 			学習効果 (総括)	<p>最大の効果は、リアルさを伴う動画を見た事である。学習者は、「生」の日本人との会話を非常に喜ぶ。学習した言葉や文法が通じたときの満足感、それに伴う自信は、何物にも代えられない。たとえオンラインだとしても、日本国と繋がり、日本人先生と授業をする事は、この上ない喜びなのだと感じた。今回は、Wi-Fi状態が良い国の学生を対象にしたが、個人宅ではなく、環境が良いと思われる日本語センターと繋いで、授業を行う事も試してみたい。</p> <p>1、リアルさを伴う動画を見る事により、動画に入り込んで共に答えたり、気付きをつぶやいたり、自分の意見を素直に言う事が出来た。例えば、日本人高校生がアルバイトする理由、アルバイトの種類、自国との違いを取り上げる事が出来た。プレゼントをする場面では、自国のプレゼント事情と比較する面も見られ、違いを話す事も出来た。説明を加えてから再視聴をしたり、見るポイントを指摘したりすると、事前学習では見逃していた点に気付き、動画に対する理解も深まった。</p> <p>2、「大切な表現」や「練習問題」も良く理解でき、AさんBさんという役割を与えた会話では、人物になりきって会話練習をした。積極的な学習が出来たと思うし、事前学習が、理解の助けになっていると思われた。また、気に入ったフレーズは、取り出して会話練習をした。発展練習も行った。学習者の「覚えたい」欲求を感じると共に、定着が図れた。動機がはっきりしている事は、重要だと思った。</p> <p>3、「いろいろな使い方」例には、親子や友人、恋人、先輩後輩、師弟といった人間関係、切り取られた場面に違いがあった。上下関係で違う言い回しになる所では、動画が面白く、理解が進んだ。言葉遣いに気付くだけでなく、文化の違い、文化から生まれる日本語の使い方に理解が深まった。</p>		
				選定ポイント	オンデマンドを活用した授業展開となっている。動画教材を用いて日本語の表現と日本文化を同時に学ぶことにより、学習者の学習動機、理解の促進につながっている。		

レベル	B1	スタイル	オンデマンド	目的	一般	言語活動	話す（やりとり）
教育機関名	仙台ランゲージスクール			コース名	オンデマンド一般コース（B1）		
受講人数	4名	受講生年代	20代	受講生居住国	中国		
コースの概要	動画教材を用い、日本人の日常会話の中の文法や、日本人の生活、日本文化を理解する。						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	<p>(話すこと やりとり B1.2)「どう～たいいですか」を使って、やり方を聞くことができる。(話すこと やりとり B1.2)「AとBとどちらが～ですか」「～は～より」「～のほうが（～より）」を使って、比べることができる。</p> <p>(話すこと 発表A2)「～てしまいました」を使って、困ったことについて話すことができる。</p> <p>(話すこと やりとり A1 1) 意向形を使って、友だちを誘ったり、提案することができる。「～くなる/～になる」を使って、変化について述べるができる。「～ないでください」を使って、気持ちを伝えることができる。</p>						
実践内容	<p>初中級総合教材を活用した事前学習の後の「話す（やりとり）」を中心にした指導実践</p> <p>動画による語彙・文法の事前学習の後、それらを活用した会話を練習する指導実践</p>			使用教材	<p>個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）/市販の教材(エリンが挑戦！にほんごできます)/日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材(『エリンが挑戦！にほんごできます。』コンテンツライブラリー、『みんなの日本語初級 本冊』実証事業版)</p>		
				使用教具	スライド（パワーポイント等）		
				評価方法	その他⇒その他(授業全体を通して、個人の会話能力を評価基準とした。)		
授業のポイント	<p>会話教材を事前に視聴してもらい、その動画の中の人間関係や、日本文化について話をしたり、日本と受講者の国の文化の違いについて話したりした。</p> <p>日本語力が高い受講生が多かったため、授業開始時以外は極力教師の発話を減らし、受講生同士のやり取りを多くした。</p>			学習効果(総括)	<p>「動画、見ましたか？」から授業がスタートして、「どんな人が出てきた？」「場所はどこだった？」「どうしてAさんは、Bさんに「○○」と言ったと思う？」「みんなだったらどうする？」など、教師からの説明よりも、小さな質問を多くすることで、受講生の声を多く聞くことができた。そこから、受講生同士の意見の交換につなげることができた。日本語学習に対して前向きな受講生が多かったため、事前視聴と、それに伴う予習ができていた。</p>		
				選定ポイント	<p>初級会話動画教材の日本語表現そのものを学ぶことがメインではなく、動画を題材に、人間関係や日本文化、母国の文化の違いを話す授業となっている点が評価できる。事前に動画を視聴することで、リアルタイムの授業ではアウトプット中心の授業展開ができています。</p>		

レベル	A1	スタイル	ハイブリッド	目的	一般	言語活動	話す（発表）
教育機関名	ITカレッジ沖縄			コース名	一般コース		
受講人数	8名	受講生年代	10代/20代	受講生居住国	ネパール/日本		
コースの概要	日本語初級レベルの待機学生と日本に滞在している初級レベルの学生を、同時進行でどこまで進められるか実証するのを目的にコースを設定。「話す」「聞く」「読む」「書く」の言語活動を通して日本語の基礎を学ぶ。そこからテキストの内容を派生させ、講師と学生、また学生同士でも自然な会話になるよう指導し、日常生活において日本語で意見や感想、自身の経験を話せるようになることを目標とする。毎授業、前回の復習を行い、学習の定着を図る。						
授業の目標 (課題設定 Can Do)	自分の身の回りに関することや、おすすめ、意見等を日本語で言えることを目標とし、教科書に出て来た表現を使用して発表できるようになる。例えば自分の好きな食べ物に関し、その食べ物を簡単な語彙を使って表現し、発表できる。						
実践 内容	初級総合教材を活用した「話す（発表）」を中心にした指導実践 文字・語彙・文法指導の後、それらを活用したスピーチを行う指導実践			使用 教材	市販の教材(できる日本語初級（本冊）)		
				使用 教具	その他(iPad)		
				評価 方法	スピーチやプレゼンテーション		
授業の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッド授業に関する工夫としてオンライン学習者と対面学習者が一度に見られるようオンライン上には画面共有をし、教室にはその画面をモニターに投影した。 ・コース・言語活動別の目的を達成するために行った工夫として、日常生活に関する質問をたくさんし、学生から意見を引き出した。 <p>例えばテーマとして、「わたしの好きな食べ物」について質問し、「～で～がいちばん好きです。/～に～があります。/ませんか？」の文型を使用し発表させた。</p> <p>例) みなさんは、ネパールの食べ物で何が一番好きですか？私はモモが一番好きです。モモは、日本のごよみみたいです。モモの中に、肉や野菜があります。とてもおいしいですよ。今度一緒に、モモを食べに行きませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者の居住地や母語、理解度などに合わせて行った工夫や配慮として、必要に応じて日本でも話されている英語を使用したことで理解が深まった。また、学習者の身の回りについて話してもらった際や、講師から日本文化を伝える際に、全員がイメージしやすいよう、iPadで写真を映したことで理解度が深まった。 			学習 効果 (総括)	<p>授業では課の最後に習った文型を使用してまとめた文を作る宿題を課し、次の授業の初めに発表する場を設けたことで、定着の確認と、日本語で話すことの楽しさを感じてもらった。また、教科書やワークブックの会話文を一人、又はペアになって読み上げてもらったことで、日本語の文字に慣れ、スムーズに読めるようになった。</p> <p>ハイブリッドクラスでの工夫としてiPadのGood noteアプリを使用したことで、教科書をはじめ、対面で使用する絵カードを、iPad上に映したり、ある写真を見せたいときに瞬時に映し出せたりできた。ただ色々な教材を見せるために何度も画面を切り替えなくてはならず、学生の理解度に影響が出るのではないかと懸念した。かといって画面を見せる時間を多くすると授業の進行が遅れるため、うまくバランスをとるのが課題である。学習者は全員ネパール人だったため、異文化交流はなかったが、日本にいるネパール人（対面）とネパールにいるネパール人（オンライン）同士での会話も多くあり、特に、これから日本に留学予定の学習者にとっては、来日後のイメージができ、何かあったら頼れる人もできたという点から、とても有意義な時間だった。</p>		
				選定 ポイント	対面・オンラインそれぞれで学ぶ受講生が理解しやすいようツールの利用の工夫がみられる。来日前の受講生が日本にいる同国人と日本語の練習を通して交流することで来日への不安を解消できている。		

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください。

早稲田進学館中野校

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

会話練習 ハイフレックスA 1コース

3. 今回のコースの「レベル」「スタイル」「目的」の番号を入力欄にご入力ください。

		入力欄
レベル	1. A1 2. A2 3. B1 4. B2 5. C	→ 1
スタイル	1. オンラインのみ 2. ハイブリッド 3. オンデマンド 4. ハイフレックス	→ 4
目的	1. 進学 2. 就職 3. 一般	→ 3

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン（デバイス）」別にお答えください。
※複数の形式で受講していた受講生については「主に」利用されていた形式でお考えください。
(形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるように入力ください。)

対面	3	人
オンライン（タブレット）		人
オンライン（パソコン）	2	人
オンライン（スマートフォン）		人
合計	5	人

←計算式が入っています。お間違いのないご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください。

	授業日（日） <small>7月及7月以外の授業の年角 を入力する(10月0日(曜日) は表示が通り)</small>	授業時間 (分) <small>半角数字と入力</small>	受講者数 (人) <small>半角数字と入力</small>
1)	10月11日(火)	60分	10人
2)	10月13日(木)	60分	5人
3)	10月18日(火)	60分	5人
4)	10月20日(木)	60分	4人
5)	10月25日(火)	60分	4人
6)	10月27日(木)	60分	4人
7)	11月1日(火)	60分	4人
8)	11月8日(火)	60分	4人
9)	11月10日(木)	60分	3人
10)	11月15日(火)	60分	0人
11)	11月17日(木)	60分	2人
12)	11月22日(火)	60分	3人
13)	11月24日(木)	60分	3人
14)	11月29日(火)	60分	3人
15)	12月1日(木)	60分	3人
16)	12月6日(火)	60分	3人
17)	12月8日(木)	60分	2人
18)	12月13日(火)	60分	4人
19)	12月15日(木)	60分	3人
20)	12月20日(火)	60分	4人
21)			
22)			
23)			
24)			
25)			
26)			
27)			
28)			
29)			
30)			

↓計算式が入っています。お間違いのないご確認ください。

実施期間
10月11日(火) ~ 12月20日(火)

実施日数 総授業時間
20日 1,200分

※実施が30日を超える場合、6~10の欄にご回答後、
続き（31日目以降）を本シートの135行目以降に
入力してください。

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input checked="" type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラデシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input checked="" type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input type="checkbox"/> ネパール	<input checked="" type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input type="checkbox"/> その他 <small>自由記入</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input checked="" type="checkbox"/> 30代	<input checked="" type="checkbox"/> 40代以上
------------------------------	---	---	---

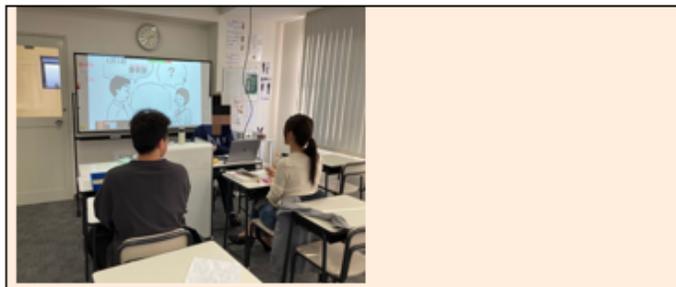
8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。（複数選択可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input type="checkbox"/> その他 <small>自由記入</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

初級テキスト「できる日本語」を用いて、各課で提示される状況イラストから「こんなとき何と言うか」を考え、自分の知っている日本語で話すトレーニングを行う。

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



[総合教材の使用へ](#)

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

会話練習 ハイフレックスA 1コース の総合教材の使用についてお伺いします。

↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は前シートに戻りお答えください。「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 行った	→→→→→	下記11-2へ
<input type="checkbox"/> 行っていない	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。（複数回答可、あてはまるものに☑）

※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	→→→→→	下記11-3へ
<input checked="" type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか。具体的にお教えてください。

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

会話練習 ハイフレックス A.1 コース の「話す（やりとり）」言語活動についてお伺いします。

- ↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

12-1. 今回のコースで実施した授業での「話す（やりとり）」の目標（課題設定：Can Do）をお教えください。

授業内で設定した各課の導入項目について、ゆっくりとしたやりとりであれば、簡単な質疑応答にも答えることができる。

12-2. 「話す（やりとり）」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
（複数回答可、あてはまるものに☑）

- ※選択肢が何も表示されない場合、
概要シート 3.「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。
※スタイルが「オンデマンド」「ハイフレックス」の場合、
6つ目の選択肢はないため「*****」と表示されます。☑は入れないでください。

- 初級総合教材を活用した事前学習の後の「話す（やりとり）」を中心とした指導実践
 オリジナル教材を活用した事前学習の後の「話す（やりとり）」を中心とした指導実践
 動画による語彙・文法の事前学習の後、それらを活用した会話を練習する指導実践
 会話動画の事前視聴の後、語彙・表現等を解説する指導実践
 母語による支援を加えた指導実践

 その他 同様に

12-3. 「話す（やりとり）」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的にお教えください。

導入イラストから「こんなときどう言うか」を推測させ、高わせる。その後導入CDを聞き確認。パターン練習を経て最後に実際に「使う」活動として話題を設定し会話をさせた。人数が減り参加メンバーが安定してからは各学生の故郷や実際の生活について導入文型を使って話す、尊厳合う活動も取り入れた。

12-4. 「話す（やりとり）」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。
（複数回答可、あてはまるものに☑）

「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
 個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）
 市販の教材
→→→ 同様にメーカー名・教材名・複数教材取扱いの場合は、教材ごとに答えください。
株式会社アルク「できる日本語 初級本冊」
 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
→→→ 同様にWEBサイト名・出版社名・教材名・複数教材取扱いの場合は、教材ごとに答えください。
 動画教材「遊べる 学べる」
 動画教材「トラベル 学べる」
 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
 その他 同様に

12-5. 「話す（やりとり）」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。
（複数回答可、あてはまるものに☑）

- スライド（パワーポイント等）
 フリップ
 フラッシュカード
 レアリア・生教材
 ピクチャーカード
 その他 同様に

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 「学習効果・成果」について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたか。日本語能力の伸長に関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えてください。

教室の学生に関しては既習の文法が多かったが、積み上げ式のテキストとは全く形式が異なり、使う場面などを想像しながら楽しく行えた。その点で、学習動機、意識に関しては大きく進歩があったように思う。全て中国語圏の学生だったため異文化理解とは言い難いかもしれないが、台湾の学生が暖かい気候や習慣について答えることで、大陸の東北出身者が寒い地域の話で応えるなど、お互いの地域に関する相互理解は深まったように感じた。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、対面指導と違いはありましたか。対面指導と比較して、良かったこと/良くなかったことをその理由と合わせてお教えてください。

対面では口頭や板書で済むところだったが、オンラインでは若干指示の通り辛さがあるため、ほぼ全てPPT上で完結するようにする必要があり、準備が膨大だった。一方でPPTで全て準備することにより授業の流れが学生にとっても教師にとっても明確になり、またテンポよく進められたように思う。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは向上しましたか。（あてはまるものに☑）「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについてお答えください。

- 非常に向上した
 やや向上した
 向上しなかった
 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組むべき
 課題はあるが取り組むべき
 慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当者へ](#)

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



□ 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください。

早稲田進学館中野校

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

遊べる学べる日本（初級）

3. 今回のコースの「レベル」「スタイル」「目的」の番号を入力欄にご入力ください。

						入力欄
レベル	1. A1	2. A2	3. B1	4. B2	5. C	→ 2
スタイル	1. オンラインのみ	2. ハイブリッド	3. オンデマンド	4. ハイフレックス		→ 1
目的	1. 進学	2. 就職	3. 一般			→ 3

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン（デバイス）」別にお答えください。
 ※複数の形式で受講していた受講生については「主に」利用されていた形式でお答えください。
 （形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるように入力ください。）

対面	0	人
オンライン（タブレット）	1	人
オンライン（パソコン）	7	人
オンライン（スマートフォン）	0	人
合計	8	人

← 計算式が入っています。お間違いのないかご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください。

	授業日（日にち） 「月」「日」「新」力で区切り半角 で入力する。「0」月「0」日（曜日） が表示されます	授業時間 （分） 半角数字で入力	受講者数 （人） 半角数字で入力
1)	10月11日(火)	60分	5人
2)	10月18日(火)	60分	3人
3)	10月25日(火)	60分	5人
4)	11月1日(火)	60分	8人
5)	11月8日(火)	60分	4人
6)			
7)			
8)			
9)			
10)			
11)			
12)			
13)			
14)			
15)			
16)			
17)			
18)			
19)			
20)			
21)			
22)			
23)			
24)			
25)			
26)			
27)			
28)			
29)			
30)			

↓ 計算式が入っています。お間違いのないかご確認ください。

実施期間
10月11日(火) ~ 11月8日(火)

実施日数
5日

総授業時間
300分

※実施が30日を超える場合、6～10の質問にご回答後、
 続き（31日目以降）を本シートの135行目以降に
 入力してください。

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。複数回答可、あてはまるものに☑

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input checked="" type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラデシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input checked="" type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input type="checkbox"/> ネパール	<input type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input type="checkbox"/> その他 <small>複数選択</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。複数回答可、あてはまるものに☑

<input checked="" type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代以上
---	---	------------------------------	--------------------------------

8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。複数選択可、あてはまるものに☑

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input checked="" type="checkbox"/> 日本事情 日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input type="checkbox"/> その他 <small>複数選択</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

日本語レベル: A2
 受講対象者: 中国と台湾に在住する来日希望者（旅行・留学・就職等理由は問わず）
 授業形式: ZOOMによるオンライン授業
 目的: 日本に関心がある（日本に来てみたい）という中国籍の日本語学習者を対象に、日本の観光地や文化を紹介しながら、その場面ごとに必要とされる初級レベルの日本語を教える。
 教材: 遊べる学べる「トラベル学べる」の東京（チームラボ・未来日本演）箱根（箱根神社）大阪（USJ）姫路城

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

遊べる学べる日本（初級）の総合教材の使用についてお伺いします。

↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は前シートに戻りお答えください。「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

- 11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 行った	→→→→	下記11-2へ
<input checked="" type="checkbox"/> 行っていない	→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。（複数回答可、あてはまるものに☑）
 ※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	→→→→	下記11-3へ
<input type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか。具体的にお教えてください。

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

「遊べる学べる日本（初級）」の「聞く」言語活動についてお伺いします。

- ↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

14-1. 今回のコースで実施した授業での「聞く」の目標（課題設定：Can Do）をお教えください。

- ・講師の話す初級レベルの日本語が聴きとれる
- ・レストランや窓口で店員や係員の簡単な日本語が聴きとれる
- ・友人が発話する「気持ちや状況を表す日本語」が聴きとれる

14-2. 「聞く」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

※選択肢が何も表示されない場合、

概要シート 3.「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。

※スタイルが「オンデマンド」「ハイフレックス」の場合、

6つ目の選択肢はないため「*****」と表示されます。☑は入れないでください。

- 初級総合教材を活用した「聞く」を中心とした指導実践
- 聴解用教材を活用した指導実践
- 動画教材等を活用した指導実践
- 場面別・機能別会話の聞き取り練習から、語彙・表現等を指導する指導実践
- 聴解問題を使用した指導実践
- 反転授業（事前学習）を実施した指導実践
- その他 同様に

14-3. 「聞く」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的にお教えください。

「遊べる学べる」「トラベル学べる」ではかなり難しい表現や大切な会話表現があったため、全体的には知っている単語があったかどうかを確認して説明。Pointとなる箇所の語彙や表現を教え、もう一度その部分だけ再生して聴きとれるか確認した。

また、受講者が全て中国語圏だったため、漢語ではなくカタカナ語の聴き取りを重点的に行い、元の英語の単語と合わせて発音の違いを確認した。

14-4. 「聞く」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに☑)

「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）
- 市販の教材
→→→ 同様のメーカー名・教材名が複数ある場合は、教材ごとに記入ください。
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
→→→ 同様のWEBサイト名・出版社・教材名が複数ある場合は、教材ごとに記入ください。
- 動画教材 「遊べる 学べる」
- 動画教材 「トラベル 学べる」
- 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
- その他 同様に

14-5. 「聞く」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに☑)

- スライド（パワーポイント等）
- フラッシュカード
- ビクチャーカード
- フリップ
- レアリア・生教材
- その他 同様に

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 「学習効果・成果」について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたか。日本語能力の伸長に関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えてください。

コースの設置目的の一つとして「日本事情・日本理解」があるが、この点に関しては充分目的を達成できたと感じている。作成していただいた動画教材を通じて日本の最先端分野から伝統的な文化、観光スポットを幅広く紹介できた。ただ、5時間の超短期コースだったため日本語能力やスキルの伸長の度合いについては判断が難しいのだが、何人かの受講者は授業の最初に行っていた前回の復習の時間では比較的良好な理解を覚えていた。その観点で言えば、授業内で学んだことを身に付けてくれたようである。コース目的は「一般」であり、気軽に受講してもらおうという考えから宿題等は課していないが、一部の学生はきちんと復習もしてくれたようである。このコースでは全て中国・台湾出身者だったので、学生間の異文化理解や多文化共生という認識はなかった。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、対面指導と違いはありましたか。対面指導と比較して、良かったこと/良くなかったことをその理由と合わせてお教えてください。

良かった点

・対面形式であればわざわざ実施場所に足を運ぶ必要があるが、オンラインで実施することにより敷居が大幅に下がり、日本に関心がある外国人が気軽に参加できる。

良くなかった点

・良かった点と表裏一体だが、オンラインでしかも無料講座ということもあり受講者のモチベーションに大きな開きがあった。更にこのコースは日本語の学習とともに日本紹介も主目的として気軽に参加できるよう設定したため、画面上でも顔を出さずにひたすら動画部分だけ視聴して発言しようとする学生が多数いた。これが対面形式であれば「逃げ場」がなかったと思われるが、オンラインだと画面をオフにして「逃げて」しまうことができる。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは向上しましたか。（あてはまるものに☑）
「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについてお答えください。

- 非常に向上した
 やや向上した
 向上しなかった
 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。（あてはまるものに☑）

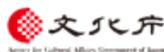
- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。
（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組みべき
 課題はあるが取り組みべき
 慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当まで](#)

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください。

新白河国際教育学院

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

ハイフレックス一般A2コース

3. 今回のコースの「レベル」「スタイル」「目的」の番号を入力欄にご入力ください。

	入力欄	入力値
レベル	1. A1 2. A2 3. B1 4. B2 5. C	→ 2
スタイル	1. オンラインのみ 2. ハイブリッド 3. オンデマンド 4. ハイフレックス	→ 4
目的	1. 進学 2. 就職 3. 一般	→ 3

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン（デバイス）」別にお答えください。
※複数の形式で受講していた受講生については「主に」利用されていた形式でお答えください。
(形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるように入力ください。)

対面	3	人
オンライン（タブレット）		人
オンライン（パソコン）		人
オンライン（スマートフォン）	2	人
合計	5	人

←計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください。

	授業日(日にち) 「月」と「日」を「/」で区切り半角 で入力すると「○月○日(曜 日)」が表示されます	授業時間 (分) 半角数字で入力	受講者数 (人) 半角数字で入力
1)	10月22日(土)	220分	5人
2)	10月29日(土)	220分	3人
3)	11月5日(土)	220分	5人
4)	11月12日(土)	220分	5人
5)			
6)			
7)			
8)			
9)			
10)			
11)			
12)			
13)			
14)			
15)			
16)			
17)			
18)			
19)			
20)			
21)			
22)			
23)			
24)			
25)			
26)			
27)			
28)			
29)			
30)			

↑計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

実施期間
10月22日(土) ~ 11月12日(土)

実施日数 総授業時間
4日 880分

※実施が30日を超える場合、6~10の箇所にこ回答後、
続き(31日目以降)を本シートの135行目以降に
入力してください

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラデシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input checked="" type="checkbox"/> ネパール	<input checked="" type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代以上
---	---	------------------------------	--------------------------------

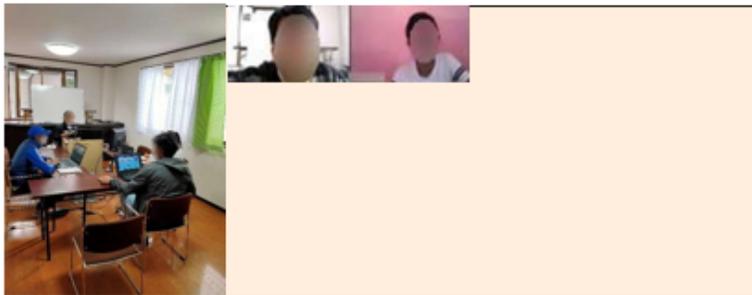
8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。（複数選択可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

日本語の学習を通じて日本留学の意思を維持し、又は強化するための本校への留学希望者並びに本校の学生の日本語能力のさらなる向上を図るためのハイフレックス授業。

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



[総合教材の使用へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

ハイフレックス一般A2コースの総合教材の使用についてお問い合わせ。

1. 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は前シートに戻りお答えください。「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

- 11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 行った	----->	下記11-2へ
<input type="checkbox"/> 行っていない	----->	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。（複数回答可、あてはまるものに☑）
※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	----->	下記11-3へ
<input checked="" type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	----->	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか、具体的にお教えください。

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

ハイフレックス一般A2コース の「話す(やりとり)」言語活動についてお伺いします

1. 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

12-1. 今回のコースで実施した授業での「話す(やりとり)」の目標(課題設定・Can Do)をお教えください。

場面に応じて、適切なあいさつの表現ができるようになる。店で店員との簡単なやりとりで要望を伝えたり商品について尋ねたりして買い物や返品はできるようになる。飲食店で注文・支払いをたりお薦めを尋ねたりできるようになる。宅配便の制度を知り宅配便を送ったり受け取ったりできるようになる。周囲の人に道や所要時間を尋ね、また電車を利用するなどして目的地に行けるようになる。周囲の人に道や所要時間を尋ね、また電車を利用するなどして目的地に行けるようになる。

12-2. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

※選択肢が何も表示されない場合、

概要シート3.「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。

※スタイルが「オンデマンド」「ハイフレックス」の場合、

6つ目の選択肢はないため「*****」と表示されます。☑は入れないでください。

- 初級総合教材を活用した事前学習の後の「話す(やりとり)」を中心とした指導実践
- 実践 オリジナル教材を活用した事前学習の後の「話す(やりとり)」を中心とした指導
- 実践 動画による語彙・文法の事前学習の後、それらを活用した会話を練習する指導
- 実践 会話動画の事前視聴の後、語彙・表現等を解説する指導実践
- 日本人の会話パートナーを参加させた指導実践
- *****
- その他 具体的に

12-3. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的にお教えください。

動画教材をベースにしたロールプレイ、大切な表現のコラス等

12-4. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに☑)

「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材(パワーポイントなどで作成)
- 市販の教材
- 『できる日本語 初級』『できる日本語 初中級』(アルク)
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
- つながるひろがるにほんごでのくらし
- 動画教材「遊べる 学べる」
- 動画教材「トラベル 学べる」
- 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
- その他 具体的に

12-5. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

- スライド(パワーポイント等)
- フリップ
- フラッシュカード
- レアリア・生教材
- ビクチャーカード
- その他 具体的に

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

「**ハイフレックス一般A2コース**」の「**読む**」言語活動についてお伺いします

- 1 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

- 15-1. 今回のコースで実施した授業での「**読む**」の目標（課題設定: Can Do）をお教えください。

小売店で買い物をしたりレストランで注文をするなど（言語活動「話す（やりとり）」の目標に掲げた活動）の学習目標を実現するために必要な範囲でメニューや看板、標識などが何を示すか理解することができる

- 15-2. 「**読む**」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
（複数回答可、あてはまるものに☑）

※選択肢が何も表示されない場合、

概要シート3. 「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。

※スタイルが「オンデマンド」「ハイフレックス」の場合、

6つ目の選択肢はないため「****」と表示されます。☑は入れないでください。

- 初級総合教材を活用した事前学習後の「読む」を中心とした指導実践
- オリジナル教材を事前学習した後の文字・語彙・文法の指導実践
- 文字・語彙・文法を事前学習した後、それらが使用された文章を読む指導実践
- 漢字の読み方を事前学習した後の読み方を練習する指導実践
- 事前学習として読解問題を行った後にフィードバックを行う指導実践
- ****
- その他 具体的に 動画教材に出てくる用語の読み取りと意味を理解させる。

- 15-3. 「**読む**」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的に教えてください。

動画中の揭示等の表示が何を意味するか確認。また動画教材の SCRIPT・副教材の読み取り、音読指導

- 15-4. 「**読む**」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。
（複数回答可、あてはまるものに☑）

「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）
- 市販の教材
→→→ 『できる日本語 初級』『できる日本語 初中級』（アルク）
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
→→→ つながるひろがるにほんごでくらし
- 動画教材「遊べる 学べる」
- 動画教材「トラベル 学べる」
- 「世界遺産路路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
- その他 具体的に

- 15-5. 「**読む**」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。
（複数回答可、あてはまるものに☑）

- スライド（パワーポイント等）
- フリップ
- フラッシュカード
- レアリア・生教材
- ビジュアルカード
- その他 具体的に

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 「学習効果・成果」について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたか、日本語能力の伸長に関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えください。

特に来日歴のない学生には、日本人と接すること自体が刺激になっていると感じる。日本語の学習意欲、留学の意欲は高まったと感じる

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、対面指導と違いはありましたか、対面指導と比較して、良かったこと/良くなかったことをその理由と合わせてお教えください。

やはり対面での指導と比べると制約が多く、コースをするのが難しかったり、また受講者側のデバイス、環境が学習に向いていないこともある。また著作権法上の権利関係の制約も大きいようで、例えばWeb上の教材でもどこまで自由につかえるのかということもある。国外にいる学生が気軽に受講できるのはオンラインのメリットであるだろうが、やはり対面の授業のほうが遙かに優れていると感じる。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは向上しましたか。（あてはまるものに☑）「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについてお答えください。

- 非常に向上した
 やや向上した
 向上しなかった
 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。（あてはまるものに☑）

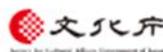
- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組むべき
 課題はあるが取り組むべき
 慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当まで](#)

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください。

JCLI日本語学校

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

基礎日本語

3. 今回のコースの【レベル】【スタイル】【目的】の番号を入力欄にご入力ください。

						入力欄
レベル	1. A1	2. A2	3. B1	4. B2	5. C	→ 2
スタイル	1. オンラインのみ	2. ハイブリッド	3. オンデマンド	4. ハイフレックス		→ 3
目的	1. 進学	2. 就職	3. 一般			→ 1

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン（デバイス）」別にお答えください。
※複数の形式で受講していた受講生については「主に」利用されていた形式でお考えください。
(形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるように入力ください。)

対面		人
オンライン（タブレット）		人
オンライン（パソコン）	4	人
オンライン（スマートフォン）		人
合計	4	人

←計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください。

	授業日(日)にち 「月」「日」を「/」で区切り半角 で入力すると「○月○日(曜 日)」が表示されます	授業時間 (分) 半角数字で入力	受講者数 (人) 半角数字で入力
1)	8月4日(木)	90分	9人
2)	8月5日(金)	90分	10人
3)	8月8日(月)	90分	10人
4)	8月9日(火)	90分	10人
5)	8月10日(水)	90分	10人
6)	8月22日(月)	90分	8人
7)	8月23日(火)	90分	6人
8)	8月24日(水)	90分	4人
9)	8月25日(木)	90分	6人
10)	8月26日(金)	90分	3人
11)	8月29日(月)	90分	4人
12)	8月31日(水)	90分	4人
13)	9月1日(木)	90分	4人
14)	9月2日(金)	90分	3人
15)	9月5日(月)	90分	2人
16)	9月6日(火)	90分	4人
17)	9月7日(水)	90分	4人
18)	9月8日(木)	90分	5人
19)	9月12日(月)	90分	3人
20)	9月13日(火)	90分	4人
21)	9月14日(水)	90分	3人
22)	9月15日(木)	90分	3人
23)	9月16日(金)	90分	3人
24)	9月20日(火)	90分	2人
25)	9月21日(水)	90分	4人
26)	9月22日(木)	90分	3人
27)	9月27日(火)	90分	3人
28)	9月29日(木)	90分	2人
29)	9月30日(金)	90分	2人
30)	10月3日(月)	90分	2人

↓計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

実施期間
8月4日(木) ~ 10月3日(月)

実施日数
30日

総授業時間
2,700分

※実施が30日を超える場合、6～10の欄間に二回答後、
続き(31日目以降)を本シートの135行目以降に
入力してください

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラデシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input checked="" type="checkbox"/> ネパール	<input type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代以上
------------------------------	---	------------------------------	--------------------------------

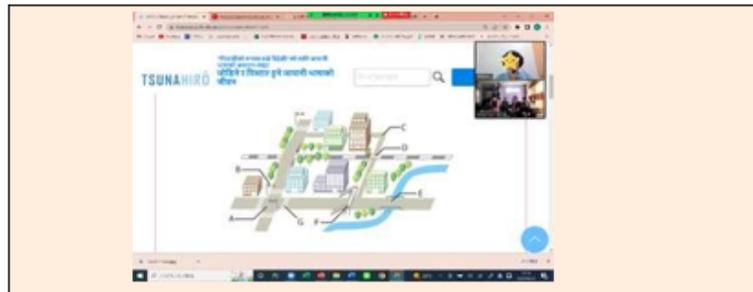
8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。（複数選択可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 話す(やりとり)	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す(発表)	<input checked="" type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

日本語学習サイト「つながるひろがるにほんごでくらし」を使用し、日本留学が決定した学生に対して、実践的な生活の日本語を中心に学ぶ。教材を通じて日本の文化や生活事情を学ぶことで、語学力の向上と同時に、入国後の日本での生活をより円滑に行えるようにアドバイスを行う。
反転学習によって、母語による理解をした後に日本語だけの授業を行うことで、より自発的な日本語での発話を促し、学習者が積極的に日本での生活に対して質問することができるようにした上で来日に備える。

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



[総合教材の使用へ](#)

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

基礎日本語 の総合教材の使用についてお伺いします。

↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は前シートに戻りお答えください。「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 行った	+++++	下記11-2へ
<input type="checkbox"/> 行っていない	+++++	言語活動「話す(やりとり)」へ

11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。（複数回答可、あてはまるものに☑）
※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	+++++	下記11-3へ
<input checked="" type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	+++++	言語活動「話す(やりとり)」へ

11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか、具体的にお教えてください。

[言語活動「話す\(やりとり\)」へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

基礎日本語

の「書く」言語活動についてお伺いします

1. 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

- 16-1. 今回のコースで実施した授業での「書く」の目標（課題設定：Can Do）をお教えください。

漢字の書き順と読み方を覚え、正しい字形で書くことができる。

- 「書く」言語活動はこのコースでは行っていない

→ [言語活動「日本語・日本語理解」へ](#)

- 16-2. 「書く」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

※選択肢が何も表示されない場合、

概要シート3. 「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認下さい。

※スタイルが「オンデマンド」「フレックス」の場合、

6つ目の選択肢はないため「****」と表示されます。☑は入れないでください。

- 初級総合教材を活用した事前学習の後の「書く」を中心とした指導実践
- 漢字の書き方を事前学習した後の書き方を練習する指導実践
- 語彙・文法の事前学習の後、それらを使用した文を書く指導実践
- 作文の書き方を事前学習した後、自分についての作文を書く指導実践
- 作文の書き方を事前学習した後、描写の文を書く指導実践
- ****
- その他 具体的に _____

- 16-3. 「書く」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的ににお教えください。

毎回、必要な漢字についてPowerPointの書き順動画を視聴した後、右手で空書を3回ほど行ってもらい、教師がその動きをチェックする。その後、実際に紙に書いてもらう。

- 16-4. 「書く」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)
市販の教材「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）
- 市販の教材
具体的なメーカー名・教材名が複数お問い合わせの場合は、教材ごとにお答えください。
-
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
具体的なWEBサイト名・教材名・教材名が複数お問い合わせの場合は、教材ごとにお答えください。
---- Microsoft「書き順付き文字スライド」
- 動画教材「遊べる 学べる」
- 動画教材「トラベル 学べる」
- 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
- その他 具体的に _____

- 16-5. 「書く」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

- スライド（パワーポイント等）
- フリップ
- フラッシュカード
- レアリア・生教材
- ビジュアルカード
- その他 具体的に _____

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

基礎日本語 の **「日本事情・日本理解」** についてお伺いします。

- 1 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示していません。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

- 17-1. 今回のコースで実施した授業での **「日本事情・日本理解」** の目標（課題設定:Can Do）をお教えください。

学習動面の場面に出てくる日本文化を理解し、自国との違いや意見を述べるができる。

- 「日本事情・日本理解」はこのコースでは行っていない

→ [言語活動「その他」へ](#)

- 17-2. **「日本事情・日本理解」** について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

※選択肢が何も表示されない場合、

概要シート 3. 「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。

※スタイルが「オンデマンド」「ハイフレックス」の場合、

6つ目の選択肢はないため「*****」と表示されます。☑は入れないでください。

- 日本語学校が作成した説明資料や動画を見た後で参加する指導実践
 事前に日本語教材の一部を学習した後で参加する指導実践
 事前課題を行った上で、日本人との交流活動を行う指導実践
 事前課題を行った上で、参加する指導実践
 母語による支援を加えた指導実践

 その他 具体的に

- 17-3. **「日本事情・日本理解」** について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的にお教えください。

例) レベル1 シーン1「住民としてのマナーを理解しよう」を視聴後、ごみの出し方のルールについてQAを行い、ネパールのごみの捨て方について紹介してもらう。

- 17-4. **「日本事情・日本理解」** について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)
「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
 個人作成の教材(パワーポイントなどで作成)
 市販の教材
具体的なメーカー名・教材名を複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。
 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
具体的なWEBサイト名・教材名を複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。
つながるひろがるにほんごでくらし
 動画教材「遊べる 学べる」
 動画教材「トラベル 学べる」
 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
 その他 具体的に

- 17-5. **「日本事情・日本理解」** について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

- スライド(パワーポイント等)
 フリップ
 フラッシュカードビ
 レアリア・生教材
 リチャーカード
 その他 具体的に

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 「学習効果・成果」について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたか。日本語能力の伸長に関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的に教えてください。

今回は日本入国を控えた学習者という前提があったため、実際に日本で遭遇する場面での会話が教材であったことで、毎回意欲的に参加してもらえ、質問なども多く、非常にいい雰囲気での学習することができた。
また、今回は出席率などを問わない自由参加であったことから、一時的に学習希望者が殺到した後人数を規制し、その後落ち着いて最終的に4人になるという変遷があった。生活の日本語ということで、中には留学申請が交付されなかった学生がいて後半からでなくなったこともあり、募集の段階でも少し参加者に対する工夫ができなかったか反省している。
ただ、これから訪れる場所についての学習ということで、オンラインであることが良い効果であったと感じている。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、対面指導と違いはありましたか。
対面指導と比較して、良かったこと/良くなかったことをその理由と合わせて教えてください。

対面といっても、日本で対面指導をする場合と海外で対面指導をする場合では、学習者の環境や意気込みまたは考えも違うので、どちらと比較するかは悩ましい。やはり対面の方がいいと思うが、海外での日本人による対面指導が叶わない場合は、オンラインで日本人が指導することの機会があるのはとても良い事だと感じた。入国後に学習する目移り等もあるため、入国前に余裕をもって日本語学習のオンライン指導が確保できれば、来日後の言語活動に大きな助けとなるように思う。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは向上しましたか。（あてはまるものに☑）
「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについてお答えください。

- 非常に向上した
 やや向上した
 向上しなかった
 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組むべき
 課題はあるが取り組むべき
 慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当者へ](#)

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに をお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください。

さきたま国際学院

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

進学準備コース【N5】D

3. 今回のコースの「レベル」「スタイル」「目的」の番号を入力欄にご入力ください。

						入力欄
レベル	1. A1	2. A2	3. B1	4. B2	5. C	→ 1
スタイル	1. オンラインのみ	2. ハイブリッド	3. オンデマンド	4. ハイフレックス		→ 2
目的	1. 進学	2. 就職	3. 一般			→ 2

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン（デバイス）」別にお答えください。
 ※複数の形式で受講していた受講生については「主に」利用されていた形式でお考えください。
 (形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるように入力ください。)

対面	5	人
オンライン (タブレット)	0	人
オンライン (パソコン)	10	人
オンライン (スマートフォン)	0	人
合計	15	人

←計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください。

	授業日(日にち) 「月」「日」を"/"で区切り半角 で入力すると「〇月〇日(曜 日)」が表示されます	授業時間 (分) 半角数字で入力	受講者数 (人) 半角数字で入力
1)	10月11日(火)	240分	15人
2)	10月12日(水)	240分	15人
3)	10月13日(木)	240分	15人
4)	10月14日(金)	240分	15人
5)	10月17日(月)	240分	15人
6)	10月18日(火)	240分	15人
7)	10月19日(水)	240分	15人
8)	10月20日(木)	240分	15人
9)	10月21日(金)	240分	15人
10)	10月24日(月)	240分	15人
11)	10月25日(火)	240分	15人
12)	10月26日(水)	240分	15人
13)	10月27日(木)	240分	15人
14)	10月28日(金)	240分	15人
15)	10月31日(月)	240分	15人
16)	11月1日(火)	240分	15人
17)	11月2日(水)	240分	15人
18)	11月4日(金)	240分	15人
19)	11月7日(月)	240分	15人
20)	11月8日(火)	240分	15人
21)	11月9日(水)	240分	15人
22)	11月10日(木)	240分	15人
23)	11月11日(金)	240分	15人
24)	11月14日(月)	240分	15人
25)	11月15日(火)	240分	15人
26)	11月16日(水)	240分	15人
27)	11月17日(木)	240分	15人
28)	11月18日(金)	240分	15人
29)	11月21日(月)	240分	15人
30)	11月22日(火)	240分	15人

↓計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

実施期間
10月11日(火) ~ 12月28日(水)

実施日数
55日

総授業時間
13,200分

※実施が30日を超える場合、6～10の欄にご回答後、
 続き(31日目以降)を本シートの135行目以降に
 入力してください

- 5-1. ※実施が30日を超える場合の31日目からの入力欄です。
 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください。
 入力後、次シート総合教材の使用へ進んで引き続き質問にお答えください。

	授業日(日にち) 「月」「日」を「/」で区切り半角 で入力すると「〇月〇日(曜 日)」が表示されます	授業時間 (分) 半角数字で入力	受講者数 (人) 半角数字で入力		授業日(日にち) 「月」「日」を「/」で区切り半角 で入力すると「〇月〇日(曜 日)」が表示されます	授業時間 (分) 半角数字で入力	受講者数 (人) 半角数字で入力
31)	11月24日(木)	240分	15人	47)	12月16日(金)	240分	15人
32)	11月25日(金)	240分	15人	48)	12月19日(月)	240分	15人
33)	11月28日(月)	240分	15人	49)	12月20日(火)	240分	15人
34)	11月29日(火)	240分	15人	50)	12月21日(水)	240分	15人
35)	11月30日(水)	240分	15人	51)	12月22日(木)	240分	15人
36)	12月1日(木)	240分	15人	52)	12月23日(金)	240分	15人
37)	12月2日(金)	240分	15人	53)	12月26日(月)	240分	15人
38)	12月5日(月)	240分	15人	54)	12月27日(火)	240分	15人
39)	12月6日(火)	240分	15人	55)	12月28日(水)	240分	15人
40)	12月7日(水)	240分	15人	56)			
41)	12月8日(木)	240分	15人	57)			
42)	12月9日(金)	240分	15人	58)			
43)	12月12日(月)	240分	15人	59)			
44)	12月13日(火)	240分	15人	60)			
45)	12月14日(水)	240分	15人	61)			
46)	12月15日(木)	240分	15人	62)			

6. 今回のコースの受講生の居住国(他国)をお選びください。(複数回答可、あてはまるものに目)

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラデシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input type="checkbox"/> ネパール	<input type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input checked="" type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。(複数回答可、あてはまるものに目)

<input checked="" type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input checked="" type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代以上
---	---	---	--------------------------------

8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。(複数選択可、あてはまるものに目)

<input checked="" type="checkbox"/> 話す(やりとり)	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す(発表)	<input type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input checked="" type="checkbox"/> その他 <small>具体的に Jibt 模擬試験の解答解説</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

みんなの日本語オンライン電子版及び書籍版を使用し、主要な課の復習を行った。

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



[総合教材の使用へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

進学準備コース N5D の総合教材の使用についてお聞かせください。

↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は前シートに戻りお答えください。「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

- 11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。
(あてはまるものに☑)

<input checked="" type="checkbox"/> 行った	----->	下記11-2へ
<input type="checkbox"/> 行ってない	----->	言語活動「話す(やりとり)」へ

- 11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。(複数回答可、あてはまるものに☑)
※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input checked="" type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	----->	下記11-3へ
<input type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	----->	言語活動「話す(やりとり)」へ

- 11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか、具体的にお教えください。

みんなの日本語各級の課末問題を口頭でのキューを使用しながら実施し、各課で提示される文型の定着と確認を行った。

[言語活動「話す\(やりとり\)」へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

進学準備コース N5D の「書く」言語活動についてお聞かせください。

↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

- 16-1. 今回のコースで実施した授業での「書く」の目標（課題設定: Can Do）をお教えください。

・みんなの日本語の主要な文型を理解することができる
・日本人講師の生の発話に触れることにより日本人入国時のギャップを少なくする(オンライン)

「書く」言語活動はこのコースでは行ってない → [言語活動「日本事情・日本理解」へ](#)

- 16-2. 「書く」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

※ **選択肢が何も表示されない場合、概要シート3. 「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。**
※ **スタイルが「オンデマンド」「フレックス」の場合、6つ目の選択肢はないため「****」と表示されます。☑は入れないでください。**

- | |
|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 初級総合教材を活用した「書く」を中心とした指導実践 |
| <input type="checkbox"/> ひらがな・カタカナの書き方を練習する指導実践 |
| <input type="checkbox"/> 漢字の書き方を練習する指導実践 |
| <input type="checkbox"/> 文字・語彙・文法指導の後、それらを活用した文を書く指導実践 |
| <input type="checkbox"/> 母語による支援を加えた指導実践 |
| <input type="checkbox"/> 反転授業(事前学習)を実施した指導実践 |
| <input type="checkbox"/> その他 <small>※****</small> |

- 16-3. 「書く」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的にお教えください。

ZOOMのチャット機能を活用し、問題の回答を文字で打って答える練習を行った

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 「学習効果・成果」について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたか。日本語能力の伸長に関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えください。

日本人講師による授業、及び他の学生を交えた協同学習の場を設けることで、より一層日本語の理解が高まり日本への進学の意味が高まったと思われる。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、対面指導と違いはありましたか。対面指導と比較して、良かったこと/良くなかったことをその理由と合わせてお教えください。

良かった…前回と変わらず場所や時間に因わず授業に参加できる点は非常に良いと感じた。

良くなかった…マイクのミュートON・OFFに手間取り、授業進行中細かに時間を取られることが多かった。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは向上しましたか。（あてはまるものに☑）
「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについてお答えください。

- 非常に向上した
 やや向上した
 向上しなかった
 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組むべき
 課題はあるが取り組むべき
 慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当者へ](#)

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものをこの欄にお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください。

東京外語教育学院

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

進学コース (初級)

3. 今回のコースの【レベル】【スタイル】【目的】の番号を入力欄にご入力ください。

						入力欄
レベル	1. A1	2. A2	3. B1	4. B2	5. C	→ 2
スタイル	1. オンラインのみ	2. ハイブリッド	3. オンデマンド	4. ハイフレックス		→ 2
目的	1. 進学	2. 就職	3. 一般			→ 1

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン (デバイス)」別にお答えください。

※複数の形式で受講していた受講生については「主に」利用されていた形式でお考えください。
(形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるように入力ください。)

対面	10	人
オンライン (タブレット)		人
オンライン (パソコン)	9	人
オンライン (スマートフォン)		人
合計	19	人

←計算式が入っています。お問い合わせがないかご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください。

	授業日 (日)にち 【月】と【日】を【/】で区 切り半角で入力すると【月 ○日(曜 日)】が表示されます	授業時間 (分) 半角数字で入力	受講者数 (人) 半角数字で入力
1)	7月20日(水)	90分	16人
2)	7月21日(木)	90分	12人
3)	7月22日(金)	90分	15人
4)	7月27日(水)	90分	17人
5)	7月28日(木)	90分	15人
6)	7月29日(金)	90分	19人
7)	8月3日(水)	90分	15人
8)	8月4日(木)	90分	15人
9)	8月5日(金)	90分	15人
10)	8月17日(水)	90分	13人
11)	8月18日(木)	90分	13人
12)	8月19日(金)	90分	13人
13)	8月24日(水)	90分	11人
14)	8月25日(木)	90分	12人
15)	8月26日(金)	90分	14人
16)	8月31日(水)	90分	11人
17)	9月1日(木)	90分	14人
18)	9月2日(金)	90分	15人
19)	9月7日(水)	90分	14人
20)	9月8日(木)	90分	13人
21)	9月9日(金)	90分	13人
22)	9月14日(水)	90分	11人
23)	9月15日(木)	90分	11人
24)	9月16日(金)	90分	11人
25)			
26)			
27)			
28)			
29)			
30)			

↓ 計算式が入っています。お問い合わせがないかご確認ください。

実施期間

7月20日(水)	~	9月16日(金)
----------	---	----------

実施日数

24日

総授業時間

2,160分

※実施が30日を超える場合、6~10の箇間にご回答後、続き(31日目以降)を本シートの135行目以降に入力してください。

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input checked="" type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラディッシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input type="checkbox"/> ネパール	<input type="checkbox"/> 日本
<input checked="" type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input checked="" type="checkbox"/> その他 <small>高棉に シエラレオネ</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input checked="" type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代以上
---	---	---	--------------------------------

8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。（複数選択可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input type="checkbox"/> その他 <small>高棉に</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

「みんなの日本語（初級）II」を使用し、第26～33課まで授業を進めました。基本的な文法や表現（みんなの日本語（初級）I）相当が身につけている状態で授業を行いました。
尚、オンラインの学生が使用したデバイスについては、特に集計を取っていませんでした。

10. 授業風景の写真1枚、貼り付けてください。



[総合教材の使用へ](#)

- 部分にご入力（※）選択肢が用意されている項目については、あてはまるもの☑を付けてください。

進学コース（初級）

の総合教材の使用についてお伺いします。

↑概要シート2.でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は前シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート3.でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

- 11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 行った	→→→→→	下記11-2へ
<input type="checkbox"/> 行っていない	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。（複数回答可、あてはまるものに☑）
※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input checked="" type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	→→→→→	下記11-3へ
<input type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか、具体的にお教えください。

普段の授業から学生を当てたり、個別に発言させることで、日本語での発話に慣れてもらいました。また、きちんと聞き取れているかを確認するために、急にテキストの文章を読ませたり、その文法や表現に関する質問を投げかけてみたりもしました。読み書きについては、練習問題の答えを表示するなど、できるだけ正しい表記を確認してもらるようにしました。
A1クラスに比べ、日本語での表現力が高い学生も参加していたので、JR西日本コミュニケーションズ作成の動画を見せ、文化的なことや各県の慣習などについても発言させました。

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに○をお付けください。

進学コース(初級) の「話す(やりとり)」言語活動についてお伺いします

↑概要シート2.でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート3.でお答えの「レベル・スタイル・目的」の検索についてお答えください。

12-1. 今回のコースで実施した授業での「話す(やりとり)」の目標(課題設定: Can Do)をお教えください。

「みんなの日本語I」で学習した文法を使用しつつ、さらに発展した内容の会話ができることを目指した。
また、平易な語彙や文法で自国の文化や自身の状態、好みなどについて話す能力を伸ばすことに重点を置いた。

12-2. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに○)

※選択肢が何も表示されない場合、
概要シート3.「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。
※スタイルが「オンデマンド」「ハイフレックス」の場合、
6つ目の選択肢はないため「*****」と表示されます。○は入れないでください。

- 初級総合教材を活用した「話す(やりとり)」を中心とした指導実践
 オリジナル教材を活用した「話す(やりとり)」を中心とした指導実践
 読 語彙・文法指導の後、それらを活用した会話練習の指導実践
 場面別会話の練習から、語彙・表現等を習得する指導実践 日
 本人の会話パートナーを参加させた指導実践
 反転授業(事前学習)を実施した指導実践
 その他 具体的に ハイブリッドであることを活かし、対面の学生とコミュニケーションを図るよう促した。

12-3. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的にお教えください。

教師が質問を投げかけることはもちろん、対面の学生ともコミュニケーションを取るよう促した。また、JR西日本コミュニケーションズ作成の動画教材を鑑賞した後、自国の慣習はどうであるか、どのような意見を持ったかなどの意見交換などをさせた。

12-4. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに○)
「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
 個人作成の教材(パワーポイントなどで作成)
 市販の教材
具体的な出版社名・教材名や冊数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。
 →→→ みんなの日本語II
 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
具体的なWEBサイト名/出版社名・教材名や冊数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。
 →→→
 動画教材 「登べる学べる」
 動画教材 「トラベル学べる」
 世界遺産垣路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク教材
 その他 具体的に

12-5. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに○)

- スライド(パワーポイント等)
 フラッシュカード
 ピクチャーカード
 フリップ
 レアリア・生教材
 その他 具体的に

12-6. 今回のコースでの「話す(やりとり)」言語活動について、オンライン教育上の課題や改善点をお答えください。

学生側の機器の問題で時々音声がかき切れることがあった。また、オンラインであるため、タイムラグは避けられない。

12-7. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースで行った学習者の日本語能力の評価をお選びください。(複数回答可、あてはまるものに☑)

筆記試験
 その他の試験
 具体的な：

口頭試験
 スピーチやプレゼンテーション
 作文
 ロールプレイ
 その他のパフォーマンス評価
 具体的な：

自己評価
 相互評価
 ポートフォリオによる評価
 その他
 具体的な：

12-8. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースの学習者の評価をご入力ください。入力枠が足りない場合は、必要に応じて行を追加してください。

名前	評価結果
学生1 (オンライン)	自国の文化や趣味についての会話が成立する。
学生2 (オンライン)	こちらの話は聞いているようだが、ほとんど反応がない。
学生3 (オンライン)	こちらの話は聞いているようだが、ほとんど反応がない。
学生4 (オンライン)	こちらの話は聞いているようだが、ほとんど反応がない。
学生5 (オンライン)	こちらの話は聞いているようだが、ほとんど反応がない。
学生6 (オンライン)	反応がなく、ほとんど授業に出席していない。
学生7 (オンライン)	反応がなく、ほとんど授業に出席していない。
学生8 (オンライン)	反応がなく、ほとんど授業に出席していない。
学生9 (オンライン)	反応がなく、ほとんど授業に出席していない。
学生10 (対面)	自国の文化や自身の具体的な目標について話すことができる。
学生11 (対面)	身近な話題について問題なく話すことができる。
学生12 (対面)	おとなしいが、質問などに正しく答えることができる。
学生13 (対面)	時々勘違いをし、おかしな回答をすることがあるが、コミュニケーションに大きな問題はない。
学生14 (対面)	日本語学習を始めて日が経いたため、会話力はまだ低いが、積極性はある。
学生15 (対面)	会話などに参加する方ではないが、相手が話したことを理解している。
学生16 (対面)	日本語力は高い方だが、消極的な性格であるため、進んで発言することはない。
学生17 (対面)	会話に苦手意識があるようで、こちらの質問に答えるだけだった。
学生18 (対面)	日本語力が低いため、単語を発するだけのことが多かった。
学生19 (対面)	日本語力は高い方だが、出席率が悪くあまり授業に参加しなかった。

言語活動「話す(発表)」へ

部分にご入力(多数)選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに○を付けてください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 学習効果「成果」について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたか、日本語能力の伸びに関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えください。

自国について説明できるレベルの日本語力を備えている学習者がいたため、対面で参加している学生とオンラインの学生とで文化交流ができたように思います。弊校は中国籍の学生がほとんどなので、在校生にとっても新鮮で興味深い経験になったかと思います。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、対面指導と違いはありましたか、対面指導と比較して、良かったこと/良かったことその理由と合わせてお教えください。

対面指導と比較して良かったことは、やはり新型コロナウイルスの影響や学習者本人の事情で現在来日が難しく、学習者が授業を受けられたことだと思います。また、対面授業と異なり、学習者がリラックスできる環境で学べることも大きなメリットを感じました。
良かった点は学習者の様子やオンラインでの確認しづかったこと、学習者の中には特に反応を示さなかった学習者がいたこと、直接注意されることのないため、学習者がたがわず授業として扱って頂いていた面がありました。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力「スキル」向上しましたか、(あてはまるものに○)
「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力「スキル」をお答えください。

- 非常に向上した
 やや向上した向
 上しなかった分
 からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか、(あてはまるものに○)

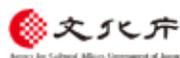
- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか、(あてはまるものに○)

- ぜひ取り組みべき
 課題はあるが取り組みべき
 き慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当者へ](#)

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください

翰林日本語学院

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

初級授業体験コースロシア向け(初級)

3. 今回のコースの「レベル」「スタイル」「目的」の番号を入力欄にご入力ください。

	入力欄
レベル	1. A1 2. A2 3. B1 4. B2 5. C → 1
スタイル	1. オンラインのみ 2. ハイブリッド 3. オンデマンド 4. ハイフレックス → 1
目的	1. 進学 2. 就職 3. 一般 → 2

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン(デバイス)」別にお答えください。
※複数形式で受講していただく受講生については「庄」に利用されていた形式でお考えください。
(形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるように入力ください)

対面	0	人
オンライン(タブレット)	2	人
オンライン(パソコン)	2	人
オンライン(スマートフォン)	3	人
合計	7	人

— 計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください

	授業日(日にち) 「月」「日」を「/」で区切り半角で入力する(「○月○日(曜日)」が表示されます)	授業時間(分) 半角数字で入力	受講者数(人) 半角数字で入力
1)	7月9日(土)	60分	7人
2)	7月16日(土)	60分	7人
3)	7月23日(土)	60分	6人
4)	7月30日(土)	60分	7人
5)	8月6日(土)	60分	7人
6)	8月13日(土)	60分	6人
7)	8月20日(土)	60分	2人
8)	8月27日(土)	60分	7人
9)	9月3日(土)	60分	4人
10)	9月10日(土)	60分	3人
11)	9月17日(土)	60分	4人
12)	9月24日(土)	60分	3人
13)			
14)			
15)			
16)			
17)			
18)			
19)			
20)			
21)			
22)			
23)			
24)			
25)			
26)			
27)			
28)			
29)			
30)			

↓ 計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

実施期間

7月9日(土) ~ 9月24日(土)

実施日数

12日

総授業時間

720分

← 8月までで4名がやめました。

※実施が30日を超える場合、6~10の欄間にご回答後続き(31日目以降)を本シートの135行目以降に入力してください

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラデシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input type="checkbox"/> ネパール	<input type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input checked="" type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input checked="" type="checkbox"/> その他 <small>具体的にロシア</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input checked="" type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代以上
---	---	---	--------------------------------

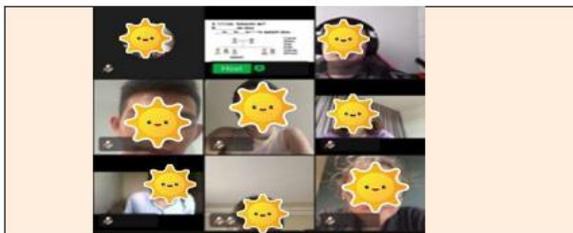
8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。（複数選択可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

日本語ゼロレベル～N5レベルまでの学習者が対象。毎回の授業で少しずつ自分のことについて話せることを増やしていくというコンセプトのもとで、オリジナルの教材を作成。従来の段階的に進む文法的なステップにこだわらず、学習者が自分について話せるようになるための表現、文型や、語彙を選び、毎回、いくつかの誤話を提示し導入、教師から学習者への問答練習、学習者同士の問答練習の後に、最終的には、テーマについて書かれたモデル作文を提示し、それに自身についての内容をあてはめて書く作文にも挑戦してもらった。作文では、手書きできれいかけてくれた学習者もいた。そのような作文はパドレットに投稿してもらった。当初は、ゼロレベルの学生がいたため、すべてローマ字表記にしたが、3回目以降は学習者の要望もあり、ひらがな表記にした。最終的にはひらがな読みができなかった学生も10回目にはかなりすらすら読めるようになった。名前や国、家族構成、年齢、誕生日から始まり、好きなものについて比較級をつけていい表すこと、また形容詞を使って自分の町、家、部屋について話すこと、さらに、動詞表現をつけて、日常生活の行動について時間や頻度なども取り入れながら話すことができるようになった。このように、毎回全く知らない同士だったクラスメートが、1週間に一度会って、それぞれのことについて語り合い知り合えるチャンスができた。みな楽しそうに学習していた。幸い、ベトナム人とロシア人の学習者が半々だったので、学習者同士で分からないとき助け合うこともできた。これは非常にみていて微笑ましいものであった。また、通信関係のトラブルも比較的少なく、学習者とのコンタクトもよかったのは恵まれていた。以上、週1回1時間であったが、かなり中身の濃い授業ができたと感じている。

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



総合教材の使用へ

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

初級授業体験コースロシア向け（初級）の総合教材の使用についてお伺いします。

↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は前シートに戻りお答えください。「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 行った	→→→→→	下記11-2へ
<input checked="" type="checkbox"/> 行っていない	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。（複数回答可、あてはまるものに☑）

※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	→→→→→	下記11-3へ
<input type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか、具体的にお教えください。

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものにのみお付けください。

初級授業体験コース向け(初級) の「話す(やりとり)」言語活動についてお伺いします

- 1 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

12-1. 今回のコースで実施した授業での「話す(やりとり)」の目標(課題設定: Can Do)をお教えください。

毎回の課題目標を学習者に提示し、会話練習を実施。

- ①自分の名前、国、家族、年齢、お誕生日について言える。家族の人数、家族構成なども言える。
②好きなものについて話せる。何が好きか、あるグループの中でどれが一番好きか、何より何が好きかなどの比較級も使用できる。
③自分の町、家、部屋について形容詞をつかって紹介できる。
④寝る時間、起きる時間、1週間のスケジュールについて話せる。
⑤日常的な行為について話せる。頻度についても言及できる。

12-2. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

※選択肢が何も表示されない場合、

概要シート3. 「レベル・スタイル・目的」が入力できているかを確認してください。

※スタイルが「オンデマンド」「フレキシブル」の場合、

6つ目の選択肢はないため「****」と表示されます。☑は入れないでください。

- 初級総合教材を活用した「話す(やりとり)」を中心にした指導実
 実践 オリジナル教材を活用した「話す(やりとり)」を中心にした指導
 実践 語彙・文法指導の後、それらを活用した会話練習の指導実践
 場面別会話の練習から、語彙・表現等を習得する指導実践
 母語による支援を加えた指導実践
 反転授業(事前学習)を実施した指導実践
 その他 具体的に

12-3. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的にお教えください。

- ①レッスン前にレッスンで使用する1つ1つデータを送り予習ができるようにする。
語彙、文法解説部分はすべて母語の翻訳付き。
②簡単な会話文を提示し、例としてあげたことをいれかえながら答えを言う練習。
③ペアで例にあがっている会話文を練習。
④同じ会話でことは自分にあてはまるものに変えて自由に会話する。

12-4. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

市販の教材「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
 個人作成の教材(パワーポイントなどで作成)
 市販の教材
 → 具体的なメーカー名・教材名が複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。
 → みんなの日本語
 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
 → 具体的なWEBサイト名・URL番号・教材名が複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。
 → いろどり
 動画教材「遊べる 学べる」
 動画教材「トラベル 学べる」
 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
 その他 具体的に

12-5. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

- スライド(パワーポイント等)
 フリップ
 フラッシュカード
 レアリア・生教材
 ピクチャーカード
 その他 具体的に

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに○をお付けください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 学習効果・成果について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたが、日本語能力の伸長に関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えてください。

このクラスは、ゼロレベルの学生ばかりで、ロシア人とベトナム人が半々というクラスでした。そのこと自体が面白い意味での緊張感を作りだし、まさに理想的なインフォメーションギャップの状況でした。普段顔を合わすことがない者同士が、週に1回1時間、日本語学習を通じていろいろな会話をすることによって知り合える楽しい体験ということで、より学習への意欲がたかまったのではないかと思います。現に、毎回学習者同士の会話は楽しそうで、それぞれについて新たな発見をしていく様子は、まさに異文化理解、多文化共生の意識につながっていたのではないかと感じました。ベトナム人のくせのある発音が聞き取りにくいことがあっても、ロシア人の学習者は上手に聞き返したりしてとても微笑ましく感じました。参加していた学習者に関しては（途中からでられなくなってしまった人もいます）毎回できることが増えていき新しいことを吸収してくれていました。自由会話ができるレベルではありませんが、授業の合間のわたしの何気ない会話で、話したいことが話せずもどかしそうにしている様子で、最後には英語できてきてくれ日本語でういつらいいか教えてくださいということもありました。最後まで参加してくれた学習者3名は特に非常に意欲的でした。また、全員が非常に友好的で、後半ではわからないことがあっても同国人同士が母語で助け船をだしてくれたりしていました。これは、教える方も教えられる方にとってもスキルアップにつながることで、クラスの連帯感が学習効果に大きく貢献した事実だと言えます。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、対面指導と違いはありましたか、対面指導と比較して、良かったこと/良かったことと理由と合わせてお教えてください。

良かったこと
①普段会えない同士が、この時間だけ出会い、話ができるという緊張感のある環境
良かったこと
①書くことによる確認がしにくいこと。
②わかっているのかわかっていないのかの反応がわかりにくいこと
③学習者の周りの環境が雑音が多かったり、ネット状況がよくないこと

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキル向上しましたが、(あてはまるものに○)「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルを教えてください。

- 非常に向上した
 やや向上した
 向上しなかった
 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。(あてはまるものに○)

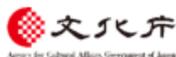
- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。(あてはまるものに○)

- ぜひ取り組むべき
 課題はあるが取り組むべき
 慎重にすべき
 必要性を感じない

今回のコース担当者へ

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものを□をお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください

翰林日本語学院

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

JLPTN5直前対策

3. 今回のコースの【レベル】「スタイル」【目的】の番号を入力欄にご入力ください。

						入力欄
レベル	1. A1	2. A2	3. B1	4. B2	5. C	→ 1
スタイル	1. オンラインのみ	2. ハイブリッド	3. オンデマンド	4. ハイフレックス		→ 4
目的	1. 進学	2. 就職	3. 一般			→ 3

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン（デバイス）」別にお答えください。

※複数の形式で受講していただく受講生については、主に利用されている形式でお考えください。
(形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるように入力ください)

対面	2	人
オンライン（タブレット）		人
オンライン（パソコン）	1	人
オンライン（スマートフォン）		人
合計	3	人

←計算式が入った時、お間違いのないようご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください

	授業日（日にち） [月]と「日」を「/」で 区切り半角で入力すると「 ○月○日（曜日）」が表示 されます。	授業時間 (分) 半角数字で入力	受講人数 (人) 半角数字で入力
1)	11月30日(水)	60分	3人
2)			
3)			
4)			
5)			
6)			
7)			
8)			
9)			
10)			
11)			
12)			
13)			
14)			
15)			
16)			
17)			
18)			
19)			
20)			
21)			
22)			
23)			
24)			
25)			
26)			
27)			
28)			
29)			
30)			

↓ 計算式が入った時、お間違いのないようご確認ください。

実施期間

11月30日(水) ~ 11月30日(水)

実施日数

1日

総授業時間

60分

※実施が30日を超える場合、6～10の質問に回答後
続き（31日以降）を本シートの135行目以降に
入力してください。

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラデシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input type="checkbox"/> ネパール	<input checked="" type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input checked="" type="checkbox"/> その他 <small>具体的にロシア</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input checked="" type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代以上
------------------------------	---	---	--------------------------------

8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。（複数選択可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input checked="" type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください

JLPTの公開問題を使用し、直前対策を行う
 ①受講者に問題を送り各自取り組んでもらう。
 ②解答と解説動画を送り各自に採点と動画を見ての学習を行ってもらう
 ③授業当日は質問に対するFB・N5の文法練習・試験についての説明を行う。

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



[総合教材の使用へ](#)

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

JLPTN5直前対策 の総合教材の使用についてお伺いします。

↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は前シートに戻りお答えください。
 「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 行った	→→→→→	下記11-2へ
<input checked="" type="checkbox"/> 行っていない	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。（複数回答可、あてはまるものに☑）
 ※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	→→→→→	下記11-3へ
<input type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか、具体的にお教えください。

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

部分にご入力(入力)選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに□を付けてください。

JLPTN5 直前対策 の **【その他】** 言語活動についてお伺いします。

↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力できない方は概要シートに記入してください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

18-1. 今回のコースで実施した授業での **【その他】** の目標 (課題設定: Can Do) をお教えてください。

JLPTN5の試験について理解する。

【その他】 言語活動はこのコースで行ってない → [今回のコース・単業全体について](#)

18-2. **【その他】** 言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに□)

※ 選択肢が何も表示されない場合、
概要シート 3. 「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認(強制)
※ スタイルが「オンデマンド」「フレックス」の場合、
6つ目の選択肢はないため「****」と表示されます。□は入れないでください

- JLPTなどの試験問題の解答解説の動画を見た後で参加する指導実践
- 日本留学、日本での生活に必要な情報に関する事前学習の後で参加する指導実践
- 日本語以外の科目に関する事前学習を行った後で参加する指導実践
- 事前課題を行った後で日本人や日本に住む外国人との交流を行う指導実践
- 母語による支援を加えた事前学習の後で参加する指導実践
- *****
- その他 具体的に _____

18-3. **【その他】** 言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的に教えてください

事前にJLPTN5の公開問題に取り組んで採点を行い、解答解説動画で学習してもらった。
授業当日はN5を以て質問に答え、文法の学習を行い、JLPTについて、またN5の試験構成や得点についての説明を行った。

18-4. **【その他】** 言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに□)

市販の教材「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材 (パワーポイントなどで作成)
- 市販の教材
→ 具体的な出版社名、教材名を複数記載の場合は、教材ごとに答えください。
日本語能力試験JLPT 公式問題集N5
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
→ 具体的なWEBサイト名/出版名、教材名を複数記載の場合は、教材ごとに答えください。
- 動画教材 「遊べる学べる」動画
- 教材 「トラベル学べる」
- 世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク教材 その他
- その他 具体的に _____

18-5. **【その他】** 言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに□)

- スライド (パワーポイント等)
- フリップ
- フラッシュカードピク
- レアリア・生教
- チャーカード
- 材 その他 具体的に _____

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに□をお付けください。

今回のコースや事業全体についてお話しします。

19. 学習効果・成果について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたか、日本語能力の向上に関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えください。

対面の受講生の能力・意識の向上はわからなかったが、オンラインで参加した受講生は、来年4月に日本へ来ることで、日本へ行くのが楽しみになったというメッセージを送った。今回は電子黒板を使用して授業を行ったが、対面の学生にもホワイトボードのように書いて見せることができ、オンラインの学生にもそれを画面共有で見せることができるので、どちらについても見やすいようだった。これら、オンラインの学生がいてもしっかり対面での授業に近い形で授業できたと思う。オンラインの学生を電子黒板に大きく写すこともできたので、対面の学生にもオンラインの学生と学ぶのが実感でき、対面の学生だけよりも動きがで、面白かった。対面の学生も楽しかったとコメントをくれた。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、対面指導と違いはありましたか、対面指導と比較して、良かったこと/良かったところの理由と合わせてお教えください。

電子黒板のおかげで、対面での指導と大きく違いを感じなかった。人数が少なかったことも良かったと思う。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキル向上しましたか、(あてはまるものに□)「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルに□をお答えください。

- 非常に向上した
 やや向上した
 向上しなかった
 からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか、(あてはまるものに□)

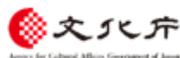
- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が数日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか、(あてはまるものに□)

- ぜひ取り組みべき
 課題はあるが取り組みべき
 き慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当者へ](#)

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



□ 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください

翰林日本語学院

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

アカデミックジャパニーズ聴解コース2

3. 今回のコースの【レベル】【スタイル】【目的】の番号を入力欄にご入力ください。

						入力欄
レベル	1. A1	2. A2	3. B1	4. B2	5. C	→ 4
スタイル	1. オンラインのみ	2. ハイブリッド	3. オンデマンド	4. ハイフレックス		→ 2
目的	1. 進学	2. 就職	3. 一般			→ 1

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン（デバイス）」別にお答えください。
※複数の形式で受講していただいた受講生については、主に利用された形式でお考えください。
(形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるようご入力ください)

対面	2	人
オンライン（タブレット）		人
オンライン（パソコン）	2	人
オンライン（スマートフォン）		人
合計	4	人

←計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください

	授業日(日にち) 「月」と「日」を「/」で区切り半角で入力すると「○月○日(曜日)」が表示されます	授業時間 (分) 半角数字で入力	受講者数 (人) 半角数字で入力
1)	10月17日(月)	60分	3人
2)	10月24日(月)	60分	4人
3)	11月7日(月)	60分	4人
4)	11月28日(月)	60分	3人
5)	12月5日(月)	60分	4人
6)	12月19日(月)	60分	3人
7)			
8)			
9)			
10)			
11)			
12)			
13)			
14)			
15)			
16)			
17)			
18)			
19)			
20)			
21)			
22)			
23)			
24)			
25)			
26)			
27)			
28)			
29)			
30)			

↓計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

実施期間

10月17日(月) ~ 12月19日(月)

実施日数

6日

総授業時間

360分

※実施が30日を超える場合、6～10の質問にご回答後
続き(31日目以降)を本シートの135行目以降に
入力してください

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。 **複数回答可、あてはまるものに□**

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラデシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input type="checkbox"/> ネパール	<input checked="" type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input checked="" type="checkbox"/> その他

複数回答可
ロシア

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。 **複数回答可、あてはまるものに□**

<input type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input checked="" type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代以上
------------------------------	---	---	--------------------------------

8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。 **複数選択可、あてはまるものに□**

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input type="checkbox"/> その他
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

複数回答可

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

目的：大学進学希望者を対象に、講義を聞く、まとめる力を付け、自らも発表、レジュメ作成ができるようになる。
 授業の進め方：基本、テキストの「使い方」に沿って進めたが、非漢字圏の学生、語彙の少ない学生のために語彙表を用意した。最終的に自国の文化を紹介。その際に、レジュメ作成、発表、FBを行った。

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



総合教材の使用へ

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに□をお付けください。

アカデミックジャパニーズ聴解コース2 の総合教材の使用についてお伺いします。

1 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は前シートに戻りお答えください。
 「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。
（あてはまるものに□）

<input type="checkbox"/> 行った	→→→→→	下記11-2へ
<input checked="" type="checkbox"/> 行っていない	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。 **複数回答可、あてはまるものに□**
 ※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	→→→→→	下記11-3へ
<input checked="" type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか。 **具体的に教えてください。**

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

アカデミック・ジャパニーズ聴解コース の **話す(やりとり)** 言語活動についてお伺いします

- 1 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

12-1. 今回のコースで実施した授業での **話す(やりとり)** の目標 (課題設定: Can Do) をお教えください。

・教師、他の学生の質問に対し、自然に答えることができる。・相手や場面によって、適切な話し方をすることができる。・聞き返しや質問をするとき、レベルにあった適切な語彙、文法を使える。

12-2. **話す(やりとり)** 言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

※ 選択肢が何も表示されない場合、

概要シート3. 「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。

※ スタイルが「オンデマンド」「フレックス」の場合、

6つ目の選択肢はないため「****」と表示されます。☑は入れないでください。

- 中上級総合教材を活用した「話す(やりとり)」を中心とした指導実践
 語彙・文法・表現の指導の後、それらを活用した会話練習の指導実践
 場面別会話の練習から、語彙・文法・表現等を習得する指導実践
 テーマを決めてロールプレイを行う指導実践
 日本人の会話パートナーを参加させた指導実践
 反転授業(事前学習)を実施した指導実践
 その他 具体的に 聴解の内容理解等の確認のなかで行った指導実践

12-3. **話す(やりとり)** 言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的に教えてください。

テキストの「聞く前に」：テーマについて知っていることを発表。それに対する質問。「練習日」：質問に対する正しい答え方の練習。「発表準備のレジュメ作成」：教師が添削し、添削理由を説明。また、学生が何を書こうとしたのか、学生の意図を質問し、答える。「発表」：質疑応答を行う。

12-4. **話す(やりとり)** 言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに☑)

市販の教材」日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
 個人作成の教材(パワーポイントなどで作成)
 市販の教材
具体的なメーカー名・教材名※複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。
 → → → アカデミック・ジャパニーズ聴解
 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
具体的なWEBサイト名/出版者・教材名※複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。
 → → →
 動画教材 「遊べる 学べる」
 動画教材 「トラブル 学べる」
 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
 その他 具体的に

12-5. **話す(やりとり)** 言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに☑)

- スライド(パワーポイント等) フリップ
 フラッシュカード レアリア・生教材
 ぶりチャーカード その他 具体的に 使わなかった

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 学習効果・成果について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたが、日本語能力の伸びに関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えてください。

・オンラインの学生は二人ともロシアの学生で、それぞれ十分B2レベルを有する学生だった。しかし、書き言葉と話し言葉の使い分けを知らず、最初のころは同じミスを繰り返したが、最後はきちんと使いわけていた。・オンラインの学生のうち一人は、日本に来たことがないが、独学でB2レベルまで習得しており、教室にいる学習者と日本語で交流することで、来日への期待を膨らませていた。なので、オンラインでも異文化理解のための交流は可能だと考える。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、対面指導と違いはありましたか、対面指導と比較して、良かったこと/良くなかったことをその理由と合わせてお教え下さい。

・良かったこと：対面でないからこそ、お互い自分の言葉が正しく伝わっているかどうかという気遣いが、各学生から見て取れた。良くなかったこと：Wi-Fiの環境の善し悪しに影響してしまう。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは) 向上しましたが、(あてはまるものに☑)「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについて答えください。

- 非常に向上した
 やや向上した
 向上しなかった
 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか、(あてはまるものに☑)

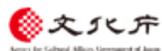
- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか、(あてはまるものに☑)

- ぜひ取り組むべき
 課題はあるが取り組むべき
 慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当者へ](#)

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



部分にご入力(※)選択肢が用意されている項目については、あてはまるもののみをお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください

翰林日本語学院

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

動画で学ぶ日本語 東京 宿根

3. 今回のコースの「レベル」「スタイル」「目的」の番号を入力欄にご入力ください。

	入力欄
レベル	1. A1 2. A2 3. B1 4. B2 5. C → 5
スタイル	1. オンラインのみ 2. ハイブリッド 3. オンデマンド 4. ハイフレックス → 1
目的	1. 進学 2. 就職 3. 一般 → 1

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン(デバイス)」別にお答えください。
※複数の形式で受講していた受講生については「主に」利用されていた形式でお考えください。
(形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるようにご入力ください。)

対面	人
オンライン(タブレット)	人
オンライン(パソコン)	6 人
オンライン(スマートフォン)	人
合計	6 人

←計算式が入っています。お間違いのないようご確認ください

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください

	授業日(日)に「月」と「日」を「/」で区切り半角で入力すると「○月○日(曜日)」が表示されます	授業時間(分) 半角数字で入力	受講者数(人) 半角数字で入力
1)	7月20日(水)	90分	4人
2)	7月27日(水)	90分	4人
3)	8月3日(水)	90分	4人
4)	8月10日(水)	90分	4人
5)	8月17日(水)	90分	4人
6)	8月24日(水)	90分	4人
7)	9月7日(水)	90分	4人
8)	9月14日(水)	90分	4人
9)	9月21日(水)	90分	4人
10)	9月28日(水)	90分	4人
11)	10月5日(水)	90分	4人
12)	10月12日(水)	90分	3人
13)			
14)			
15)			
16)			
17)			
18)			
19)			
20)			
21)			
22)			
23)			
24)			
25)			
26)			
27)			
28)			
29)			
30)			

↓ 計算式が入っています。お間違いのないようご確認ください。

実施期間
7月20日(水) ~ 10月12日(水)

実施日数 12日
総授業時間 1,080分

※実施が30日を超える場合、6~10の欄間にご回答後続き(31日目以降)を本シートの135行目以降に入力してください

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。複数回答可、あてはまるものに☑

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input checked="" type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラデシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input type="checkbox"/> ネパール	<input checked="" type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input checked="" type="checkbox"/> その他 <small>具体的にロシア</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。複数回答可、あてはまるものに☑

10代
 20代
 30代
 40代以上

8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。複数選択可、あてはまるものに☑

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

JR西日本コミュニケーションズの自主事業教材、遊べる学べる東京「トラベル学べる箱根」を利用。観光スポットや日本文化を紹介するナレーション音声を理解した上で、テーマに関連する自分の経験や知識、調べてきたことをアウトプットする活動を行った。また留学生同士の自然な会話のやりとりを理解した上で、自分だったら何と書くか、他にどのような表現の仕方があるか、どのような文法の違いがあるかを考えた。

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



[総合教材の使用へ](#)

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑を付けてください。

動画で学ぶ日本語部最新スポット紹介「東京箱根」の総合教材の使用についてお伺いします。

↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示して必ず入力ください。方は前シートに戻りご覧ください。コース名がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 行った	----->	下記11-2へ
<input checked="" type="checkbox"/> 行っていない	----->	言語活動「話す（やりとり）」へ

11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。（複数回答可、あてはまるものに☑）
※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	----->	下記11-3へ
<input type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	----->	言語活動「話す（やりとり）」へ

11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか。具体的にお教えください。

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

- 部分にご入力(内容)選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑を付してください。

動画で学ぶ日本語会話最新スポット紹介「東京 巻頭」の「話す(やりとり)」言語活動についてお問い合わせします。

↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されている方は概要シートに戻りお答えください。
コース名がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

12-1. 今回のコースで実施した授業での「話す(やりとり)」の目標(課題設定: Can Do)をお教えください。

質問に対し、自然に、過不足なく答えることができる。
相手や場面によって適切な話し方をすることができる。
よく知らぬ話題に関しても議論に参加することができる。
聞き返しや相手に説明を求めめるなどのストラテジーを利用し、スムーズに会話を進めることができる。

12-2. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

※選択肢が何も表示されない場合、
概要シート3. 「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。
※スタイルが「オンデマンド」「ハイフレックス」の場合、
6つ目の選択肢はないため「****」と表示されます。☑は入れないでください。

- 上級総合教材を活用した「話す(やりとり)」を中心とした指導実践
- 語彙・文法・表現の指導の後、それらを活用した会話やロールプレイを行う指導実践
- 実践別会話の練習から、語彙・文法・表現等を習得する指導実践
- テーマを決めてディスカッション・ディベートを行う指導
- 実践 日本人の会話パートナーを参加させ指導実践
- 反転授業(事前学習)を実施した指導実践
- その他 具体的に 実際に行っている中で、日本語の表現を学ぶ指導実践

12-3. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的に教えてください。

動画で見た留学生が銀先で、日常生活で遭遇しそうな状況を表示し、そこから自分だったら何とかが、他にどのような表現があるかを確認し、学習者間や教師-学習者間でやりとりをした。そのやりとりの中で、必要に応じて文法や音韻についての説明をした。テーマごとにお互いの経験・知識、考えなどを話し合った。

12-4. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに☑)

「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材 (パワーポイントなどで作成)
- 市販の教材
→ 具体的なメーカー名・教材名が複数ある場合は、教材ごとに☑を記入してください。
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
→ 具体的なWEBサイト名/出版社名・教材名が複数ある場合は、教材ごとに☑を記入してください。
- 動画教材 「登べる学べる」
- 動画教材 「トランクル学べる」
- 世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク教材
- その他 具体的に

12-5. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

- スライド (パワーポイント等)
- フリップ
- フラッシュカード等
- レアリア・生教
- チャーカード
- 材 その他 具体的に

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 学習効果・成果について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたが、日本語能力の伸長に関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的に教えてください。

•使用した動画教材は架空の場所、人物ではなく、実在する場所を題材としているため、関心を持ち、質問や感想などの活発に交わされた。
 •海外から受講した学習者（ロシア）は、今、国は大変な状況だが、このクラスの時間は貴重なこと心配なことを忘れて、大好きな日本文化についての話ができる時間だと言ってくれた。そしてぜひ日本に行きたい。そのためにも日本語の勉強を続けたいと述べていた。
 •日本に住む日本語学習者の日本留学の様子や生活の様子などを海外から参加した学生は興味深（聞いていた）、以上の点から、学習者の日本語学習、日本留学へのモチベーションの維持向上と、意識があったと感じている。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、対面指導と違いはありましたか。
 対面指導と比較して、良かったこと/良くなかったことをその理由と合わせて教えてください。

良かったこと
 学習者から質問や疑問に思う箇所が出た際、他の学習者が知っていることをチャットで打ったり、webで調べチャットで情報を共有するなど学習者間のやりとりが活発だった。授業が行われている画面上のやりとりと同時進行でチャットでのやりとりができるのは良い点だと思う。
 良くなかったこと
 動画やwebページ表示、パワーポイントなど複数の機能を使用すると教師のPCの性能によっては画面がフリーズすることがあった。学習者もそれぞれのネット環境によって音が聞こえにくかったり、フリーズしたりすることがあったが、これは仕方がない問題だと考える。
 日本語で「打つ」ことば慣れていない学習者も多かった。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは「向上」しましたか。（あてはまるものに☑）
 「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについて教えてください。

- 非常に向上した
 やや向上した向
 上しなかった分
 からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組むべき
 課題はあるが取り組むべき
 き慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当者へ](#)

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものにをお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください。

翰林日本語学院

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

動画で学ぶ日本語 大阪 京都

3. 今回のコースの「レベル」「スタイル」「目的」の番号を入力欄にご入力ください。

	レベル	スタイル	目的	入力欄
	1. A1 2. A2 3. B1 4. B2 5. C	1. オンラインのみ 2. ハイブリッド 3. オンデマンド 4. ハイフレックス	1. 進学 2. 就職 3. 一般	→ 5
				→ 1
				→ 1

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン（デバイス）」別にお答えください。
 ※複数の形式で受講している受講生については、主に利用されている形式でお答えください。
 （形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるようご入力ください）

対面	0	人
オンライン（タブレット）	0	人
オンライン（パソコン）	5	人
オンライン（スマートフォン）	1	人
合計	6	人

← 計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください

授業日（日にち） 「月」と「日」を「/」で 区切り半角で入力すると「 ○月○日（曜日）」が表示 されます	授業時間 （分） 半角数字で入力	受講者数 （人） 半角数字で入力
1) 10月21日(金)	90分	6人
2) 10月26日(水)	90分	6人
3) 11月2日(水)	90分	6人
4) 11月9日(水)	90分	6人
5) 11月16日(水)	90分	6人
6) 11月18日(金)	90分	6人
7) 11月25日(金)	90分	4人
8) 11月30日(水)	90分	4人
9) 12月7日(水)	90分	4人
10) 12月14日(水)	90分	4人
11) 12月21日(水)	90分	4人
12) 12月23日(金)	90分	4人
13)		
14)		
15)		
16)		
17)		
18)		
19)		
20)		
21)		
22)		
23)		
24)		
25)		
26)		
27)		
28)		
29)		
30)		

↓ 計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

実施期間

10月21日(金)	-	12月23日(金)
-----------	---	-----------

実施日数

12日

総授業時間

1,080分

※実施が30日を超える場合、6～10の欄間にご回答後
 続き（31日目以降）を本シートの35行目以降に
 入力してください

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。複数回答可、あてはまるものに□

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラデシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input type="checkbox"/> ネパール	<input checked="" type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input type="checkbox"/> その他 <small>（例）ロシア</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。複数回答可、あてはまるものに□

<input type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input checked="" type="checkbox"/> 30代	<input checked="" type="checkbox"/> 40代以上
------------------------------	---	---	---

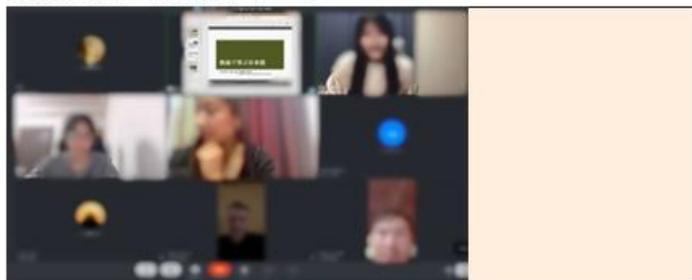
8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。複数選択可、あてはまるものに□

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input checked="" type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input type="checkbox"/> その他 <small>（例）</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

JR西日本コミュニケーションズの自主事業教材、「随べる学べる大阪」「トラベル学べる京都」を利用。観光スポットや日本文化を紹介するナレーション音声を理解した上で、テーマに関連する自分の経験や知識、調べてきたことをアウトプットする活動を行った。また留学生同士の自然な会話のやりとりを理解した上で、自分だったら何と言うか、他にはどのような表現の仕方があるか、どのようなニュアンスの違いがあるかを考えることを通じて日本語を学ぶ。

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



[総合教材の使用へ](#)

- 部分に□を入力（※）選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに□をお付けください。

動画で学ぶ日本語 大阪・京都 の総合教材の使用についてお伺いします。

- ↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示します。入力されない方は前シートに表し替えてください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

- 11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに□）

<input type="checkbox"/> 行った	→	下記11-2へ
<input checked="" type="checkbox"/> 行ってない	→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。複数回答可、あてはまるものに□
※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	→	下記11-3へ
<input checked="" type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか、具体的にお教えてください。

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに□を付けてください。

動画で学ぶ日本語 大阪 京都 の「話す(発表)」言語活動についてお伺いします

- ↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示して頂きます。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

- 13-1. 今回のコースで実施した授業での「話す(発表)」の目標(課題設定: Can Do)をお教えください。

より微妙なニュアンスを表現するために、イントネーションを変化させたり、特定部分を強調することができます。適切な語彙、文法表現を使用して話すことができます。
自分の経験や調べてきた情報を明確かつ詳細に述べることもできる。
調べてきた情報について、明確な構造をもったプレゼンテーションができます。

- 13-2. 「話す(発表)」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに□)

※選択肢が何も表示されない場合、

概要シート 3. 「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。

※スタイルが「オンデマンド」「フレックス」の場合、

6つ目の選択肢はないため「****」と表示されます。□は入れないでください。

- 上級総合教材を活用した「話す(発表)」を中心とした指導実践
- スピーチテーマを決定後、必要な語彙・表現を習得する指導実践
- 文字・語彙・文法指導の後、それらを活用したスピーチ創作指導実践
- スライド等を使用したプレゼンテーション創作指導実践
- 調査等の発表と質疑応答を行う指導実践
- 反転授業(事前学習)を実施した指導実践
- その他 具体的に

- 13-3. 「話す(発表)」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的にお教えください。

授業において「日本語」「日本文化」に関するテーマの事前課題の発表・質疑応答を行う。
授業において学んだ、周囲にある日本語の表現に自覚的になり、分析するというを通して、身近にある気になる表現について発表・質疑応答を行う。

- 13-4. 「話す(発表)」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに□)

市販の教材「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材(パワーポイントなどで作成)
-) 市販の教材
→→→ 具体的な教材名・教材名が複数ある場合は、教材ごとに記入ください。
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
→→→ 具体的なWEBサイト名/教材名・教材名が複数ある場合は、教材ごとに記入ください。
- 動画教材「登べる学べる」
- 動画教材「トラベル学べる」
- 世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク教材
- その他 具体的に

- 13-5. 「話す(発表)」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに□)

- スライド(パワーポイント等)
- フリップ
- フラッシュカードピクチャ
- レアリア・生教材
- キャード
- その他 具体的に

13-6. 今回のコースでの **話す(発表)** 言語活動について、オンライン教育上の課題や改善点をお答えください。

発表している間、発表者は資料を画面共有しているため、対面の発表とは異なり、聴衆の反応を見ながら調整して話すことが難しくなっているのではないかと考え、評価者から見ても、準備してきた情報をそのまま正確に読み上げるような静的な発表になってしまっているように感じられた。その分、質疑応答の時間を長めにするようにしたが、一人の発表を全員の学びにつなげる工夫が、もう少し必要だと思われる。

13-7. **話す(発表)** 言語活動について、今回のコースで行った学習者の日本語能力の評価をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに○)

試験	<input type="checkbox"/> 筆記試験
	<input type="checkbox"/> その他の試験 →→→ 具体的に
パフォーマンス	<input type="checkbox"/> 口頭試験
	<input checked="" type="checkbox"/> スピーチやプレゼンテーション
	<input type="checkbox"/> 作文
	<input type="checkbox"/> ロールプレイ
	<input type="checkbox"/> その他のパフォーマンス評価 →→→ 具体的に
その他	<input type="checkbox"/> 自己評価
	<input type="checkbox"/> 相互評価
	<input type="checkbox"/> ポートフォリオによる評価
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 →→→ 具体的に 教師による観察評価

13-8. **話す(発表)** 言語活動について、今回のコースの学習者の評価をご入力ください。
入力枠が足りない場合は、必要に応じて行を追加してください。

名前	評価結果
A	100
B	100
C	90
D	100
E	70
F	90

[言語活動「聞く」へ](#)

- 部分にご入力(一部)選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに印をお付けください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 学習効果「成果」について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたか、日本語能力の伸長に関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを選択して、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えてください。

向上した。特に、授業初回では、教えられたものを理解するという一般的な授業と異なる展開に戸惑い、発言が少なくなってしまう様子が見られたが、授業を重ねるごとに、積極性が増していき、自分から学びたい言葉を探る姿勢が見られるようになった。動画の文字起こしや、自分自身の周囲にある生きた日本語運用をよく観察し、気になる表現やわからない言葉に自覚的になる姿勢が育まれたことは、今後、学習者が自律的・持続的に日本語を学んでいく上で効果的であると思われる。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、対面指導と違いはありましたか、対面指導と比較して、良かったこと/良くなかったことをその理由と合わせてお教えてください。

違いは多岐にわたる。対面指導と比較して良かったのは各項目(話す(やりとり)」「話す(発表)」「聞く(読む)」「書く(日本事情・日本語理解)」の「2-6」で述べた通りである。良かった点も多かったように思う。特に、発話だけでなく文字でのやりとりが生まれたことは、限られた時間の中でより多くの学習者の意見や、理解を確認する上で有効だった。また、オンラインだから生きた日本語や日本文化に触れられないのではなく、謎解きやトラベル学習の日本語の動画教材のように、日本各地を自由に授業中も授業後も巡りながら研修のペース合わせて学べることで、学習者の学習意欲向上にもつながったと思う。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは向上しましたか。(あてはまるものに印)「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについてお答えください。

- 非常に向上した
 やや向上した向
 上しなかった分
 からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。(あてはまるものに印)

- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。(あてはまるものに印)

- ぜひ取り組むべき
 課題はあるが取り組むべき
 を慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当者へ](#)

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください。

翰林日本語学院

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

就職活動準備コース

3. 今回のコースの「レベル」「スタイル」「目的」の番号を入力欄にご入力ください。

						入力欄
レベル	1. A1	2. A2	3. B1	4. B2	5. C	→ 5
スタイル	1. オンラインのみ	2. ハイブリッド	3. オンデマンド	4. ハイフレックス		→ 2
目的	1. 進学	2. 就職	3. 一般			→ 2

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン（デバイス）」別にお答えください。

※複数の形式で受講していた受講生については、主に利用された形式でお答えください。
(形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるようご入力ください)

対面	3	人
オンライン（タブレット）		人
オンライン（パソコン）	4	人
オンライン（スマートフォン）		人
合計	7	人

←計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください

	授業日(日)にち 「月」「日」「時」で区切り半 角で入力する(○月○日 (曜日)が表示されます)	授業時間 (分) 半角数字で入力	受講者数 (人) 半角数字で入力
1)	7月14日(木)	60分	5人
2)	7月28日(木)	60分	5人
3)	8月4日(木)	60分	3人
4)	8月11日(木)	60分	3人
5)	8月18日(木)	60分	5人
6)	8月25日(木)	60分	5人
7)	9月1日(木)	60分	4人
8)	9月8日(木)	60分	3人
9)	9月15日(木)	60分	4人
10)	9月22日(木)	60分	2人
11)	9月29日(木)	60分	1人
12)	10月7日(金)	60分	3人
13)			
14)			
15)			
16)			
17)			
18)			
19)			
20)			
21)			
22)			
23)			
24)			
25)			
26)			
27)			
28)			
29)			
30)			

↓計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

実施期間
7月14日(木) ~ 10月7日(金)

実施日数
12日

総授業時間
720分

※実施が30日を超える場合、6～10の質問にご回答後
続き(31日目以降)を本シートの135行目以降に
入力してください

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。 **複数回答可、あてはまるものに☑**

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラデシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input checked="" type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input type="checkbox"/> ネパール	<input checked="" type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input checked="" type="checkbox"/> その他 <small>具体的にロシア・マレーシア</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。 **複数回答可、あてはまるものに☑**

<input type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input checked="" type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代以上
------------------------------	---	---	--------------------------------

8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。 **複数選択可、あてはまるものに☑**

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

留学性の就活概要
 就活マナー
 就活情報の収集
 OG/OB訪問
 インターシップ
 自己分析
 業界／企業／職種研究
 エントリー／会社説明会／職種研究
 エントリーシート
 履歴書
 筆記試験／面接
 内定から入社

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



[総合教材の使用へ](#)

部分にご入力ください。選択枝が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

就職活動準備コース の総合教材の使用についてお伺いします。

↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は前シートに戻りお答えください。「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。 **（あてはまるものに☑）**

<input type="checkbox"/> 行った	----->	下記11-2へ
<input checked="" type="checkbox"/> 行っていない	----->	言語活動「話す（やりとり）」へ

11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。 **複数回答可、あてはまるものに☑**
 ※ 総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	----->	下記11-3へ
<input type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	----->	言語活動「話す（やりとり）」へ

11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか。 **具体的にお教えください。**

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

就職活動準備コース の「話す(発表)」言語活動についてお伺いします

- ↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

13-1. 今回のコースで実施した授業での「話す(発表)」の目標(課題設定: Can Do)をお教えください。

面接官の質問に的確に答えられる。
グループディスカッション・グループワークの手順がわかり、発表できる。

13-2. 「話す(発表)」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。 (複数回答可、あてはまるものに☑)

- ※ 選択肢が何も表示されない場合、
概要シート3. 「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。
※ スタイルが「オンデマンド」「フレックス」の場合、
6つ目の選択肢はないため「****」と表示されます。☑は入れないでください。

- 上級総合教材を活用した「話す(発表)」を中心とした指導実践
- スピーチテーマを決定後、必要な語彙・表現を習得する指導実践
- 文字・語彙・文法指導の後、それらを活用したスピーチを行う指導実践
- スライド等を使用したプレゼンテーションを行う指導実践
- 自分の意見を発表する指導実践
- 反転授業(事前学習)を実施した指導実践
- その他 具体的に

13-3. 「話す(発表)」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的に教えてください。

自己分析を行い、想定問題を例に、まず学習者に発表させ、どのように答えればよくなるのか考えさせた。
他の学習者の発表から、改善点を検討した。
グループディスカッション・グループワークの手順を説明し、役割を理解させた。

13-4. 「話す(発表)」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。 (複数回答可、あてはまるものに☑) 市販の教材「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材(パワーポイントなどで作成)
- 市販の教材
- 具体的に
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
- 具体的に
- 外国人留学生のための就活ガイド2023(独立行政法人 日本学生支援機構)
- 動画教材「遊べる 学べる」動
- 画教材「トラベル 学べる」
- 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
- その他 具体的に

13-5. 「話す(発表)」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。 (複数回答可、あてはまるものに☑)

- スライド(パワーポイント等)
- フリップ
- フラッシュカード
- レアリア・生教材
- ピクチャーカード
- その他 具体的に

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに○を付けてください。

就職活動準備コース の「読む」言語活動についてお伺いします

- 1 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

- 15-1. 今回のコースで実施した授業での「読む」の目標（課題設定：Can Do）をお教えください。

就活に必要な語彙や、ビジネス場面での言い回しなどについて理解する。
就活サイトや支援会社、企業採用ページなどから、自分に必要な情報を得ることができる。

- 15-2. 「読む」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに○)

- ※ 選択肢が何も表示されない場合、
概要シート3. 「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。
※ スタイルが「オンデマンド」「フレキシブル」の場合、
6つ目の選択肢はないため「****」と表示されます。○は入れないでください。

- 上級総合教材を活用した「読む」を中心にした指導実践
 ビジネス用の読解教材を活用した指導実践
 オリジナル教材を活用した指導実践
 ビジネスメール・ビジネスレター・ビジネス文書等の生教材を活用した指導実践
 読解問題を活用した指導実践
 反転授業（事前学習）を実施した指導実践
 その他 具体的に

- 15-3. 「読む」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的に教えてください。

実際の資料や、企業の人事関係書類などを見せ、記載内容について説明した。
文章の表面上の意味だけではなく、そこに含まれる意図を考える練習をした。

- 15-4. 「読む」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに○)
市販の教材「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
 個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）
 市販の教材
→ 具体的にメーカー名・教材名を複数お選びの場合は、教材ごとにお答えください。
日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材、市販の教材、教材名を複数お選びの場合は、教材ごとにお答えください。
 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
→ 具体的にWEBサイト名・教材名を複数お選びの場合は、教材ごとにお答えください。
→ 外国人留学生のための就活ガイド2023（独立行政法人 日本学生支援機構）
 動画教材「遊べる 学べる」
 動画教材「トラベル 学べる」
 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
 その他 具体的に

- 15-5. 「読む」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに○)

- スライド（パワーポイント等）
 フリップ
 フラッシュカード
 レアリア・生教材
 ピクチャーカード
 その他 具体的に

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

今回のコースや卒業全体についてお伺いします。

19. 学習効果「成果」について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたか、日本語能力の伸びに関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えください。

日本独特の就職活動について、当初は実感がなく、知識のみの習得になりがちだった。しかし、コース中に実際に面接を受けた学生から、学習内容をそのまま活用することができたと報告があった。実体験者の報告から、他の学習者も触発され、学習意欲が向上した。オンラインの学習者は当初とても意欲を持って参加していたが、国際情勢の悪化のため、当事国の学習参加者が減り残念だった。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、対面指導と違いはありましたか。対面指導と比較して、良かったこと/良かったことをその理由と合わせてお教えください。

対面の学習者は日本で就活中の学生を見かけるなど、実際の状況をリアルに感じることができるが、外国からオンラインで参加している学習者は実感が持ちにくく、モチベーションを上げるのが難しかった。

良かったこと： マスクをする必要がないので、表情がよくわかる。
 良かったこと： 気軽に質問することが難しかった。対面の学生は授業前後にコミュニケーションを取り、お互い理解を深められるが、オンラインの学生は、開始から終了時間飲みで退室してしまうため、学習仲間が作りづらい。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは向上しましたが、（あてはまるものに☑）「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについてお答えください。

- 非常に向上した
 やや向上した
 向上しなかった
 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組むべき
 課題はあるが取り組むべき
 慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当へ](#)

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input type="checkbox"/> 中国	<input checked="" type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラディッシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input type="checkbox"/> ネパール	<input type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input checked="" type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代以上
---	---	---	--------------------------------

8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。（複数選択可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input checked="" type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input checked="" type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

本コースは、N5～N4レベルの学生を対象とした会話中心の「話す・聞く・読む・書く」を学ぶのが目的です。
ハイブリッド形式のため、対面の学生とオンラインの学生を同時に授業しました。
テキストは「できる日本語初級」を使用し、教科書を中心にコースを
進めました。理解を深めるために、自作のパワーポイントやインターネ
ットを使用しました。
また、「遊べる 学べる 東京」や「トラベル 学べる 箱根」等を使用し、日本事情日本理解を深めました。

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



[総合教材の使用へ](#)

- 部分にご入力ください・選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

ハイブリッド一般A2コース の総合教材の使用についてお伺いします。

↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています・入力されていない方は前シートに是非お答えください・
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください・

- 11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 行った	→→→→→	下記11-2へ
<input type="checkbox"/> 行っていない	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。（複数回答可、あてはまるものに☑）
※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input type="checkbox"/> 言語活動に関わらず・総合的に評価した	→→→→→	下記11-3へ
<input checked="" type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか。具体的にお教えてください。

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑を付けてください。

ハイブリッド一般A2コース の「話す(やりとり)」言語活動についてお伺いします。

↑ 概要シート2.でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シート2.に塗りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート3.でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

12-1. 今回のコースで実施した授業での「話す(やりとり)」の目標(課題設定: Can Do)をお教えください。

日本人と話すことに慣れ、緊張せずに日本語で話せるようになること。
学生同士が日本語でコミュニケーションがとれるようになること。
勉強した文法を使った会話ができるようになること。
積極的に日本語が話せるようになること。

12-2. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。 (複数回答可、あてはまるものに☑)

※選択肢が何も表示されない場合、

概要シート3.「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。

※スタイルが「オンデマンド」「ハイフレックス」の場合、

6つ目の選択肢はないため「*****」と表示されます。☑は入れないでください。

- 初級総合教材を活用した「話す(やりとり)」を中心とした指導実践
- オリジナル教材を活用した「話す(やりとり)」を中心とした指導実践
- 経典(文法指導の後・それらを活用した会話練習)の指導実践
- 場面別会話の練習から・経典(表現等)を習得する指導実践 日
- 本人の会話パートナーを参加させ指導実践
- 反転授業(事前学習)を実施した指導実践
- その他 具体的に

12-3. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的にお教えください。

まず、授業が始まってから10分~20分ほどフリートークの時間を設け、教師から学生への会話や、学生同士の会話をさせ、日本語を話すことに対する抵抗をなくし、日本語で話すことに慣れるようにした。
テキスト「できる日本語初級」の『話してみよう』・『チャレンジ』では、学生に興味を投げかけ、学生の発言を中心に進めた。
文法導入では自作のパワーポイントを使用し、教師から学生へのやり取りを意識しながら進めた。
会話練習では、『言ってみよう』で対面とオンラインの学生でペアを指定し、日本語でのやり取りをする。
言語活動の時間を多く設けた。また、テキストの会話から派生させ、学生同士で質問しより多くの会話をするよう指示した。

12-4. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに☑)

「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材(パワーポイントなどで作成)
- 市販の教材
→→→ 具体的に「できる日本語 初級」
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
→→→ 具体的に
- 動画教材 「遊べる 学べる」
- 動画教材 「トラベル学べる」
- 世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク教材
- その他 具体的に

12-5. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに☑)

- スライド(パワーポイント等)
- フリップ
- フラッシュカード
- レアリア・生教材
- ピクチャーカード
- その他 具体的に

12-6. 今回のコースでの「話す（やりとり）」言語活動について、オンライン教育上の課題や改善点をお答えください。

外国ではインターネット環境が良くないため、どうしてもオンラインの学生とのやり取りが難しい場面があった。オンラインの学生の声が聞き取りづらかったり、時差が生じるため、スムーズな会話ができなかった。
パソコンの画面に映る範囲でしか伝わらないので、表情やジェスチャーに限界があった。画面共有をしている状態では、学生の顔が1人しか見えなかったため、顔を見ないでのやりとりはしづらかった。

12-7. 「話す（やりとり）」言語活動について、今回のコースで行った学習者の日本語能力の評価をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

試験	<input type="checkbox"/> 筆記試験
	<input type="checkbox"/> その他の試験
→→→ <small>具体的に</small>	
オンラインパフォーマンス	<input type="checkbox"/> 口頭試験
	<input type="checkbox"/> スピーチやプレゼンテーション
	<input type="checkbox"/> 作文
	<input checked="" type="checkbox"/> ロールプレイ
	<input type="checkbox"/> その他のパフォーマンス評価
→→→ <small>具体的に</small>	
その他	<input checked="" type="checkbox"/> 自己評価
	<input type="checkbox"/> 相互評価
	<input type="checkbox"/> ポートフォリオによる評価
	<input type="checkbox"/> その他
→→→ <small>具体的に</small>	

12-8. 「話す（やりとり）」言語活動について、今回のコースの学習者の評価をご入力ください。入力枠が足りない場合は、必要に応じて行を追加してください。

名前	評価結果
A	語彙や文法に間違いがあるものの、積極的に日本語でのやりとりができる
B	日本語を話すことに抵抗がなく、スムーズなやり取りができる
C	語彙や文法に間違いがあるが、調べながらも日本語でやり取りしようとする努力ができる
D	習った文法を正確に使用しながら、積極的に話すことができた
E	スムーズではないが、習った文法を使って正確に話せる
F	ユーモアを交えつつ、習った文法を使ってスムーズなやりとりができる
G	習った文法を使って正確なやりとりができ、積極的に話せる
H	習った文法だけでなく、自分で勉強した文法も使って話せる
I	話すのが苦手な他の学生を助けながら、積極的に多く学生と話すことができる
J	スムーズではないが、習った文法を使って正確に話す、積極的に発言ができる
K	語彙や文法に間違いがあるが、ユーモアを交えて積極的に話すことができる
L	日本語でのやりとりを積極的にを行い、正確に文法を使って話せる

言語活動「話す（発表）」へ

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに□をお付けください。

ハイブリッド一般A2コース の「話す(発表)」言語活動についてお伺いします。

↑ 概要シート2でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シート2に戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート3でお答えの「レベル・スタイル・目的」の採集についてお答えください。

13-1. 今回のコースで実施した授業での「話す(発表)」の目標(課題設定:Can Do)をお教えください。

クラスメイトの前で自信をもって発表ができる
緊張せずに日本語で発表できるように慣れる。

13-2. 「話す(発表)」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに□)

※選択肢が何も表示されない場合、

概要シート3.「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。

※スタイルが「オンデマンド」「ハイフレックス」の場合、

6つ目の選択肢はないため「* * * * *」と表示されます。□は入れないでください。

- 初級総合教材を活用した「話す(発表)」を中心とした指導実践
- オリジナル教材を活用した「話す(発表)」を活用した指導実践
- スピーチテーマを決定後、必要な精典・表現を学ぶ指導実践
- 文字・精典・文法指導の後、それらを活用したスピーチを行って指導実践
- スライド等を使用して簡単なプレゼンテーションを行う指導実践
- 反転授業(事前学習)を実施した指導実践
- その他 自由記入

13-3. 「話す(発表)」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的にお教えください。

テキスト「できる日本語初級」の『読書書聞』を参考に、その課で習った文法を使ってテーマに沿った内容を考えさせ、次の日の授業でスピーチを発表した。発表は毎回全員した。
また、その日に習った文法を使って文作をし、それを一人ずつ発表もした。
時間が余った日に、テキストにない文法を自作パワーポイントで導入し、その文法を使ってテーマに沿ったスピーチをした。

13-4. 「話す(発表)」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに□)
「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材(パワーポイントなどで作成)
- 市販の教材
→→→ 自由記入 できる日本語 初級
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
→→→ 自由記入
- 動画教材 「壁を学べる」
- 動画教材 「トラベル学べる」
- 世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク教材
- その他 自由記入

13-5. 「話す(発表)」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに□)

- スライド(パワーポイント等)
- フリップ
- フラッシュカード
- レアリア・生教材
- ピクチャーカード
- その他 自由記入

13-6. 今回のコースでの「話す(発表)」言語活動について、オンライン教育上の課題や改善点をお答えください。

インターネットの環境が悪いせいで、スピーチの発表が途中断ちえなくなり、やり直す場面が多かった。音質が悪く、聞こえにくく、聞き返す必要があった。

13-7. 「話す(発表)」言語活動について、今回のコースで行った学習者の日本語能力の評価をお選びください。(複数回答可、あてはまるものに□)

試験	<input type="checkbox"/> 筆記試験
	<input type="checkbox"/> その他の試験
パフォーマンス評価	<input type="checkbox"/> 口頭試験
	<input checked="" type="checkbox"/> スピーチやプレゼンテーション
	<input type="checkbox"/> 作文
	<input type="checkbox"/> ロールプレイ
	<input type="checkbox"/> その他のパフォーマンス評価
その他	<input checked="" type="checkbox"/> 自己評価
	<input type="checkbox"/> 相互評価
	<input type="checkbox"/> ポートフォリオによる評価
	<input type="checkbox"/> その他

13-8. 「話す(発表)」言語活動について、今回のコースの学習者の評価をご入力ください。入力枠が足りない場合は、必要に応じて行を追加してください。

名前	評価結果
A	語彙や文法に間違いがあるものの、自信をもって発表ができた
B	習った文法や語彙を使って、スムーズな発表ができた
C	語彙や文法に間違いがあるものの、新しい語彙を使いながら緊張せずに発表ができた
D	習った文法や語彙を使って、自信を持って発表ができた
E	難しいテーマ発表するのが難しかったが、最後は自信をもって発表できるようになった
F	習った文法や語彙を使って、大きな声でみんなの聞き取りやすいスピーチができた
G	クラスで一番最初にスピーチをするほど自信を持って発表ができるようになった
H	1分～2分ほどの、長くても短いスピーチをすることができる
I	習った文法や語彙を誰よりも多く使いつつ、ユーモアを交えた発表ができた
J	習った文法や語彙を使って、一生懸命発表ができた
K	語彙や文法に間違いがあるものの、緊張せずに英語で自信をもって発表ができた
L	習った文法や語彙を正確に使って、自信をもって発表ができた

[言語活動「聞く」へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに回答してください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 「学習効果・成果」について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたか。日本語能力の伸びに関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えてください。

コース開始時と比較して、コース終了時の会話スキルは向上したと感じた。外国で日本語を勉強する学生にとって、日本人教師に日本語を教わる機会はあったに、日本人と日本語で話すことによって、日本人に慣れるだけでなく、母語を使わずに勉強することができる。そのため、自然と学習者の能力やスキルは向上した。また、日本語を勉強するモチベーションや学習動機も高まったと感じる。文法や語彙だけでなく、日本事情・日本理解を写真や動画を通して学ぶことで、日本語を勉強することに対して積極的になったと思う。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、対面指導と違いはありましたか。対面指導と比較して、良かったこと/良くなかったことをその理由と合わせてお教えてください。

対面指導と比較して良かったこと

- ・インターネットや動画教材をすぐに共有できるため・理解を深めやすかった
- ・日本の文化を実際に写真や動画で伝えることができる
- ・日本にいらなくても日本語を日本人から学ぶことができる

対面指導と比較してよくなかったこと

- ・外国のインターネット環境は日本に比べて悪く・うまく聞き取れなかったり・ネット障害によるトラブルも多々起こった
- ・ジェスチャーや表情で伝えるのは少し困難だった
- ・「書く」ことに関して・オンラインだと指導ができない

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは向上しましたか。（あてはまるものに回答）「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについてお答えください。

- 非常に向上した
- やや向上した
- 向上しなかった
- 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。（あてはまるものに回答）

- ぜひ取り組みたい
- まあ取り組みたい
- 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。（あてはまるものに回答）

- ぜひ取り組みべき
- 課題はあるが取り組みべき
- 慎重にすべき
- 必要性を感じない

[今回のコース担当者へ](#)

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



□ 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに○をお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください。

ファーストステップ日本語学校 大阪本校

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

オンデマンド一般B1コース

3. 今回のコースの「レベル」「スタイル」「目的」の番号を入力欄にご入力ください。

						入力欄
レベル	1. A1	2. A2	3. B1	4. B2	5. C	→ 3
スタイル	1. オンラインのみ	2. ハイブリッド	3. オンデマンド	4. ハイフレックス		→ 3
目的	1. 進学	2. 就職	3. 一般			→ 3

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン（デバイス）」別にお答えください。
※複数の形式で受講していた受講生については「主に」利用されていた形式でお考えください。
(形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるように入力ください。)

対面		人
オンライン（タブレット）		人
オンライン（パソコン）	3	人
オンライン（スマートフォン）	5	人
合計	8	人

← 計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください。

	授業日(日にち) 「月」「日」を「/」で区切り半角 で入力する。「0」月「0」日(曜日) が表示されます	授業時間 (分) 半角数字で入力	受講者数 (人) 半角数字で入力
1)	8月15日(月)	120分	6人
2)	8月16日(火)	120分	8人
3)	8月17日(水)	120分	7人
4)	8月18日(木)	120分	8人
5)	8月19日(金)	120分	7人
6)	8月22日(月)	120分	8人
7)	8月23日(火)	120分	8人
8)	8月24日(水)	120分	7人
9)	8月25日(木)	120分	5人
10)	8月26日(金)	60分	5人
11)	8月29日(月)	120分	7人
12)	8月30日(火)	120分	8人
13)	8月31日(水)	120分	8人
14)	9月1日(木)	120分	7人
15)	9月2日(金)	180分	8人
16)	9月5日(月)	120分	4人
17)	9月6日(火)	120分	5人
18)	9月7日(水)	120分	8人
19)	9月8日(木)	120分	6人
20)	9月9日(金)	120分	7人
21)	9月12日(月)	120分	8人
22)	9月13日(火)	120分	7人
23)	9月14日(水)	120分	7人
24)	9月15日(木)	120分	6人
25)	9月16日(金)	120分	4人
26)	9月19日(月)	120分	6人
27)	9月20日(火)	120分	8人
28)	9月21日(水)	120分	8人
29)	9月22日(木)	120分	7人
30)	9月23日(金)	120分	8人

↓ 計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

実施期間
8月15日(月) ~ 10月14日(金)

実施日数
45日

総授業時間
5,400分

	授業日(日にち) 「月」「日」を「/」で区切り半角 で入力する。「0」月「0」日(曜日) が表示されます	授業時間 (分) 半角数字で入力	受講者数 (人) 半角数字で入力
31)	9月26日(月)	120分	7人
32)	9月27日(火)	120分	5人
33)	9月28日(水)	120分	6人
34)	9月29日(木)	120分	7人
35)	9月30日(金)	120分	6人
36)	10月3日(月)	120分	4人
37)	10月4日(火)	120分	5人
38)	10月5日(水)	120分	5人
39)	10月6日(木)	120分	4人
40)	10月7日(金)	120分	4人
41)	10月10日(月)	120分	7人
42)	10月11日(火)	120分	7人
43)	10月12日(水)	120分	5人
44)	10月13日(木)	120分	6人
45)	10月14日(金)	120分	7人
46)			

※実施が30日を超える場合、6～10の質問にご回答後、
続き(31日目以降)を本シートの135行目以降に
入力してください。

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 韓国	<input checked="" type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input type="checkbox"/> 中国	<input checked="" type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラデシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input type="checkbox"/> ネパール	<input type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代以上
------------------------------	---	------------------------------	--------------------------------

8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。（複数選択可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input checked="" type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input checked="" type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small> 漢字問題やテーマ集
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

本コースは、N4～N3相当の日本語を使用した会話（話す・聞く）・読む・書くのに必要な言語知識の習得が目的です。初中級総合教材（できる日本語初中級）と文法学習のための補助教材を使用し、言語知識を深めました。また「遊べる 学べる 東京」、「トラブル 学べる 箱根」や日本事情・日本理解のための補助教材を使用し、日本事情・日本理解のための活動に取り組みました。

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



総合教材の使用へ

- 部分にご入力ください。選択枝が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

オンデマンド一般B1コース

の総合教材の使用についてお伺いします。

- 1 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は前シートに戻りお答えください。「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

- 11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 行った	→→→→→	下記11-2へ
<input type="checkbox"/> 行っていない	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。（複数回答可、あてはまるものに☑）
※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	→→→→→	下記11-3へ
<input checked="" type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか。具体的にお教えてください。

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

オンデマンド一般B1コース の「聞く」言語活動についてお伺いします

- 1 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

14-1. 今回のコースで実施した授業での「聞く」目標（課題設定：Can Do）をお教えください。

- ・教師の指示がしっかりと聞ける
- ・日本語で授業内容が理解できる
- ・教師やクラスメイトの雑談が聞け、雑談の輪に参加できる

14-2. 「聞く」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

- ※選択肢が何も表示されない場合、
概要シート3. 「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。
※スタイルが「オンデマンド」「フレックス」の場合、
6つ目の選択肢はないため「****」と表示されます。☑は入れないでください。

- 初中級総合教材を活用した事前学習の後の、「聞く」を中心とした指導実践
- 聴解用教材を活用した事前学習の後の指導実践
- 会話動画を事前視聴した後の語彙・表現の指導実践
- 教師が作成したオリジナル教材を事前学習した後の指導実践
- 事前学習として聴解問題を行った後でフィードバックを行う指導実践
- ****
- その他 具体的に

14-3. 「聞く」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的に教えてください。

- ・毎授業、授業はじめにフリートークの時間やスピーチ発表の時間を設け、先生や友達の話聞く練習を行った
- ・授業内で聴解練習を入れ、習った文法が聞けるかどうか、日本人の話すスピードが聞けるかどうか、また、日本人の話すスピードに慣れる練習を行った

14-4. 「聞く」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

- 「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）
- 市販の教材
→→→ 市販の教材名・教材名が複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。
できる日本語
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
→→→ 市販のWEBサイト名・教材名・教材名が複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。
- 動画教材「遊べる 学べる」
- 動画教材「トラベル 学べる」
- 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
- その他 具体的に

14-5. 「聞く」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

- スライド（パワーポイント等）
- フリップ
- フラッシュカード
- レアリア・生教材
- ピクチャーカード
- その他 具体的に

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに□をお付けください。

オンデマンド一般B1コース の **「日本事情・日本理解」** についてお伺いします。

1. 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

17-1. 今回のコースで実施した授業での **「日本事情・日本理解」** の目標（課題設定：Can Do）をお教えください。

- ・日本の文化やマナー、ルールを知る
- ・日本人の考え方を知る
- ・自分の国と日本を比較して意見が言える
- ・日本について興味を持てる
- ・日本へ留学するモチベーションを上げる

「日本事情・日本理解」はこのコースでは行っていない

→ [言語活動「その他」へ](#)

17-2. **「日本事情・日本理解」** について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに□)

- ※ 選択肢が何も表示されない場合、
概要シート3. 「レベル・スタイル・目的」が入力できていないかご確認ください。
※ スタイルが「オンデマンド」「フレックス」の場合、
6つ目の選択肢はないため「****」と表示されます。□は入れないでください。

- 日本語学校が作成した説明資料や動画を見た後で参加する指導実践
- 事前に日本語教材の一部を学習した後で学ぶ指導実践
- 事前に教師が指定する生教材（インターネットサイト等）を見た後で参加する指導実践
- その他の事前課題を行った後で参加する指導実践
- 事前に学習者が関心があるテーマについて調べたことを発表する指導実践
- ****
- その他 具体的に

17-3. **「日本事情・日本理解」** について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的にお教えください。

- ・教科書「できる日本語初級」で出てきた語彙や会話から派生させて、インターネットの画像や動画を使って日本について紹介した。
- ・学生から日本について質問があった場合も、インターネットの画像や動画を使って説明した。
- ・個人作成のパワーポイントを使って日本を紹介した。
- ・動画教材「遊べる 学べる」や「トラブル 学べる」を使用し、日本について紹介した。動画を見た後で感想を言い合ったり、自分の国と比較して意見を言わせた。

17-4. **「日本事情・日本理解」** について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに□)
「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）
- 市販の教材
→→→ 市販の教材・教材名が複数ある場合は、教材ごとにお答えください。
できる日本語初級
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
→→→ 市販のWEBサイト・教材名・教材名が複数ある場合は、教材ごとにお答えください。
- 動画教材「遊べる 学べる」
- 動画教材「トラブル 学べる」
- 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
- その他 具体的に

17-5. **「日本事情・日本理解」** について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに□)

- スライド（パワーポイント等）
- フリップ
- フラッシュカード
- レアリア・生教材
- ピクチャーカード
- その他 具体的に

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 「学習効果・成果」について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたか。日本語能力の伸長に関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的に教えてください。

今回のコース終了時、学習者の日本語に関する知識が増えたのはもちろん、会話スキルは向上したと感じた。現在コロナ禍で、当コースの学習者はインドネシア現地で日本人と直接会話する機会がなかったので、外国語を使ってコミュニケーションを図ることの楽しさを味わえたと感じます。また日本人と日本語で話すことによって、日本人との会話に慣れ母語を使わずに勉強することができた。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、対面指導と違いはありましたか。対面指導と比較して、良かったこと/良くなかったことをその理由と合わせて教えてください。

対面指導と比較してよかったことは、インターネットや動画教材をすぐに共有でき、日本の文化を実際に写真や動画で伝えることもできたことです。

対面指導と比較してよくなかったことは、外国のインターネット環境は日本に比べて悪く、うまく聞き取れなかったり、ネット障害によるトラブルも多々起こったことです。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは向上しましたか。（あてはまるものに☑）「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについてお答えください。

- 非常に向上した
 やや向上した
 向上しなかった
 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組むべき
 課題はあるが取り組むべき
 慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当まで](#)

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラディッシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input type="checkbox"/> ネパール	<input type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input checked="" type="checkbox"/> その他 <small>具体的にインド</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代以上
------------------------------	---	------------------------------	--------------------------------

8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。（複数選択可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input checked="" type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input checked="" type="checkbox"/> その他 <small>具体的に 作文・スピーチ</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

本コースは、N3～N2相当の日本語を使用した会話（話す・聞く）・読む・書くのに必要な言語知識の習得が目的です。中級総合教材（できる日本語中級）と文法学習のための補助教材を使用し、言語知識を深めました。また日本事情・日本理解のための補助教材を使用し、日本事情・日本理解のための活動に取り組みました。

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



[総合教材の使用へ](#)

- 部分にご入力（※各）選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑を付けてください。

オンデマンド一般B2コース

の総合教材の使用についてお伺いします。

↑概要シート2.でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は前シートに戻りお答えください。「コース名」がない場合は概要シート3.でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

- 11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 行った	→→→→→	下記11-2へ
<input type="checkbox"/> 行っていない	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。（複数回答可、あてはまるものに☑）
※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	→→→→→	下記11-3へ
<input checked="" type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか。具体的にお教えてください。

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

オンデマンド一般B2コースの「日本事情・日本理解」についてお伺いします。

↑概要シート2でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート3.でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

17-1. 今回のコースで実施した授業での「日本事情・日本理解」の目標（課題設定Can Do）をお教えください。

- ・自分の国と比較しながら、日本について理解を深めることができる
- ・日本について興味を持ち、日本へ行きたいモチベーションを上げられる
- ・日本語だけでなく、日本人の考え方や働き方、文化など1つ以上興味を持てる

「日本事情・日本理解」はこのコースでは行っていない

→ [言語活動「その他」へ](#)

17-2. 「日本事情・日本理解」について、今回のコースで実践した内容をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに☑)

※選択肢が何も表示されない場合、

概要シート3.「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。

※スタイルが「オンデマンド」「ハイフレックス」の場合、

6つ目の選択肢はないため「*****」と表示されます。☑は入れないでください。

- 日本語学校が作成した説明資料や動画を見た後で参加する指導実践
- 事前に日本語教材の一部を学習した後で学ぶ指導実践
- 事前に教師が指定する生教材（インターネットサイト等）を見た後で参加する指導実践
- その他の事前課題を行なった後で参加する指導実践
- 事前に学習者が関心があるテーマについて調べたことを発表する指導実践
- *****
- その他 具体的に

17-3. 「日本事情・日本理解」について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的にお教えください。

- ・動画教材「遊べる 学べる」「学べる トラベル」、姫路城VRを見て、感想を言い合い、日本理解を深めました
- ・授業中のテーマや会話から派生させて、日本について紹介したり、自分の国と比較し合ったりしました
- ・日本について興味が湧いたものは、インターネットの画面を共有しながら画像や動画を見せ、理解を深めました

17-4. 「日本事情・日本理解」について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに☑)

「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）
- 市販の教材
具体的な出版社名・教材名が複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。
→→→ できる日本語 中級
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
具体的なWEBサイト名/出版社名・教材名が複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。
→→→
- 動画教材 「遊べる 学べる」
- 動画教材 「トラベル 学べる」
- 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
- その他 具体的に
インターネットの画像やYouTube

17-5. 「日本事情・日本理解」について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに☑)

- スライド（パワーポイント等）
- フラッシュカード
- ピクチャーカード
- フリップ
- レアリア・生教材
- その他 具体的に
インターネットの画像

部分にご入力(※)選択肢が用意されている項目については、あてはまるもの□を付けてください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 「学習効果・成果」について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたか。日本語能力の伸びに関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えてください。

今回のコース終了時、学習者の全体的な日本語能力の向上したのはもちろん、特に会話能力が向上した。インド現地で日本人と直接会話する機会が少ないようで、日本語を使ったコミュニケーションに積極的に取り組みました。また授業内では日本のルールやマナー、文化について学ぶ姿勢が強く、学生の理解が深まりました。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、**対面指導**と違いはありましたか。対面指導と比較して、良かったこと/良くなかったことをその理由と合わせてお教えてください。

良かったこと
少しの操作でいろいろな教材や画面を学習者に共有できるので授業がスムーズに行え、授業の幅が広がった

良くなかったこと
学習者の顔の表情や変化が把握しにくく、学生が本当に理解しているか確認しづらかった。また全員が意見や考えを言い合うような取り組みは対面と比べ難しかった

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは向上しましたか。(あてはまるものに☑)
「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについてお答えください。

- 非常に向上した
 やや向上した
 向上しなかった
 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。(あてはまるものに☑)

- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。(あてはまるものに☑)

- ぜひ取り組みべき
 課題はあるが取り組みべき
 慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当者へ](#)

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



□ 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください。

神戸YMCA学院専門学校日本語学科

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

夏期集中コース(観光)

3. 今回のコースの「レベル」「スタイル」「目的」の番号を入力欄にご入力ください。

						入力欄
レベル	1. A1	2. A2	3. B1	4. B2	5. C	→ 2
スタイル	1. オンラインのみ	2. ハイブリッド	3. オンデマンド	4. ハイフレックス		→ 2
目的	1. 進学	2. 就職	3. 一般			→ 3

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン(デバイス)」別にお答えください。
 ※複数の形式で受講していた受講生については「主に」利用されていた形式でお考えください。
 (形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるように入力ください。)

対面	4	人
オンライン(タブレット)		人
オンライン(パソコン)	6	人
オンライン(スマートフォン)		人
合計	10	人

← 計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください。

	授業日(日にち) 「月」「日」を「/」で区切り半角 で入力すると「○月○日(曜 日)」が表示されます	授業時間 (分) 半角数字で入力	受講者数 (人) 半角数字で入力
1)	7月28日(木)	150分	9人
2)	8月2日(火)	150分	10人
3)	8月3日(水)	150分	8人
4)			
5)			
6)			
7)			
8)			
9)			
10)			
11)			
12)			
13)			
14)			
15)			
16)			
17)			
18)			
19)			
20)			
21)			
22)			
23)			
24)			
25)			
26)			
27)			
28)			
29)			
30)			

! 計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

実施期間
7月28日(木) ~ 8月3日(水)

実施日数
3日

総授業時間
450分

※ 実施が30日を超える場合、6~10の置問に回答後、
 続き(31日目以降)を本シートの135行目以降に
 入力してください

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 韓国	<input checked="" type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input checked="" type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラデシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input checked="" type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input type="checkbox"/> ネパール	<input checked="" type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代以上
---	---	------------------------------	--------------------------------

8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。（複数選択可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input checked="" type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

◎目標
 ・日本や他の国の観光地や有名なものを知る
 ・自分の国の観光地や有名なものを紹介する
 ・日本観光で使えるフレーズを学ぶ

◎流れ
 1日目、2日目…発表準備 + 観光で役立つフレーズを覚える
 3日目…発表

◎授業内容
 1日目 7/28（木） 国/町の観光地を紹介する
 2日目 8/2（火） 国/町のおみやげを紹介する

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



[総合教材の使用へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

夏期集中コース（観光）

の総合教材の使用についてお伺いします。

- 1 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は前シートに戻りお答えください。
 「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

- 11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 行った	→→→→→	下記11-2へ
<input checked="" type="checkbox"/> 行っていない	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。（複数回答可、あてはまるものに☑）
 ※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input checked="" type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	→→→→→	下記11-3へ
<input type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか、具体的にお教えください。

<発表準備>
 会話（やりとり）…クラス内でのやり取り
 読解…モデル文を読む
 書く…発表原稿を書く

発表
 発表…自分の国の観光についての発表をする
 聞く…教師の発表、クラスメイトの発表を聞く

それぞれが問題なくできるかどうか 個人の評価は「言語活動話す（発表）」にまとめて記載

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

前期集中コース(観光) の **話す(やりとり)** 言語活動についてお伺いします

- 1 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

12-1. 今回のコースで実施した授業での「話す(やりとり)」の目標(課題設定・Can Do)をお教えください。

A2レベルの日本語を使って、神社、寺院で使う表現を使うことができる 日本のお食事、国の食事の説明ができる、説明が聞ける
観光の表現が使える

12-2. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

- *選択肢が何も表示されない場合、
概要シート3.「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。
*スタイルが「オンデマンド」「ハイフレックス」の場合、
6つ目の選択肢はないため「*****」と表示されます。☑は入れないでください。**

- 初級総合教材を活用した「話す(やりとり)」を中心とした指導実践
 オリジナル教材を活用した「話す(やりとり)」を中心とした指導実践
 語彙・文法指導の後、それらを活用した会話練習の指導実践
 場面別会話の練習から、語彙・表現等を習得する指導実践
 日本人の会話パートナーを参加させた指導実践
 反転授業(事前学習)を実施した指導実践
 その他 具体的に

12-3. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的にお教えください。

1日目…動画教材「箱根神社篇」を見て、受講者の宗教のお参りの仕方、寺院やムスクにある特別なものを紹介、聞いている人は質問
同教材で、観光で使える表現をピックアップし、導入練習「すみません。ちょっと～を教えてくださいませんか」
神戸の観光地の紹介、国/町の観光地について考える
2日目…動画教材「顔ごはん懐石環塔篇」を見て、内容クイズ
神戸の食べ物を紹介、国の食べ物を簡単に紹介、それについてのQA
動画教材「チームラボプラネッツTOKYO篇」を見て、観光で使える表現をピックアップし、導入練習「～だけなんですけど、大丈夫ですか」

12-4. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。

- (複数回答可、あてはまるものに☑)
「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
 個人作成の教材(パワーポイントなどで作成)
 市販の教材
→ 具体的な出版社名・教材名をお答えください。教材ごとにお答えください。
 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
→ 具体的なWEBサイト名(出版社)・教材名をお答えください。教材ごとにお答えください。
 動画教材「遊べる 学べる」
 動画教材「トラベル 学べる」
 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
 その他 具体的に

12-5. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

- スライド(パワーポイント等) フリップ
 フラッシュカード レアリア・生教材
 ピクチャーカード その他 具体的に

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 「学習効果・成果」について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたか。日本語能力の伸長に関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えください。

話したい内容を文字に起こすことで、整理して話すことができるようになったと思う。
様々な国の学習者が参加していたので、お互いの国の文化を知ることができた。
一方で、中国から参加していた学習者から、講師が台湾を国として扱っている発言に不満を漏らす声があった。
中国からの留学生からは直接そのような話を聞かないので、中国にいる学習者との違いに気づかされ、それ以降気遣うようになった。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、**対面指導と違い**はありましたか、**対面指導と比較して**、良かったこと/良くなかったことをその理由と合わせてお教えください。

良かった点：自分の国の文化を紹介するという点では、写真を見せながらとはいえ、臨場感を感じられたと思う。
問題点：今回、ハイブリッドの授業だったため講師を2人配置し、オンライン・対面ともに配慮し、授業を行った。
他のクラスがない時期の授業だったのでそれができたが、クラスが重なった場合は二人の講師を配置するのは難しいと思う。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは向上しましたか。（あてはまるものに☑）
「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについてお答えください。

- 非常に向上した
 やや向上した
 向上しなかった
 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。
（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組むべき
 課題はあるが取り組むべき
 慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当者へ](#)

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



□ 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください。

市川日本語学院

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

N5文法③(12月)

3. 今回のコースの「レベル」「スタイル」「目的」の番号を入力欄にご入力ください。

						入力欄
レベル	1. A1	2. A2	3. B1	4. B2	5. C	→ 2
スタイル	1. オンラインのみ	2. ハイブリッド	3. オンデマンド	4. ハイフレックス		→ 1
目的	1. 進学	2. 就職	3. 一般			→ 3

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン(デバイス)」別にお答えください。
※複数の形式で受講していた受講生については「主に」利用されていた形式でお考えください。
(形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるように入力してください。)

対面		人
オンライン(タブレット)	1	人
オンライン(パソコン)	4	人
オンライン(スマートフォン)	0	人
合計	5	人

← 計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください。

	授業日(日にち) 「月」と「日」を「/」で区切り半角 で入力する。「○月○日(曜 日)」が表示されます	授業時間 (分) 半角数字で入力	受講者数 (人) 半角数字で入力
1)	12月5日(月)	150分	4人
2)	12月6日(火)	150分	3人
3)	12月7日(水)	150分	4人
4)	12月8日(木)	150分	4人
5)	12月9日(金)	150分	5人
6)	12月12日(月)	150分	5人
7)	12月13日(火)	150分	3人
8)	12月14日(水)	150分	3人
9)	12月15日(木)	150分	4人
10)	12月16日(金)	150分	4人
11)	12月19日(月)	150分	1人
12)	12月20日(火)	150分	4人
13)	12月21日(水)	150分	4人
14)	12月22日(木)	150分	2人
15)	12月23日(金)	150分	3人
16)			
17)			
18)			
19)			
20)			
21)			
22)			
23)			
24)			
25)			
26)			
27)			
28)			
29)			
30)			

↑ 計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

実施期間
12月5日(月) ~ 12月23日(金)

実施日数
15日

総授業時間
2,250分

※実施が30日を超える場合、6~10の質問にご回答後、
続き(31日以降)を本シートの135行目以降に
入力してください

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input checked="" type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラデシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input type="checkbox"/> 台湾	<input checked="" type="checkbox"/> フィリピン	<input type="checkbox"/> ネパール	<input checked="" type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

10代
 20代
 30代
 40代以上

8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。（複数選択可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

日本語能力試験N5レベルに必要な基本的な初級の語彙、文型の導入および、言語活動としての受容（読む・聞く）、産出（話す）、やりとり（話す）方略（推測）を取り入れた。語彙文型は『みんなの日本語初級Ⅰ』を使用。

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



[総合教材の使用へ](#)

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

N5文法③（12月） の総合教材の使用についてお伺いします。

1. 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は前シートに戻りお答えください。「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 行った	→→→→→	下記11-2へ
<input type="checkbox"/> 行っていない	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。（複数回答可、あてはまるものに☑）
※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	→→→→→	下記11-3へ
<input checked="" type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか。具体的にお教えください。

Blank area for detailed evaluation response.

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

N5文法③(12月) の「話す(やりとり)」言語活動についてお伺いします

- 1 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

12-1. 今回のコースで実施した授業での「話す(やりとり)」の目標(課題設定:Can Do)をお教えてください。

- ・日常で使われる挨拶など、礼儀正しい言葉で短い社会的な会話を行うことができる。
- ・時間の流れに沿った表現を使い簡単な日常の行動が言える。
- ・欲しいもの、やりたいことを言うことができる。またその理由についても簡単な文で言うことができる。
- ・人や物の存在や所存について言える。
- ・簡単な指示、依頼、勧め、申し出ができる。
- ・許可を求めることができる。
- ・禁止されていることが理解できる。
- ・規則や禁止事項が理解できる。
- ・しなければならないこと、する必要のないことが確認できる。
- ・経験の有無、物事の状況の変化が言える。

12-2. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。 (複数回答可、あてはまるものに☑)

- *選択肢が何も表示されない場合、**
概要シート3.「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。
***スタイルが「オンデマンド」「ハイフレックス」の場合、**
6つ目の選択肢はないため「*****」と表示されます。☑は入れないでください。

- 初級総合教材を活用した「話す(やりとり)」を中心とした指導実践
- オリジナル教材を活用した「話す(やりとり)」を中心とした指導実践
- 語彙・文法指導の後、それらを活用した会話練習の指導実践
- 場面別会話の練習から、語彙・表現等を習得する指導実践
- 日本人の会話パートナーを参加させた指導実践
- 反転授業(事前学習)を実施した指導実践
- その他 具体的に

12-3. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的にお教えてください。

- 2) 教師が学習者へ質問し、定着度を確認
3) 学習者同士でのやりとり
4) 学習者同士のやりとりでのフィードバック
主な内容:
・週末の予定を聞き、誘ったり、誘いを受けたったり。
・参加者のそれぞれの国の有名な場所、食べ物、気候について互いに質疑応答を行った。
・誕生日に何をもらったか、何が欲しいかを聞き合った。
・場面シチュエーションを用いて、しなければならないこと、しなくてもいいこと、禁止や規則について相手に聞いて答えを理解するロールプレイを行った。

12-4. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。 (複数回答可、あてはまるものに☑) 「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材(パワーポイントなどで作成)
- 市販の教材
→→→ 具体的なメーカー名・教材名が複数ある場合は、教材ごとにお答えください。
みんなの日本語初級 I
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
→→→ 具体的なWEBサイト名(メーカー)・教材名が複数ある場合は、教材ごとにお答えください。
- 動画教材「遊べる 学べる」
- 動画教材「トラベル 学べる」
- 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
- その他 具体的に

12-5. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。 (複数回答可、あてはまるものに☑)

- スライド(パワーポイント等)
- フリップ
- フラッシュカード
- レアリア・生教材
- ピクチャーカード
- その他 具体的に

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 「学習効果・成果」について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたか、日本語能力の伸長に関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを選択して、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えてください。

コース開始時は、学習者同士のコミュニケーション（やりとりの話す活動）が難しい場面があったが、回を重ねるごとに学習者同士の質疑応答ができるようになった。積極的に質問をしたり、発話したり意欲的に参加していた。このことから学習意欲が高まったといえる。また、年末年始の習慣についての発表では、学習者全員が他国で新年に食べるものに興味を持ったようだ。さらに、「日本のクリスマスはケンタッキーフライドチキンを皆食べますか？」というある学習者の質問でクラスで盛り上がり、授業を楽しんでいる様子が伺えた。異文化理解と多文化共生に対する認識に変化が見られたと思う。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、対面指導と違いはありましたか、対面指導と比較して、良かったこと/良くなかったことをその理由と合わせてお教えてください。

参加者によって、Wifi環境が整っていないことがあった。読む活動について、文章の画面サイズについての配慮が欠かせない。学習者の日本語のレベル差が大きいと授業を進めるのが困難になる。しかしながら、日本語を学びたいという学習者に対してオンラインという手段は学習意欲を効果的に高める一つ的手段として評価できる。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは向上しましたか。（あてはまるものに☑）
「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについてお答えください。

- 非常に向上した
 やや向上した
 向上しなかった
 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。
（あてはまるものに☑）

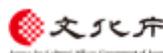
- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。
（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組むべき
 課題はあるが取り組むべき
 慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当者へ](#)

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものを選択してください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください。

行知学園第二附属日本語学校

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

進学準備コース

3. 今回のコースの「レベル」「スタイル」「目的」の番号を入力欄にご入力ください。

						入力欄
レベル	1. A1	2. A2	3. B1	4. B2	5. C	→ 1
スタイル	1. オンラインのみ	2. ハイブリッド	3. オンデマンド	4. ハイフレックス		→ 1
目的	1. 進学	2. 就職	3. 一般			→ 1

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン（デバイス）」別にお答えください。
※複数の形式で受講していた受講生については「主に」利用されていた形式でお考えください。
(形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるように入力ください。)

対面		人
オンライン（タブレット）		人
オンライン（パソコン）	10	人
オンライン（スマートフォン）		人
合計	10	人

— 計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください。

	授業日（日） 「月」「日」を「/」で区切り半角 で入力すると「O」月「D」日（曜 日）が表示されます	授業時間 （分） 半角数字で入力	受講者数 （人） 半角数字で入力
1)	9月28日(水)	90分	10人
2)	9月30日(金)	90分	10人
3)	10月13日(木)	90分	10人
4)	10月14日(金)	90分	10人
5)	10月20日(木)	90分	10人
6)	10月21日(金)	90分	10人
7)	10月27日(木)	90分	10人
8)	10月28日(金)	90分	10人
9)	11月4日(金)	90分	10人
10)	11月10日(木)	90分	10人
11)	11月11日(金)	90分	10人
12)	11月17日(木)	90分	10人
13)	11月18日(金)	90分	10人
14)	11月24日(木)	90分	10人
15)	12月1日(木)	90分	10人
16)	12月2日(金)	90分	10人
17)	12月8日(木)	90分	7人
18)	12月9日(金)	90分	8人
19)			
20)			
21)			
22)			
23)			
24)			
25)			
26)			
27)			
28)			
29)			
30)			

— 計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

実施期間

9月28日(水) ~ 12月9日(金)

実施日数

18日

総授業時間

1,620分

※実施が30日を超える場合、6～10の欄間にご回答後、
続き（31日目以降）を本シートの135行目以降に
入力してください

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに□）

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input checked="" type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> パンジャラデシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input type="checkbox"/> ネパール	<input type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに□）

<input checked="" type="checkbox"/> 10代	<input type="checkbox"/> 20代	<input type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代以上
---	------------------------------	------------------------------	--------------------------------

8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。（複数選択可、あてはまるものに□）

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

・日本留学の希望者に対して、汎用性のあるJGPの課程を構築、日本語を教授する。
 ・受講生は高校生であり、日本への興味を持っている。その気持ちを活かし、モチベーションアップできるよう、日本語学習に取り組む。
 ・「みんなの日本語Ⅰ」の内容を中心とし、コミュニケーション能力の向上とともに、各課の文型理解、語彙力UPを図る。
 ・日本文化の紹介、学習を適宜行い、中国に居ながらにして、日本への総合的理解を目指す。

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



[総合教材の使用へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに□をお付けください。

法学準備コース の総合教材の使用についてお伺いします。

- ↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は前シートに戻りお答えください。
 「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

- 11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに□）

<input checked="" type="checkbox"/> 行った	-----	下段11-2へ
<input type="checkbox"/> 行っていない	-----	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。（複数回答可、あてはまるものに□）
 ※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	-----	下段11-3へ
<input checked="" type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	-----	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか、具体的にお教えください。

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

進学準備コース の「聞く」言語活動についてお聞かせください

1. 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

14-1. 今回のコースで実施した授業での「聞く」の目標（課題設定：Can Do）をお教えください。

1. 教師の指示が聞き取れる。
2. 教師の文法説明や語彙の説明が聞き取れる。
3. 適切に答えられるよう、会話でペアになった発話者の発話が正確に聞き取れる。
4. ほかの学習者の発話が正確に聞き取れる。
5. 「自己紹介」「わたしの夢」の発表が正確に聞き取れる。

14-2. 「聞く」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

- ※ 選択肢が何も表示されない場合、概要シート3.「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。
※ スタイルが「オンデマンド」「ハイフレックス」の場合、6つ目の選択肢はないため「****」と表示されます。☑は入れないでください。

- 初級総合教材を活用した「聞く」を中心とした指導実践
 聴解用教材を活用した指導実践
 動画教材等を活用した指導実践
 場面別・機能別会話の聞き取り練習から、語彙・表現等を習得する指導実践
 母語による支援を加えた指導実践
 反転授業（事前学習）を実施した指導実践
 その他 ※複数記入

14-3. 「聞く」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的にお教えください。

1. 「みんなの日本語Ⅰ」の会話部分を教師が発話し、学習者が聞き取る。
2. 場面別の会話を聞き取り、理解する。
3. 会話の練習の際、相手の発話を聞き取り、理解する。
4. 「自己紹介」「わたしの夢」の発表を聞き取り、理解する。

14-4. 「聞く」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに☑)

「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
 個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）
 市販の教材
※市販の教材名・教材名が複数ある場合は、教材ごとに回答してください。
 → 『みんなの日本語Ⅰ』スリーエーネットワーク
 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
※市販のWEBサイト名・教材名・教材名が複数ある場合は、教材ごとに回答してください。
 →
 動画教材「遊べる 学べる」
 動画教材「トラブル 学べる」
 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
 その他 ※複数記入

14-5. 「聞く」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに☑)

- スライド（パワーポイント等）
 フリップ
 フラッシュカード
 レアリア・生教材
 ピクチャーカード
 その他 ※複数記入

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものにのみをお付けください。

進学準備コース の **「日本事情・日本理解」** についてお伺いします。

1 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

- 17-1. 今回のコースで実施した授業での **「日本事情・日本理解」** の目標（課題設定: Can Do）をお教えください。

「日本事情・日本理解」はこのコースでは行っていない → [言語活動「その他」へ](#)

- 17-2. **「日本事情・日本理解」** について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに印)

※選択肢が何も表示されない場合、

概要シート 3. 「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。

※スタイルが「オンデマンド」「ハイフレックス」の場合、

6つ目の選択肢はないため「*****」と表示されます。印は入れないでください。

- 日本に関する紹介を聞いたり、体験をしながら日本語を学ぶ指導実践
- 日本を紹介する動画を見た後でそれらを活用して学ぶ指導実践
- 日本語教材の読み物・会話などを利用した指導実践
- 日本人と交流をしながら学ぶ指導実践
- 教師による直接法ではなく、母語による支援を加えた指導実践
- 反転授業（事前学習）を実施した指導実践
- その他 （複数選択）

- 17-3. **「日本事情・日本理解」** について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的に教えてください。

- 17-4. **「日本事情・日本理解」** について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに印)

「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）
- 市販の教材
（複数選択可能な教材を選択肢お使いの場合は、教材ごとにお答えください。）
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
（複数選択可能なWEBサイトを選択肢お使いの場合は、教材ごとにお答えください。）
- 動画教材「遊べる 学べる」
- 動画教材「トラベル 学べる」
- 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
- その他 （複数選択）

- 17-5. **「日本事情・日本理解」** について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに印)

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> スライド（パワーポイント等） | <input type="checkbox"/> フリップ |
| <input type="checkbox"/> フラッシュカード | <input type="checkbox"/> レアリア・生教材 |
| <input type="checkbox"/> ピクチャーカード | <input type="checkbox"/> その他 <small>（複数選択）</small> |

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 「学習効果・成果」について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたか、日本語能力の伸長に関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化 共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えください。

学習者の一番伸びた日本語の運用能力は、既習文型と場面のつながりを理解し、適切に既習文型を使用する能力であると感じた。母語で日本語を教授されており、文型理解や文法的な知識はあるが、それを適切に使用するのには難しかった。今回既習文型と場面の結びつきを示すために、PowerPointのスライドで場面を提示すると同時に日本語でその場面を説明した。学習者はそれを理解しその中で文型を使い文をつくり出す能力が高まった。また、スライドの読み取りの時間が早くなり、読む力も向上したと感じた。

会話の能力も躍進した。教科書の会話を応用する際なども、努力し取り組んでいた。また、学習者の日本文化に対する理解が深まった。日本の引越しや郵便不在票など、いままで日本文化と考えられていなかったことを知る事で、将来自分が留学するであろう日本という国の様々な文化を深く理解することができた。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、対面指導と違いはありましたか、対面指導と比較して、良かったこと/良くなかったことをその理由と合わせてお教えください。

対面より良かったことは、日本を離れることなく、遠隔地からでも日本について知ってもらえる機会が得られたことである。日本の文化についてなど、理解してもらえたことが非常に良かったと思う。また、講師も、日本にいながら、中国の高校生の考えや文化が理解でき、教えるからの幅が広がった。また、PowerPointのスライドの作りこみが必要だったため、スキルが向上した。

対面より良くなかったことは、やはり机間巡視ができなかったため、学習者一人一人のフォローがなかなかできないことである。近くに言って足場かけをすることも難しく、クラス全体の底上げになかなかつながらなかった。また、口頭ドリルでは、コーラスをした際、誰が発話していないか分かりにくかったため、一人一人を丁寧にみる事が出来なかった。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは向上しましたか。（あてはまるものに☑）「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについてお答えください。

- 非常に向上した
 やや向上した
 向上しなかった
 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が数日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組むべき
 課題はあるが取り組むべき
 慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当者へ](#)

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



□ 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください。

アジアインターナショナル

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

ハイブリッド進学A1コース

3. 今回のコースの「レベル」「スタイル」「目的」の番号を入力欄にご入力ください。

						入力欄
レベル	1. A1	2. A2	3. B1	4. B2	5. C	→ 1
スタイル	1. オンラインのみ	2. ハイブリッド	3. オンデマンド	4. ハイフレックス		→ 2
目的	1. 進学	2. 就職	3. 一般			→ 1

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン（デバイス）」別にお答えください。
※複数の形式で受講していた受講生については「主に」利用されていた形式でお考えください。
(形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるように入力ください。)

対面	4	人
オンライン（タブレット）		人
オンライン（パソコン）	1	人
オンライン（スマートフォン）	2	人
合計	7	人

←計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください。

	授業日(日にち) 「月」と「日」を「/」で区切り半角 で入力すると「○月○日(曜 日)」が表示されます	授業時間 (分) 半角数字で入力	受講者数 (人) 半角数字で入力
1)	12月5日(月)	150分	4人
2)	12月6日(火)	150分	3人
3)	12月7日(水)	150分	4人
4)	12月8日(木)	150分	4人
5)	12月9日(金)	150分	5人
6)	12月12日(月)	150分	5人
7)	12月13日(火)	150分	3人
8)	12月14日(水)	150分	3人
9)	12月15日(木)	150分	4人
10)	12月16日(金)	150分	4人
11)	12月19日(月)	150分	1人
12)	12月20日(火)	150分	4人
13)	12月21日(水)	150分	4人
14)	12月22日(木)	150分	2人
15)	12月23日(金)	150分	3人
16)			
17)			
18)			
19)			
20)			
21)			
22)			
23)			
24)			
25)			
26)			
27)			
28)			
29)			
30)			

↓計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

実施期間
8月25日(木) ~ 10月25日(火)

実施日数
36日

総授業時間
3,600分

	授業日(日にち) 「月」と「日」を「/」で区切り半角 で入力すると「○月○日(曜 日)」が表示されます	授業時間 (分) 半角数字で入力	受講者数 (人) 半角数字で入力
31)	10月15日(土)	240分	7人
32)	10月18日(火)	60分	7人
33)	10月19日(水)	60分	7人
34)	10月20日(木)	60分	7人
35)	10月22日(土)	240分	7人
36)	10月25日(火)	60分	7人
37)			
38)			
39)			
40)			
41)			
42)			
43)			
44)			
45)			
46)			

※実施が30日を超える場合、6～10の欄間にご回答後、
続き(31日目以降)を本シートの135行目以降に
入力してください

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input checked="" type="checkbox"/> バングラデシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input checked="" type="checkbox"/> ネパール	<input type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代以上
---	---	------------------------------	--------------------------------

8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。（複数選択可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

日本に入国している学生、及び未入国の学生に対し、日本の生活において必要不可欠となる「活きた日本語」を学んでもらう。また、テキストに沿った日本語の授業を展開するだけでなく、写真や動画を探り入れることで、日本の町、観光地、さらには日本文化に親しみを感じ、理解を深めてもらう。

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



[総合教材の使用へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

ハイブリッド進学A1コース

の総合教材の使用についてお伺いします。

1. 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は前シートに戻りお答えください。「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

- 11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 行った	→→→→→	下記11-2へ
<input type="checkbox"/> 行ってない	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。（複数回答可、あてはまるものに☑）

※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	→→→→→	下記11-3へ
<input checked="" type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか、具体的にお教えください。

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

ハイブリッド進学A1コース の「話す(やりとり)」言語活動についてお話しします

↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

12-1. 今回のコースで実施した授業での「話す(やりとり)」の目標(課題設定:Can Do)をお教えください

挨拶等、日常生活における使用頻度の高い表現を用いて応答することができる。
日常会話の範囲内で想定される、ごく簡単な質問に答えることができる。
周りの人の予定を聞き、身近なことを話すことができる。
ごく簡単な言葉を使って、スケジュールをきめることができる。
大勢の人と一緒に行動するために、簡単な質問をすることができる。
体調について友達や周りの人と簡単に話すことができる。また、病院で、簡単なやりとりをすることができる。
ニュースや情報を周りの人に簡単に伝えることができる。

12-2. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。 (複数回答可、あてはまるものに☑)

※選択肢が何も表示されない場合、
概要シート3.「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。
※スタイルが「オンデマンド」「ハイフレックス」の場合、
6つ目の選択肢はないため「* * * * *」と表示されます。☑は入れないでください。

- 初級総合教材を活用した「話す(やりとり)」を中心にした指導
- ① オリジナル教材を活用した「話す(やりとり)」を中心にした指導
- ② 実践 語彙・文法指導の後、それらを活用した会話練習の指導実践
- 場面別会話の練習から、語彙・表現等を習得する指導実践
- 母語による支援を加えた指導実践
- ③ 反転授業(事前学習)を実施した指導実践
- その他 具体的に

12-3. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的にお教えください。

スキットの朗読、シャドウイング、代入練習、応答練習、応用練習、ロールプレイ。
各単元の内容に関係するイラスト、或いは写真などを見ながら話し合う。
イラストから発話の場面・状況を汲み取り、会話の内容を想定する。
いつどこで、誰がどんな状況で会話が行われているのかを確認することで、会話のイメージをつかむ。

12-4. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。 (複数回答可、あてはまるものに☑) 「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材(パワーポイントなどで作成)
- 市販の教材
→→→ 市販のオリジナル教材・教材名が複数ある場合は、教材ごとにお答えください。
アルク出版 できる日本語初級
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
→→→ 市販のWEBサイト名(出版社・教材名)が複数ある場合は、教材ごとにお答えください。
- 動画教材「遊べる 学べる」動
- 画教材「トラブル 学べる」
- 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
- その他 具体的に

12-5. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。 (複数回答可、あてはまるものに☑)

- スライド(パワーポイント等)
- フリップ
- フラッシュカード
- レアリア・生教材
- ピクチャーカード
- その他 具体的に

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものには複数お付けください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 「学習効果・成果」について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意欲は向上しましたか。日本語能力の伸長に関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化・共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えください。

本国からオンラインで参加する学生と、対面で参加する学生とが交流をすることによって、お互いに刺激を受け、良い学習環境が生じた。特に学生間の積極的な発言、及び意見交換が見られたことが挙げられ、また、本国の学生には日本語発音の向上が見られた。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、対面指導と違いはありましたか。対面指導と比較して、良かったこと/良くなかったことをその理由と合わせてお教えください。

海外から参加する学生の本国のインターネット回線が悪い為、音声の遅延、ノイズに併せて、ZOOMのクライアント自体が落ちてしまうことがあった。特にペアワークの際は遅延等に注意を払い、指示を与える必要があった。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは向上しましたか。(あてはまるものに☑)
「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについてお答えください。

- 非常に向上した
 やや向上した
 向上しなかった
 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。(あてはまるものに☑)

- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が従日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。(あてはまるものに☑)

- ぜひ取り組むべき
 課題はあるが取り組むべき
 慎重にすべき
 必要性を感じない

[今日のコース担当者へ](#)

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



□ 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに口をお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください。

アジアインターナショナル

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

ハイブリッド進学A2コース

3. 今回のコースの「レベル」「スタイル」「目的」の番号を入力欄にご入力ください。

						入力欄
レベル	1・A1	2・A2	3・B1	4・B2	5・C	→ 2
スタイル	1・オンラインのみ	2・ハイブリッド	3・オンデマンド	4・ハイフレックス		→ 2
目的	1・進学	2・就職	3・一般			→ 1

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン（デバイス）」別にお答えください。
※複数の形式で受講していた受講生については「主に」利用されていた形式でお考えください。
(形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるように入力ください。)

対面	4	人
オンライン（タブレット）		人
オンライン（パソコン）	2	人
オンライン（スマートフォン）		人
合計	6	人

← 計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください。

	授業日（日にち） 「月」と「日」を「/」で 区切り半角で入力すると ○月○日（曜日）が表示 されます	授業時間 （分） 半角数字で 入力	受講者数 （人） 半角数字で 入力
1)	10月27日(木)	60分	6人
2)	10月29日(土)	240分	6人
3)	10月31日(月)	60分	6人
4)	11月1日(火)	60分	6人
5)	11月2日(水)	60分	6人
6)	11月5日(土)	240分	6人
7)	11月7日(月)	60分	6人
8)	11月8日(火)	60分	6人
9)	11月9日(水)	60分	6人
10)	11月10日(木)	60分	6人
11)	11月12日(土)	240分	6人
12)	11月14日(月)	60分	6人
13)	11月15日(火)	60分	6人
14)	11月16日(水)	60分	6人
15)	11月17日(木)	60分	6人
16)	11月19日(土)	240分	6人
17)	11月21日(月)	60分	6人
18)	11月22日(火)	60分	6人
19)	11月24日(木)	60分	6人
20)	11月26日(土)	240分	6人
21)	11月28日(月)	60分	6人
22)	11月29日(火)	60分	6人
23)	11月30日(水)	60分	6人
24)	12月3日(土)	240分	6人
25)	12月5日(月)	60分	6人
26)	12月6日(火)	60分	6人
27)	12月7日(水)	60分	6人
28)	12月8日(木)	60分	6人
29)	12月10日(土)	240分	6人
30)	12月12日(月)	60分	6人

↑ 計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

実施期間

10月27日(木) ~ 12月20日(火)

実施日数

36日

総授業時間

3,600分

	授業日（日にち） 「月」と「日」を「/」で 区切り半角で入力すると ○月○日（曜日）が表示 されます	授業時間 （分） 半角数字で 入力	受講者数 （人） 半角数字で 入力
31)	12月13日(火)	60分	6人
32)	12月14日(水)	60分	6人
33)	12月15日(木)	60分	6人
34)	12月17日(土)	240分	6人
35)	12月19日(月)	60分	6人
36)	12月20日(火)	60分	6人
37)			
38)			
39)			
40)			
41)			
42)			
43)			
44)			
45)			
46)			

※実施が30日を超える場合、6～10の質問に回答
続き（31日目以降）を本シートの135行目以降に
入力してください。

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input checked="" type="checkbox"/> バングラディッシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input checked="" type="checkbox"/> ネパール	<input type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代以上
---	---	------------------------------	--------------------------------

8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。（複数選択可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

日本に入国している学生、及び未入国の学生に対し、日本の生活において必要不可欠となる「活きた日本語」を学んでもらう。また、テキストに沿った日本語の授業を展開するだけでなく、写真や動画を採り入れることで、日本の町、観光地、さらには日本文化に親しみを感じ、理解を深めてもらう。

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



- 部分にご入力ください。選択数が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

ハイブリッド進学A2コース

の総合教材の使用についてお伺いします。

↑ 概要シート2でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は前シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート3でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

- 11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 行った	→→→→→	下記11-2へ
<input type="checkbox"/> 行っていない	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。（複数回答可、あてはまるものに☑）
※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	→→→→→	下記11-3へ
<input checked="" type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか、具体的にお教えください。

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに□をお付けください。

ハイブリッド進学A2コース の「話す(発表)」言語活動についてお伺いします

↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示します。入力されない方は概要シートに裏紙を貼ってください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

13-1. 今回のコースで実施した授業での「話す(発表)」の目標(課題設定:Can Do)をお教えください

- 自己紹介や趣味を言うことができる。
- 行きたいところを言うことができる。
- 自分の経験や意見を言うことができる。
- 自分の国、町がどんなところかはなすことができる。
- 休みの日にしたこと話すことができる。
- 計画を提案することができる。・地域の活動に参加したりできる。
- 知っていることであれば、簡単に説明することができる。
- 自分の目標について簡単に話すことができる。
- 自分の国の行事や習慣について説明することができる。
- 周囲の人と情報を交換することができる。

13-2. 「話す(発表)」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。 (複数回答可、あてはまるものに□)

※選択肢が何も表示されない場合、

概要シート 3. 「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。

※スタイルが「オンデマンド」「ハイフレックス」の場合、

6つ目の選択肢はないため「*****」と表示されます。□は入れないでください。

- 初級総合教材を活用した「話す(発表)」を中心とした指導実践
- オリジナル教材を活用した「話す(発表)」を活用した指導実践
- スピーチテーマを決定後、必要な経典・表現を学ぶ指導実践
- 文字・経典・文法指導の後、それらを活用したスピーチを行う指導実践
- スライド等を使用して簡単なプレゼンテーションを行う指導実践
- 反転授業(事前学習)を実施した指導実践
- その他 具体的に

13-3. 「話す(発表)」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的に教えてください

教材の会話例をもとに自分のことを発表した。
自分が大変だったり困ったりしたのはどんなときだったかを発表し、そんな時はどんな表現を用いたら良いのかという意見を出し合い学びあった。
教材の会話例、表現例を応用し、文章を作り発表した。

13-4. 「話す(発表)」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに□)

「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材(パワーポイントなどで作成)
- 市販の教材
→→→ 具体的な出版社名・教材名や授業で使っている場合は、教材ごとにお答えください。
→→→ フレク出版 できる日本語初・中級
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
→→→ 具体的なWEBサイト名/URL名・教材名や授業で使っている場合は、教材ごとにお答えください。
- 動画教材 「遊べる学べる」
- 動画教材 「トラベル学べる」
- 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
- その他 具体的に

13-5. 「話す(発表)」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに□)

- スライド(パワーポイント等)
- フリップ
- フラッシュカード
- レアリア・生教材
- ピクチャーカード
- その他 具体的に

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに□をお付けください。

ハイブリッド進学A2コース の「聞く」言語活動についてお伺いします

↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示します。入力されない方は概要シートに戻りお答えください。
コース名がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

14-1. 今回のコースで実施した授業での「聞く」の目標（課題設定：Can Do）をお教えてください。

- ・ 買いたいものをする際に必要な情報を聞くことができる。
- ・ 予定や約束の日時を聞き取ることができる。
- ・ 相手の体調を聞くことができる。
- ・ お互いの国の行事について聞くことができる。

14-2. 「聞く」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。 (複数回答可、あてはまるものに□)

※選択肢が何も表示されない場合、

概要シート3. 「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。

※スタイルが「オンデマンド」「フレキシブル」の場合、

6つ目の選択肢はないため「****」と表示されます。□は入れないでください。

- 初級総合教材を活用した「聞く」を中心とした指導実践
- 聴解用教材を活用した指導実践
- 動画教材等を活用した指導実践
- 場面別・機能別会話の聞き取り練習から・情景・環境等を指導する指導
- 英訳聴解問題を使用した指導実践
- 反転授業（事前学習）を実施した指導実践
- その他 具体的に

14-3. 「聞く」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的にお教えてください。

聞く前にまず絵を見て、どこにいてどんなことを言うと思うか、を推測させた。その後教材の音声聞いて、パワーポイントを利用し、どのようなことを言っていたのか内容の理解度を確認した。
東京の地名が多く出てきたので、写真を見せながら教師が説明したところ、とても興味深そうに聞いていた。
学生間の発言をお互いによく聞き、必要であれば助け合っていた。

14-4. 「聞く」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに□)

「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材（パワーポイントなどで作成）
- 市販の教材
→→→ 具体的なメーカー名・教材名を選択肢に記入の場合は「教材」に記入してください。
アルク出版 できる日本語 初中級・中級
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
→→→ 具体的なWEBサイト名/URL/URL/URL、教材名を選択肢に記入の場合は「教材」に記入してください。
- 動画教材 「遊べる学べる」
- 動画教材 「トラベル学べる」
- 世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク教材
- その他 具体的に

14-5. 「聞く」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。

(複数回答可、あてはまるものに□)

- スライド（パワーポイント等）
- フリップ
- フラッシュカード
- レアリア・生教材
- ピクチャーカード
- その他 具体的に

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるもの□に回答してください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 「学習効果・成果」について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたか。日本語能力の伸びに関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えてください。

・今回の教材で繰り返しロールプレイ練習を実施した。
 ・当コース実施前より学習者の学習意欲が向上した。
 ・オンライン上で未入国学生と触れあい・他国の文化や風習に以前よりも興味をもって質問できるようになった。
 ・覚えたフレーズを繰り返し口に出すことで、会話処理能力が速くなった。
 ・学生がお互いを助け合いながら授業に取り組んでいた。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、対面指導と違いはありましたか。対面指導と比較して、良かったこと/良くなかったことをその理由と合わせてお教えてください。

良かったこと：・入国前の学生にとっては、日本語能力の向上のみならず在校生と一緒に勉強することで日本の授業の雰囲気を感じることができる。
 ・動画教材を利用することで、教科書では伝わりにくいイメージを伝えることができる。
 ・あらかじめパワーポイントなどを準備することで、板書に書く時間を削減できる。

良くなかったこと：・学生側・教師側の双方に言えることだが、通信環境の影響を受けやすい。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは向上しましたか。（あてはまるものに□）「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについてお答えください。

- 非常に向上した
 やや向上した
 向上しなかった
 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。（あてはまるものに□）

- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。（あてはまるものに□）

- ぜひ取り組むべき
 賛意はあるが取り組むべき
 慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当者へ](#)

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください。

仙台ランゲージスクール

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

オンデマンド一般コース(A2)

3. 今回のコースの「レベル」「スタイル」「目的」の番号を入力欄にご入力ください。

						入力欄
レベル	1・A1	2・A2	3・B1	4・B2	5・C	→ 2
スタイル	1・オンラインのみ	2・ハイブリッド	3・オンデマンド	4・ハイフレックス		→ 3
目的	1・進学	2・就職	3・一般			→ 3

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン（デバイス）」別にお答えください。
※複数の形式で受講していた受講生については「主に」利用されていた形式でお考えください。
(形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるようにご入力ください。)

対面		人
オンライン（タブレット）		人
オンライン（パソコン）	2	人
オンライン（スマートフォン）		人
合計	2	人

←計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください。

	授業日（日にも「月」と「日」を「/」で区切り半角で入力すると「月〇日（曜 日）」が表示されます	授業時間（分） 半角数字で入力	受講者数（人） 半角数字で入力
1)	12月2日(金)	90分	2人
2)	12月6日(火)	90分	2人
3)	12月9日(金)	90分	2人
4)	12月13日(火)	90分	2人
5)	12月16日(金)	90分	2人
6)	12月20日(火)	90分	2人
7)			
8)			
9)			
10)			
11)			
12)			
13)			
14)			
15)			
16)			
17)			
18)			
19)			
20)			
21)			
22)			
23)			
24)			
25)			
26)			
27)			
28)			
29)			
30)			

↓計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

実施期間
12月2日(金) ~ 12月20日(火)

実施日数
6日

総授業時間
540分

※実施が30日を超える場合、6～10の欄間にご回答後、続き（31日目以降）を本シートの135行目以降に入力してください

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに□）

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input checked="" type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラデシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input type="checkbox"/> ネパール	<input type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input checked="" type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input type="checkbox"/> その他 <small>（複数選択可）</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに□）

<input type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input checked="" type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代以上
------------------------------	---	---	--------------------------------

8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。（複数選択可、あてはまるものに□）

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input checked="" type="checkbox"/> その他 <small>（複数選択可）</small> 日本文化と対人表現
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

事前に勉強内容を学んでもらう事で、一歩進んだ学習、自由な会話を行いたい、母国の文化習慣と日本国の文化習慣を比較して感想を述べたり、参加者の国の文化習慣をも交えて話をしたい。それが、積極的な日本語学習に繋がれば良いと考える。

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



総合教材の使用へ

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに□をお付けください。

オンデマンド一般コース(A2)

の総合教材の使用についてお伺いします。

↑ 概要シート2でお答えの「コース名」を表示しています・入力されていない方は前シートに塗りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート3でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

- 11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに□）

<input checked="" type="checkbox"/> 行った	→→→→→	下記11-2へ
<input type="checkbox"/> 行っていない	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。（複数回答可、あてはまるものに□）
※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input checked="" type="checkbox"/> 言語活動に関わらず・総合的に評価した	→→→→→	下記11-3へ
<input type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

- 11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか、具体的にお教えください。

事前学習を行ったうえで授業に参加してもらうので、どのような展開になるか、想像がつかない部分がある。参加者は、日本語に対して熱心に学ぶ姿勢は同様だが、年齢や生活環境の違いが大きい。話すにしても、聞くにしても、自由な会話の流れから評価した。初めて参加する学生ではないので、学生個人の成長度（出来るようになった事）を評価した。

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

- 部分にご入力ください選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに□をお付けください。

オンデマンド一般コース(A2) の「話す(やりとり)」言語活動についてお伺いしま

↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています・入力されていない方は概要シートに塗り替えてください・
コース名がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

12-1. 今回のコースで実施した授業での「話す(やりとり)」の目標(課題設定: Can Do)をお教えください。

- 1、2つの物を比べて言う言い方を、日本文化と共に学ぶ。
- 2、許可をもらう言い方を、日本文化と共に学ぶ。
- 3、相手を誘う表現を、日本文化と共に学ぶ。
- 4、友達と話す表現、友達ではない人と話す表現を、日本文化と共に学ぶ。
- 5、変化を言う表現を、日本文化と共に学ぶ。
- 6、聞きたい事、言いたい事を自然に話せるように会話する、日本文化を理解する。

12-2. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。 (複数回答可、あてはまるものに□)

※選択肢が何も表示されない場合、

概要シート3.「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。

※スタイルが「オンデマンド」「ハイフレックス」の場合、

6つ目の選択肢はないため「*****」と表示されます。□は入れないでください。

- 初級総合教材を活用した事前学習の後の「話す(やりとり)」を中心とした指導実践
- オリジナル教材を活用した事前学習の後の「話す(やりとり)」を中心とした指導実践
- 動画による格闘 文法の事前学習の後、それらを活用した会話を練習する指導実践
- 会話動画の事前視聴の後、格闘 表現等を解説する指導実践
- 日本人の会話パートナーを参加させた指導実践
- *****
- その他 具体的に

12-3. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的に教えてください。

事前学習の動画が非常によく出来ており、動画を活用して会話をした。思い出してもらうために再度視聴し、真似をしたり自分の意見を話したりした。

12-4. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。 (複数回答可、あてはまるものに□)

「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとに答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材(パワーポイントなどで作成)
- 市販の教材
→→→ 具体的に
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
→→→ 具体的に エリンが挑戦! にまごできます。
- 動画教材 「遊べる 学べる」
- 動画教材 「トラベル学べる」
- 世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク教材
- その他 具体的に

12-5. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。 (複数回答可、あてはまるものに□)

- スライド(パワーポイント等)
- フラッシュカード
- ビクチャーカード
- フリップ
- レアリア・生教材
- その他 具体的に

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

今回のコースや卒業全体についてお伺いします。

19. 「学習効果・成果」について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたか。日本語能力の伸長に関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えください。

「日本国へ留学するのだ」という意気は、強まったと思うし、日本語学習にも力が入ったと思う。毎回、教授者より先に待機室で待っている学生もいて、熱心さが伝わってきた。覚えた文法を忘れない、新しい文法を学ぶ、新しい言葉を習う、どれも日本語で会話をしながら進められるので、母国での学習と違いがあったと思う。しかし、指示を聞き、応答し、学びを深めていった学生達に感謝したい。コロナ禍で待機を余儀なくされていた学生達、日本留学を待たざるを得なかった学生達が、日本人教師とつながり日本語が通じた時の喜びは、画面越しにも伝わって来た。通常教室と同様に、言い間違いに皆で笑い、お互いの画を紹介しては理解を深める様子は、ほほえましいものだった。学生達にとって、日本国に居ないからこそ、貴重な時間だったのだと思う。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、**対面指導と違い**はありましたか。**対面指導と比較して、良かったこと/良くなかったことをその理由と合わせてお教えください。**

第IV期は、参加申し込みをしたものの、授業参加が出来なかった学習者がいた。理由は様々だと思うが、オンライン授業参加者が、意欲、実力ともに高まったのに対して、収縮が無かったのではないかとと思う。「対面授業」というより、学校へ通い学ぶ環境があれば、参加せざるを得ない（登校せざるを得ない）ので、嫌々ながら実力が上がるのだと思う。オンライン授業は、拘束力が弱いかもしれない。だから、本気で学ぼうとする学生には良いが、興味本位の学生は、反統ししないのだと思う。参加しようとする意志が弱かった学生達も、次回、上手に参加できれば良いと思う。Wi-Fi環境と言う物理的な問題は、グローバル化する事により改善されるのではないかとと思う。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは向上しましたか。（あてはまるものに☑）**「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについてお答えください。**

- 非常に向上した
 やや向上した
 向上しなかった
 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が**渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきか**だと思いますか。（あてはまるものに☑）

- ぜひ取り組むべき
 機会はあがるが取り組むべき
 慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当者へ](#)

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに ☒ をお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください。 仙台ランゲージスクール

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。 オンデマンド一般コース(B1)

3. 今回のコースの「レベル」「スタイル」「目的」の番号を入力欄にご入力ください。

						入力欄
レベル	1. A1	2. A2	3. B1	4. B2	5. C	→ 3
スタイル	1. オンラインのみ	2. ハイブリッド	3. オンデマンド	4. ハイフレックス		→ 3
目的	1. 進学	2. 就職	3. 一般			→ 3

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン(デバイス)」別にお答えください。
 ※複数の形式で受講していた受講生については「主に」利用されていた形式でお考えください。
 (形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるようにご入力ください。)

対面	0	人
オンライン(タブレット)	0	人
オンライン(パソコン)	2	人
オンライン(スマートフォン)	2	人
合計	4	人

← 計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください。

	授業日(日にち) 「月」「日」を「/」で区切り半角 で入力すると「○月○日(曜 日)」が表示されます	授業時間 (分) 半角数字で入力	受講者数 (人) 半角数字で入力
1)	11月30日(水)	90分	3人
2)	12月2日(金)	90分	3人
3)	12月7日(水)	90分	3人
4)	12月9日(金)	90分	3人
5)	12月14日(水)	90分	3人
6)	12月16日(金)	90分	3人
7)			
8)			
9)			
10)			
11)			
12)			
13)			
14)			
15)			
16)			
17)			
18)			
19)			
20)			
21)			
22)			
23)			
24)			
25)			
26)			
27)			
28)			
29)			
30)			

↓ 計算式が入っています。お間違いないかご確認ください。

実施期間 11月30日(水) ~ 12月16日(金)

実施日数 6日 総授業時間 540分

※実施が30日を超える場合、6~10の質問にご回答後、続き(31日目以降)を本シートの135行目以降に入力してください。

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input checked="" type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラデシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input type="checkbox"/> ネパール	<input type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに☑）

<input type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代以上
------------------------------	---	------------------------------	--------------------------------

8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。（複数選択可、あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input checked="" type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	自主学習能力

9. 本コースの授業概要をご記入ください。

動画教材を用い、日本人の日常会話の中の文法や、日本人の生活、日本文化を理解する。

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



総合教材の使用へ

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

オンデマンド一般コース（B1） の総合教材の使用についてお伺いします。

↑ 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は前シートに戻りお答えください。「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに☑）

<input checked="" type="checkbox"/> 行った	----->	下記11-2へ
<input type="checkbox"/> 行っていない	----->	言語活動「話す（やりとり）」へ

11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。（複数回答可、あてはまるものに☑）
※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	----->	下記11-3へ
<input checked="" type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	----->	言語活動「話す（やりとり）」へ

11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか。具体的にお教えてください。

（空欄）

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

- 部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

オンデマンド一般コース(B1) の **話す(やりとり)** 言語活動についてお伺いしま

1. 概要シート 2. でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は概要シートに戻りお答えください。
「コース名」がない場合は概要シート 3. でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

12-1. 今回のコースで実施した授業での「話す(やりとり)」の目標(課題設定:Can Do)をお教えください。

- ・「どう～たらいいですか」を使って、やり方を聞くことができる。
- ・「AとBどちらが～ですか」「～は～より」「～のほうが(～)より」を使って、比べることができる。
- ・「～てしまいました」を使って、困ったことについて話すことができる。
- ・意向形を使って、友だちを誘ったり、提案することができる。
- ・「～くなる/～になる」を使って、変化について述べるができる。
- ・「～ないでください」を使って、気持ちを伝えることができる。

12-2. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースで実践した内容をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

※選択肢が何も表示されない場合、

概要シート3.「レベル・スタイル・目的」が入力できているかご確認ください。

※スタイルが「オンデマンド」「ハイフレックス」の場合、

6つ目の選択肢はないため「*****」と表示されます。☑は入れないでください。

- 初中級総合教材を活用した事前学習の後の「話す(やりとり)」を中心にした指導実践
- オリジナル教材を活用した事前学習の後の「話す(やりとり)」を中心にした指導実践
- 動画による語彙・文法の事前学習の後、それらを活用した会話を練習する指導実践
- 会話動画の事前視聴の後、語彙・表現等を習得する指導実践
- 事前にテーマを決めて準備した後日本人の会話パートナーを入れて会話する指導実践
- *****
- その他 具体的に

12-3. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでどのような授業を行ったか具体的にお教えください。

会話教材を事前に視聴してもらい、その動画の中の人間関係や、日本文化について話をしたり、日本と受講者の国の文化の違いについて話したりした。

12-4. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教材をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

「市販の教材」「日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材」をお使いの場合、具体的なメーカー名・教材名をお答えください。複数お使いの場合は、教材ごとにお答えください。

- 学校オリジナルの教材
- 個人作成の教材(パワーポイントなどで作成)
- 市販の教材
→→→ 具体的なメーカー名・教材名をお答えくださいの場合は、教材ごとにお答えください。
エリンが挑戦! にほんごできます
- 日本語学習用のWEBサイトやオンライン教材
→→→ 具体的なWEBサイト名(出版社・教材名)をお答えくださいの場合は、教材ごとにお答えください。
『エリンが挑戦!』にほんごできます。『コンテンツライブラリー』『みんなの日本語初級 本用』実証事業版
- 動画教材「遊べる 学べる」
- 動画教材「トラベル 学べる」
- 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材
- その他 具体的に

12-5. 「話す(やりとり)」言語活動について、今回のコースでお使いの教具をお選びください。
(複数回答可、あてはまるものに☑)

- スライド(パワーポイント等)
- フリップ
- フラッシュカード
- レアリア・生教材
- ピクチャーカード
- その他 具体的に

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに☑をお付けください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 「学習効果・成果」について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたか。日本語能力の伸長に関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを選んで、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化 共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えてください。

今回のコースでは総合教材として『エリンが挑戦! にほんごできます!』(国際交流基金)を使用した。コース参加者と同年代の日本の若者の日常生活、学校生活が題材となっているため、自国の文化と同じ部分や、違いについて知ることができたようである。

B1レベルの参加者に対して、今回のコースで使用した教材はやや簡単であるかと感じたが、実際に使用してみると、正確に言うことが出来なかったり、初級文法でも忘れていた項目があったりと、参加者自身の気付きにもつながったようである。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、**対面指導と違い**はありましたか。**対面指導と比較して、良かったこと/良くなかったことをその理由と合わせてお教えてください。**

オンラインの性質上、どうしても通信状況に左右される部分があり、コース内で参加者と動画を見ているときにスムーズに動画が見られず、カクカクした動きになったり、教師側の動画はスムーズに動いているが、参加者側では止まっていたりということがあった。

画面の操作の部分で、参加者を待たせてしまう場面もあり、その点はお互いのストレスになったように感じる。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは向上しましたか。(あてはまるものに☑)
「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについてお答えください。

- 非常に向上した
 やや向上した
 向上しなかった
 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。(あてはまるものに☑)

- ぜひ取り組みたい
 まあ取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、選学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。(あてはまるものに☑)

- ぜひ取り組むべき
 課題はあるが取り組むべき
 慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当者へ](#)

日本語学校オンライン授業実証実験 実施報告書



部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに口をお付けください。

ご報告いただく授業の概要についてお伺いします。

1. 学校名をお答えください。

ITカレッジ神風

2. 報告いただく授業の「コース名」をお答えください。

一般コース

3. 今回のコースの「レベル」「スタイル」「目的」の番号を入力欄にご入力ください。

	入力欄
レベル	1. A1 2. A2 3. B1 4. B2 5. C → 1
スタイル	1. オンラインのみ 2. ハイブリッド 3. オンデマンド 4. ハイフレックス → 2
目的	1. 進学 2. 就業 3. 一般 → 3

4. 今回のコースを実際に受講した人数を「対面」「オンライン（デバイス）」別にお答えください。
※複数の形式で受講していた受講生については「主に」利用されていた形式でお考えください。
(形式別の合計人数が今回のコースの受講人数となるように入力ください。)

対面	3	人
オンライン（タブレット）		人
オンライン（パソコン）		人
オンライン（スマートフォン）	5	人
合計	8	人

※計算式が入っています。お間違いのないかご確認ください。

5. 今回のコースの「授業日」「授業時間」「受講人数」をそれぞれお答えください。

	授業日（日にち） [月]と「日」を「/」で区切り半角で入力すると「月○日(曜日)」が表示されます	授業時間（分） 半角数字で入力	受講者数（人） 半角数字で入力
1)	9月20日(火)	120分	7人
2)	9月22日(木)	120分	8人
3)	9月27日(火)	120分	7人
4)	9月29日(木)	120分	5人
5)	9月30日(金)	120分	5人
6)	10月4日(火)	120分	7人
7)	10月7日(金)	120分	4人
8)	10月11日(火)	120分	6人
9)	10月13日(木)	120分	6人
10)	10月14日(金)	120分	5人
11)	10月17日(月)	120分	5人
12)	10月18日(火)	120分	5人
13)	10月20日(木)	120分	6人
14)	10月21日(金)	120分	6人
15)	10月25日(火)	120分	4人
16)	10月28日(金)	120分	4人
17)	10月31日(月)	120分	1人
18)	11月1日(火)	120分	6人
19)	11月4日(金)	120分	5人
20)	11月8日(火)	120分	6人
21)	11月10日(木)	120分	4人
22)	11月11日(金)	120分	3人
23)	11月15日(火)	120分	4人
24)	11月17日(木)	120分	5人
25)	11月18日(金)	120分	4人
26)	11月22日(火)	120分	3人
27)	11月24日(木)	120分	4人
28)	11月25日(金)	120分	4人
29)	11月29日(火)	120分	8人
30)	12月1日(木)	120分	5人

※計算式が入っています。お間違いのないかご確認ください。

実施期間

9月20日(火) ~ 12月26日(月)

実施日数

40日

総授業時間

4,800分

31)	12月6日(火)	120分	5人
32)	12月8日(木)	120分	4人
33)	12月9日(金)	120分	5人
34)	12月13日(火)	120分	7人
35)	12月15日(木)	120分	3人
36)	12月16日(金)	120分	5人
37)	12月20日(火)	120分	4人
38)	12月22日(木)	120分	3人
39)	12月23日(金)	120分	4人
40)	12月26日(月)	120分	4人
41)			
42)			
43)			
44)			
45)			
46)			

※実施が30日を超える場合、6～10の欄間に二回巻後、続き（31日目以降）を本シートの135行目以降に入力してください

6. 今回のコースの受講生の居住国（地域）をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに□）

<input type="checkbox"/> 韓国	<input type="checkbox"/> ミャンマー	<input type="checkbox"/> モンゴル	<input type="checkbox"/> フランス
<input type="checkbox"/> 中国	<input type="checkbox"/> インドネシア	<input type="checkbox"/> バングラディッシュ	<input type="checkbox"/> アメリカ
<input type="checkbox"/> 台湾	<input type="checkbox"/> フィリピン	<input checked="" type="checkbox"/> ネパール	<input checked="" type="checkbox"/> 日本
<input type="checkbox"/> タイ	<input type="checkbox"/> ベトナム	<input type="checkbox"/> スリランカ	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>

7. 今回のコースの受講生の年代をお選びください。（複数回答可、あてはまるものに□）

<input checked="" type="checkbox"/> 10代	<input checked="" type="checkbox"/> 20代	<input type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代以上
---	---	------------------------------	--------------------------------

8. 今回のコースで実施した言語活動をお選びください。（複数選択可、あてはまるものに□）

<input checked="" type="checkbox"/> 話す（やりとり）	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
<input checked="" type="checkbox"/> 話す（発表）	<input type="checkbox"/> 日本事情・日本理解
<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input type="checkbox"/> その他 <small>具体的に</small>
<input checked="" type="checkbox"/> 読む	

9. 本コースの授業概要をご記入ください

「話す」「聞く」「読む」「書く」の言語活動を通して日本語の基礎を学ぶ。毎授業、前回の復習を行い、学習の定着を図る。

10. 授業風景の写真を1枚、貼り付けてください。



[総合教材の使用へ](#)

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに□をお付けください。

一般コースの総合教材の使用についてお伺いします。

↑概要シート2.でお答えの「コース名」を表示しています。入力されていない方は前シートに戻りお答えください。「コース名」がない場合は概要シート3.でお答えの「レベル・スタイル・目的」の授業についてお答えください。

11-1. 今回のコースで複数の言語活動が含まれる「総合教材」を使って授業を行いましたか。（あてはまるものに□）

<input checked="" type="checkbox"/> 行った	→→→→→	下記11-2へ
<input type="checkbox"/> 行っていない	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

11-2. 今回のコースで「総合教材」を使った授業を行ったとのことですが、学習者の評価はどのようにされましたか。（複数回答可、あてはまるものに□）
※総合的、言語活動別、両方の評価をされた場合、両方をお選びください。

<input checked="" type="checkbox"/> 言語活動に関わらず、総合的に評価した	→→→→→	下記11-3へ
<input type="checkbox"/> 言語活動別に評価した	→→→→→	言語活動「話す（やりとり）」へ

11-3. 今回のコースで「総合教材」を使った授業において「総合的に評価した」とのことですが、それぞれの言語活動の目標に対してどのように達成を図りましたか。具体的にお教えてください。

【話す（やりとり）】では、授業で教えた内容から派生して学生の意見や感じたことを日本語で話せるようになってもらうことを目標とし、教師と学生、学生と学生でのQ&Aを多く取り入れ、自然と日本語でのやりとりができるような環境づくりに努めた。
【話す（発表）】では、自分の身の回りで起きていることやおすすめ、意見等を日本語で言えることを目標とし、教科書に出て来た表現を使用して作文させ、全員の前で発表させた。
【聞く】では、ある場面の会話を聞いて、状況や内容をイメージできることを目標とし、各線の文型を導入するとき、また一定の練習を終えた後の理解度チェックとしてリスニング問題をさせた。
【読む】では、まとまった文を読み、内容理解することを目標とし、文章に対する質問で理解度を確認した。
【書く】では、基本的な漢字の書き取りと簡単な作文作成を目標とした。

[言語活動「話す（やりとり）」へ](#)

部分にご入力ください。選択肢が用意されている項目については、あてはまるものに口をお付けください。

今回のコースや事業全体についてお伺いします。

19. 「学習効果・成果」について、今回のコース終了時、学習者の能力やスキル、意識は向上しましたか。日本語能力の伸びに関する分析のほか、学習動機が高まったかどうか、国内・海外の多様な学習者がオンラインによる協働学習に取り組むことを通じて、オンラインスキルや異文化理解、学習者の多文化共生に対する認識に変化が見られたなど、具体的にお教えてください。

向上心のある学習者は初回と比べて日本語スキルは上がったと感じる。また、授業を通して教師及び学習者間の仲も深まり、教科書の内容だけでなくお互いについて日本語で話す機会が多くあり、自然なやりとりを行うことができた。学習者は全員ネパール人だったため、異文化交流はなかったが、日本にいるネパール人（対面）とネパールにいるネパール人（オンライン）同士での会話も多くあり、特に、これから日本に留学予定の学習者にとっては、来日後のイメージができ、何かあったら頼れる人もできたという点から、とても有意義な時間だったのではないかと思う。

20. 今回のコースの「オンライン」での指導について、対面指導と違いはありましたか。対面指導と比較して、良かったこと/良くなかったことをその理由と合わせてお教えてください。

良かった点ipadのGoodnoteアプリを使用したことで、教科書をはじめ、対面で使用する絵カードを、ipad上に映したり、ある写真を見せたいときに瞬時に映し出せたりできたため、対面のときと同じ流れで授業ができた。

良くなかった点授業の様子や教科書は全てオンライン上に映し出すことができたが、オンラインの受講者は皆、スマートフォンでの受講だったため、見にくかったかと思う。特に、ひらがな、カタカナ、漢字をすらすら読めない人もいたため、初級日本語の学習者にとっては、スマートフォンでの受講は十分な環境ではなかったと感じている。学習者がストレスに感じていないかが気になる。また、視覚情報が、スマートフォンの画面しかなく、教師にとってもオンライン学習者の様子は画面からしか把握できないため、オンライン学生と対面学生のペースを合わせるのが難しかった。

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは向上しましたか。（あてはまるものに口）「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについてお答えください。

- 非常に向上した
 やや向上した
 向上しなかった
 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。（あてはまるものに口）

- ぜひ取り組みたい
 まあ、取り組みたい
 取り組みたくない

23. 日本語教育機関が数日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。（あてはまるものに口）

- ぜひ取り組みべき
 課題はあるが取り組みべき
 慎重にすべき
 必要性を感じない

[今回のコース担当まで](#)